佐久市文化財

年報14

平成16年度

長野県佐久市教育委員会

佐久市文化財

年　報 14

平成16年度

長野県佐久市教育委員会

目　　次

I　指定文化財等保護事業

1　国・県・市指定文化財 …… 1
2　普及・公開事業 …… 2

II　埋蔵文化財事業

1　保護・保存事業 …… 2
（1）記録保存 …… 2
1）概要 …… 2
2）発掘調査・整理作業 …… 3
3）整理作業 …… 3
4）試掘・立会調査 …… 3

2　普及・公開事業 …… 4

3　分析・鑑定 …… 4

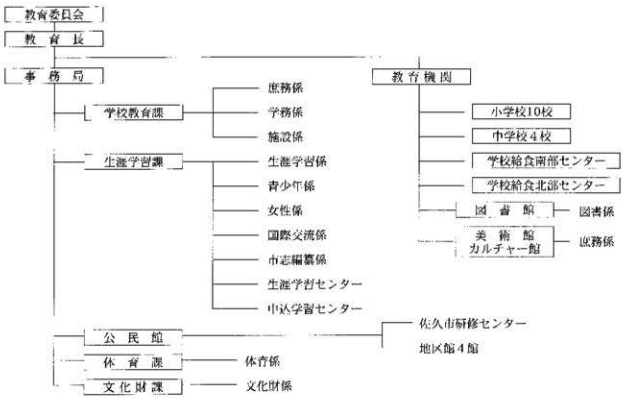
4　調査概要 …… 5
1　大奈良遺跡 …… 5
2　西一本柳遺跡XII …… 6
3　西村中遺跡 …… 7
4　西一里塚遺跡II …… 8
5　戸坂遺跡III …… 9
6　扇田遺跡 …… 10
7　野沢館跡VII …… 11
8　下曽根遺跡VIII …… 12
9　市道遺跡III・辻遺跡 …… 13
10　平馬塚遺跡I …… 14
11　下信濃石遺跡 …… 15

5　調査報告書 …… 17

1　西近津遺跡群　西近津遺跡II …… 17
2　一本柳遺跡群　北一本柳遺跡II …… 39
3　一本柳遺跡群　西一本柳遺跡X（奈良時代） …… 63
4　芝宮遺跡群　下曽根遺跡IX …… 95
5　中原遺跡群　桑の木遺跡V …… 119

指定文化財位置図

組　織　図



体　制

佐久市教育委員会

教育長	高柳　勉
教育次長	赤羽根寿文
文化財課長	小林正衛
文化財係長	高村博文
文化財係	林　幸彦、須藤隆司、小林良寿、羽毛田卓也、冨沢一明、上原　学、赤羽根太郎、出澤　力
調査主任	佐々木宗昭、森泉かよ子
調査副主任	堺　益子

文化財保護審議委員会

会長	鈴木公人
職務代理	清水岩夫
委員	小林徳雄、堀籠好夫、小林寿三、並木良子、小栗　集

資料館協議委員会

会長	小林浜治郎
職務代理	柳沢　陽
委員	上原　泉、相沢昭子、中沢文男、久保田延幸、鈴木公人

Ⅰ　指定文化財等保護事業

1　国・県・市指定文化財（国指定８件・県指定14件・市指定39件、合計61件）

指定文化財一覧表

No.	指定区分	文化財名	名　称	員数	所在地	所有者	指定年月日
1	国指定	史跡	旧中込学校	1ヶ所	中　込	佐久市	S 44.4.12
2	国指定	重要文化財	駒形神社本殿（附：棟札４枚）	1棟	下塚原	駒形神社	S 24.5.30
3	国指定	重要文化財	紙本著色一遍上人絵伝　巻第二	1幅	野　沢	金台寺	S 9.1.30
4	国指定	重要文化財	紙本墨書他阿上人自筆板名消息	1幅	野　沢	金台寺	S 9.1.30
5	国指定	重要文化財	旧中込学校校舎（附：建築文書３点）	1棟	中　込	佐久市	S 44.3.12
6	国指定	重要文化財	鉄鉾	1	跡　部	藤沢孝治	S 52.6.11
7	国指定	無形民俗文化財	跡部の踊り念仏	1	跡　部	跡部踊り念仏保存会	11.12.12.27
8	国指定	天然記念物	岩村田ヒカリゴケ産地	1ヶ所	岩村田	佐久市	T 10.3.3
9	県指定	県宝	西念寺木造阿弥陀如来坐像	1軀	岩村田	西念寺	S 34.11.9
10	県指定	県宝	正法寺木造地蔵菩薩半跏倚像	1軀	根々井	正法寺	S 44.5.15
11	県指定	県宝	版本大般若経	557巻	安　原	安養寺	S 63.3.24
12	県指定	県宝	貞祥寺三重塔	1	前　山	貞祥寺	H 4.9.10
13	県指定	県宝	安養寺木造阿弥陀如来及び両脇侍立像	3軀	安　原	安養寺	H 6.7.22
14	県指定	県宝	貞祥寺惣門及び山門	2棟	前　山	貞祥寺	H 15.4.21
15	県指定	史跡	三河田大塚古墳	1基	三河田	柳沢茂	S 37.7.12
16	県指定	史跡	伴野城跡	1	野　沢	大伴神社・佐久市	S 40.4.30
17	県指定	史跡	根井氏館跡	1	根々井	正法寺	S 40.7.29
18	県指定	史跡	北斎神師碑碑	1基	岩村田	龍雲寺	S 44.10.2
19	県指定	史跡	大井城跡（千城・黒岩城）	1	岩村田	個人 31 名	S 46.5.27
20	県指定	史跡	平賀氏城跡	1	平　賀	個人 37 名	S 46.5.27
21	県指定	史跡	岩尾城跡	1	鳴　瀬	個人 39 名	S 46.5.27
22	県指定	天然記念物	王城のケヤキ	1	岩村田	荒宿十二社	S 61.3.27
23	市指定	有形文化財	金台寺の鐘	1	野　沢	金台寺	S 46.10.1
24	市指定	有形文化財	竹田の鐘（　）	1	根　岸	工藤光吉	S 46.10.1
25	市指定	有形文化財	竹田の鐘（　）	1	根　岸	上郷勇祐	S 46.10.1
26	市指定	有形文化財	永禄十一年上原城前御思御検地帳	2冊	瀬　戸	柳沢満	S 49.12.1
27	市指定	有形文化財	下桜井村宮水の五人組帳	1	桜　井	臼田繁雄	S 49.12.1
28	市指定	有形文化財	龍源院木造地蔵菩薩坐像	1軀	南岩尾	龍源院	S 49.12.1
29	市指定	有形文化財	取出町百番観音	100軀	取　出	取出区	S 49.12.1
30	市指定	有形文化財	平尾大社本殿	1棟	上平尾	平尾大社	S 49.12.1
31	市指定	有形文化財	平賀村中善寺大般若経	600巻	平　賀	中善寺	S 49.12.1
32	市指定	有形文化財	旧長命寺「十堂地水在銘石柱	1基	大　沢	長命寺	S 51.9.25
33	市指定	有形文化財	開基在銘板碑	1	中　込	正楽寺	S 57.3.1
34	市指定	有形文化財	安養寺木造法燈国師倚像	1軀	安　原	安養寺	S 62.10.20
35	市指定	有形文化財	安養寺中世文書	7点	安　原	安養寺	S 62.10.20
36	市指定	有形文化財	猿沢遺跡出土遺物	一括	（小宮山）	佐久市	S 62.10.20
37	市指定	有形文化財	北西ノ久保遺跡出土埴輪	一括	（岩村田）	佐久市	S 62.10.20
38	市指定	有形文化財	上直路遺跡出土遺物	一括	（岩村田）	佐久市	S 62.10.20
39	市指定	有形文化財	周防原B遺跡出土遺物	一括	（長土呂）	佐久市	S 62.10.20
40	市指定	有形文化財	龍の塞古墳出土遺物	一括	（根　岸）	佐久市	S 62.10.20
41	市指定	有形文化財	中道遺跡出土遺物	一括	（野　沢）	佐久市	S 62.10.20
42	市指定	有形文化財	東一本柳古墳出土遺物	一括	（岩村田）	佐久市	S 62.10.20
43	市指定	有形文化財	龍雲寺中世文書	38点	岩村田	龍雲寺	S 62.10.20
44	市指定	有形文化財	大井法華堂修験関係文書	859点	岩村田	大井道也	H 1.11.6

No.	指定区分	文化財名	名　称	員数	所在地	所有者	指定年月日
45	市指定	有形文化財	木造受災明王坐像及び両脇侍木造両界大日如来坐像	3躯	志　賀	法善寺	H 1.11.6
46	市指定	有形文化財	旧大沢小学校	1棟	大　沢	佐久市	H 8.6.6
47	市指定	有形文化財	倉沢薬師堂(附:宮殿・石像薬師如来立像・加舎白銀自筆奉納俳額)	4	前　山	貞祥寺	H 10.4.30
48	市指定	有形文化財	正法寺多層塔	1基	根々井	正法寺	H 10.12.28
49	市指定	史跡	鵜鶘沢端・里塚東塚	1基	岩村田	関口芳幸	S 45.10.1
50	市指定	史跡	大梅禅師墓碑	1基	内　山	正安寺	S 45.10.1
51	市指定	史跡	安原大塚古墳	1基	安　原	英多神社	S 45.10.1
52	市指定	史跡	北西ノ久保石造塔婆群	1群	岩村田	井上行雄	S 49.12.1
53	市指定	史跡	正楽院供養塔	1	平　賀	長福寺	S 49.12.1
54	市指定	史跡	前山城跡	1	前　山	個人11名	S 56.4.23
55	市指定	史跡	後沢道跡	2基・5棟	小宮山	佐久市	S 62.10.20
56	市指定	史跡	龍の峯古墳群	4基	根　岸	個人6名	S 62.10.20
57	市指定	名勝	皎月原	1	小田井	佐久市	S 53.2.1
58	市指定	天然記念物	白山神社のイチヰ古樹	1	常　和	白山神社	S 45.10.1
59	市指定	天然記念物	野沢町の男女木	1	野　沢	大伴神社	S 46.10.1
60	市指定	天然記念物	チョウゲンボウ生息地	2ヶ所	伴野・鳴瀬	佐久市	S 53.2.1
61	市指定	無形民俗文化財	岩村田祇園祭におけるお船様祭り	1	岩村田	荒宿区	S 58.9.1

2　普及・公開事業

旧中込学校入館者数　　8,275人（開館日数302日）
藤村旧宅入館者数　　2,412人（開館日数138日）

II　埋蔵文化財事業

1　保護・保存事業

（1）記録保存

1）概要

開発原因者		調査実施数					報告書刊行
		発掘	試掘	立会	整理	計	
国県市等	国・県補助				1	1	1
	国土交通省						
	佐久建設事務所	3	5	3	1	12	
	佐久市土地開発公社	1					
	佐久市	4	2	12	2	20	3
	その他公共団体	1	1	1		3	2
個人・民間企業		4	16	9	2	31	4
学術調査							
合計		13	24	25	7	68	11
	原因者負担	13			6	19	10
	国・県補助		24	25		49	1

2）発掘調査・整理作業

№.	遺跡名／調査面積	所在地／事業	備　　考
1	大奈良遺跡／1,700㎡	佐久市田口／農道整備	住居17(縄文・古墳)、敷石住居3、土坑71　第131集
2	西一本柳遺跡ＸⅡ／280㎡	佐久市岩村田／集合住宅建設	住居6（古墳～奈良）、掘立2、竪穴状遺構6、土坑38第　125集
3	西村中遺跡／1,245㎡	佐久市根岸／老人福祉施設建設	溝3、土坑2、ピット34、黒色包含層　第123集
4	梨の木遺跡Ⅴ／150㎡	佐久市中込・三河田／宅地造成	土坑2、溝1、ピット21
5	西一里塚遺跡Ⅱ／791㎡	佐久市平塚・根々井／道路改良	溝2、土坑1、ピット
6	戸坂遺跡Ⅲ／230㎡	佐久市新子田／鉄塔建替	住居3、掘立2、土坑11、ピット40　第129集
7	扇田（開戸田）遺跡／1,400㎡	佐久市内山／道路改良	住居址14(古墳)、土坑4、溝、堀立柱建物址
8	野沢館跡Ⅶ／448㎡	佐久市野沢／道路改良	石組遺構、堀（中～近世）第128集
9	前田遺跡Ⅴ他／167㎡	佐久市小田井／道路改良	住居7（奈良・平安）、土坑1、溝2、堀立柱建物址
10	下曽根遺跡Ⅸ／116㎡	佐久市小田井／道路改良	住居5（古墳～平安）、土坑2、溝1　ピット7
11	市道遺跡Ⅲ他／2,892㎡	佐久市跡部・三塚／道路改良	住居55、掘立18、竪穴状遺構9、溝3、土坑55
12	平馬塚遺跡／330㎡	佐久市桜井／宅地造成	竪穴状遺構3、土坑37、溝2、ピット（中世）　第130集
13	下信濃石遺跡／883㎡	佐久市岩村田／区画整理事業	寺院関連址1、建物址10、土坑47、溝6、ピット258

3）整理作業

№.	遺跡	名所在地	備　　考
1	聖原遺跡（第4、5分冊）	佐久市長土呂	佐久市埋蔵文化財調査報告書第122・126集
2	西一本柳遺跡Ｘ	佐久市岩村田	佐久市埋蔵文化財調査報告書第127集
3	西近津遺跡Ⅱ	佐久市長土呂	
4	地ヶ入遺跡他	佐久市志賀他	
5	後家山遺跡	佐久市平賀・瀬戸	佐久市埋蔵文化財調査報告書第121集
6	野沢館跡Ⅵ	佐久市野沢	佐久市埋蔵文化財調査報告書第132集

4）試掘・立会調査

№.	遺　跡　名	所在地	調査面積(㎡)	開発面積(㎡)	調査期日	種別
1	開戸田遺跡2	内　山	290	2,801.39	H 16.4.19,20	試掘
2	中原遺跡群29	中　込	296	1,671.53	H 16.4.20 ～ 22	試掘
3	蛇塚A遺跡群（蛇塚遺跡群15）	安　原	194	1,613	H 16.4.28	試掘
4	東大久保遺跡群7	上平尾	205	1,243	H 16.4.30 ～ 5.1	試掘
5	蛇塚B遺跡群（蛇塚遺跡群16）	新子田	400	1,965.01	H 16.4.26 ～ 28	試掘
6	東大久保遺跡群8	上平尾	46	250	H 16.5.20	試掘
7	末岡知	内　山	16	345	H 16.5.19	試掘
8	石田遺跡（隣接）	志　賀	85	787	H 16.6.28	試掘
9	下荒水遺跡（隣接）	内　山	160	1,629.77	H 16.6.24	試掘
10	市道遺跡Ⅲ他	跡部他	2,834	30,000	H 16.7.5 ～ H 17.3.31	試掘
11	周防畑遺跡群23（隣接）	塚　原	1,226	8,616	H 16.11.22 ～ 12.1	試掘
12	長土呂遺跡群29	長土呂	240	1,214	H 16.7.16	試掘
13	曽根城跡	小田井	30	149.13	H 16.7.29	試掘
14	西一里塚遺跡群4	根々井	304.5	2,502.16	H 16.8.3 ～ 4	試掘
15	宮の後遺跡群（岩村田遺跡群83）	岩村田	190	1,540	H 16.9.22	試掘
16	扇田遺跡（坪の内遺跡2）	内　山	500	3,588.07	H 16.10.28 ～ 30	試掘
17	一本柳遺跡群（岩村田遺跡群84）	岩村田	270	2,513	H 16.11.2	試掘
18	西妻神遺跡2	中　込	200	3,550	H 16.10.6・12.3	試掘
19	長土呂遺跡群30	長土呂	2,666	9,488	H 16.10.14 ～ 18・11.16.17	試掘
20	宮の上遺跡群12	根々井	514	2,219	H 16.12.14,15	試掘
21	中原遺跡群30	中　込	16	224.35	H 16.12.24	試掘
22	樋村遺跡群6	平　賀	220	4,621	H 17.2.3,4・3.14,15	試掘
23	栗毛坂遺跡群35	岩村田	214	1,749	H 17.2.14	試掘
24	一本柳遺跡群（岩村田遺跡群85）	岩村田	273.3	1,578	H 17.3.3,4	試掘
25	芝宮遺跡群20	長土呂		1,730	H 16.6.28	立会
26	城下遺跡群4（隣接）	内　山		1,578	H 16.4.6	立会
27	野沢館跡10	野　沢		666.63	H 16.4.19	立会
28	跡坂遺跡群11・中金井遺跡群10	小田井		1,710.95	H 16.5.11 ～ 8.20	立会
29	一本柳遺跡群（岩村田遺跡群86）	岩村田	8.5	314	H 16.6.30	立会
30	宮の上遺跡群13	横　和		1,520	H 16.8.24 ～ 26	立会
31	松木谷遺跡	常　和		290	H 16.6.29,30	立会
32	常田居屋敷遺跡群13	塚　原		600	H 16.7.14	立会

No.	遺跡名	所在地	調査面積(㎡)	開発面積(㎡)	調査期日	種別
33	大和田屋敷遺跡群	鳴瀬		152	H 16.7.29・8.2	立会
34	松の木遺跡6（簡投）	岩村田		1,705.81	H 16.7.8	立会
35	新子田明神の木遺跡	新子田		226	H 16.8.23～27	立会
36	雷塚遺跡群2	横和		116	H 16.8.2.4.26	立会
37	樋村遺跡群7	平賀		1,462	H 16.10.1～8	立会
38	木柳遺跡群（岩村田遺跡群87）	岩村田		833	H 16.8.10	立会
39	鳴瀬中屋敷遺跡群	鳴瀬		189	H 16.9.16	立会
40	馬瀬口遺跡群（簡投）	新子田		1944	H 16.8.6	立会
41	香坂屋敷遺跡	香坂		312	H 16.9.13～15	立会
42	海老塚家遺跡2	志賀		250	H 16.9.16～18	立会
43	塚ヶ沢A遺跡2	内山		1655	H 16.9.3～11.11	立会
44	野沢原跡11	野沢		150	H 17.1.12	立会
45	西妻神遺跡3	猿久保		900	H 16.10.25	立会
46	新町遺跡8	平賀		179.33	H 17.2.14	立会
47	蛇塚A遺跡群（蛇塚遺跡群17）	新子田		213.69	H 17.3.8	立会
48	深堀遺跡群5	瀬戸		500.48	H 16.8.2	立会
49	東五里田遺跡5（簡投）	野沢		32,538	H 17.1.11	立会

2 普及・公開活動

(1) 第25回 少年考古学教室
開催地 文化財課事務所　　開催日 平成16年8月5日
参加者 市内小中学生他 46名　　内 容 火おこし・勾玉作り

(2) 大奈良遺跡現地説明会
開催日 平成16年4月17日
参加者 地元区民を中心に 約90名

(3) 市道遺跡Ⅲ・辻遺跡現地説明会
開催日 平成16年11月26日・平成16年12月6日
参加者 （11月26日）一般参加者約30人・（12月6日）地元中学生15人

(4) 文化財展示資料展示室利用状況
入場者数 265名　　（市内 205名　県内 56名　県外4名）

3 分析・鑑定

	遺跡名	種別	内容
1	東一本柳古墳	保存処理	鉄製品
2	仲田遺跡	保存処理	鉄製品
3	上ノ城遺跡	保存処理	鉄製品
4	前田遺跡V他	保存処理	鉄製品
5	御戸田遺跡他	保存処理	鉄製品
6	西一本柳遺跡X	分析	炭化材年代測定・樹種、骨片（自然化学分析）・黒曜石産地推定
7	地ヶ入遺跡他	分析	石器微細剥離痕分析
8	大奈良遺跡	分析	炭化材、土壌、岩石（自然化学分析）

1　大奈良遺跡

所 在 地　佐久市田口字金石3894～3889
調査委託者　臼田町
開発事業名　ふるさと農道緊急整備事業
調 査 期 間　平成16年４月１日～５月14日
調 査 面 積　1,700㎡
調査担当者　須藤　隆司

大奈良遺跡位置図（1:50,000）

経過と立地

大奈良遺跡は千曲川右岸の河岸段丘に立地し、『臼田町遺跡詳細分布調査報告書』には縄文時代中期・弥生時代後期・古墳時代・平安時代の遺跡として登録されていた。今回、臼田町が遺跡内にふるさと農道緊急整備事業として道路建設を計画したため、臼田町が平成15年10月１・２日の両日で試掘調査を実施したところ、縄文時代の遺物が大量に出土し、遺跡保存の必要性が生じた。そこで、臼田町より委託を受けた佐久市教育委員会が記録保存を目的とする発掘調査を行う運びとなった。平成16年度の調査は、平成15年11・12月に行った発掘調査の継続調査である。

調査の概要

平成15・16年度の調査で古墳時代の竪穴住居址２軒と縄文時代中期の竪穴住居址15軒・敷石住居址２軒・土坑71基、縄文時代後期の敷石住居址１軒が検出され、縄文時代中期の拠点的な集落の存在が判明した。出土した膨大な遺物は、縄文時代が主体であるが、特記できることは3,498点にも及ぶ打製石斧とその製作・再生剥片が多量に検出されたことである。

J1号住居址

2　西一本柳遺跡ＸⅡ

所 在 地　佐久市岩村田字下樋田1733－1
調査委託者　井上　寅雄
開発事業名　集合住宅建設事業
調 査 期 間　平成16年４月３日～４月26日（現場）
調 査 面 積　280㎡
調査担当者　冨沢　一明

西一本柳遺跡ＸⅡ位置図（1:50,000）

経過と立地

一本柳遺跡群は、佐久市岩村田地籍に所在し、東西方向に流れる湯川右岸の台地上にある。当遺跡群はこの台地上を東西方向に長く帯状に展開し、中央から西を西一本柳遺跡、東半分を東一本柳遺跡、北側を北一本柳遺跡とそれぞれ呼称する。昭和46年には遺跡群内に所在する東一本柳古墳が発掘調査され、石室内より金銅製の飾り馬具や鉄製の異形鏃などが発見され注目を集めた。また、近年は遺跡群内を国道141号線バイパスが南北に建設されると共に道路周辺部の開発によるこれらの発掘調査により西一本柳遺跡が市内でも有数の大複合遺跡であることが明らかにされつつある。

今回、遺跡群内に井上寅雄により集合住宅の建設が計画された。因って教育委員会では文化財保護法の届出を受け試掘調査を行った。その結果遺構が発見され、保護協議がなされ遺跡破壊の恐れがある部分については記録保存を目的とする発掘調査を行うこととなった。

調査の概要

調査によって、古墳～奈良時代の竪穴住居址及び中世の集落址の一部が検出された。今回の調査地点では弥生時代中期・後期の集落址は確認されなかったことから、隣接する北西の久保遺跡と西一本柳遺跡の弥生集落は別集落の可能性が指摘できた。

調査遺構　竪穴状遺構　６軒　　掘立柱建物址　２棟　　竪穴状遺構　６基　　土坑　38基
出土遺物　土師器・須恵器・鉄製品（鎌・釘・刀子）・カワラケ・陶磁器類・土錘・硯・古銭

西一本柳遺跡ＸⅡ調査区全景（北より）

3　西村中遺跡

所 在 地　佐久市根岸字阿らや115
調査委託者　佐久市土地開発公社
開発事業名　佐久市西部地区老人福祉拠点施設整備事業
調 査 期 間　平成16年４月19日～５月14日・７月８日
調 査 面 積　1,245㎡
調査担当者　出澤　力

西村中遺跡位置図（1:50,000）

経過と立地

西村中遺跡は佐久市根岸地籍にあり、佐久市の南西部に当たる。遺跡の周辺は水田が続く田園地帯であり、北西側には立科山麓の末端を見ることが出来る。遺跡周辺では北側の丘陵部で後沢遺跡、中村遺跡、筒村Ｂ・山法師遺跡などの縄文時代の遺跡が、西方の棒名平遺跡では縄文～中世にかけて、特に中世の土豪の屋敷跡と思われる遺構が確認されている。また対象地から北西に目をやれば虚空蔵山の狼煙台がある。

平成15年度に佐久市土地開発公社により計画された佐久市西部地区老人福祉拠点施設整備事業に伴う試掘調査によって、計画対象地内の一部で遺構・遺物の存在が確認された。その結果を踏まえ保護協議が行われ、結果、遺構の確認された部分について、記録保存を目的とした発掘調査が行われることとなった。

調査の概要

西村中遺跡は、遺跡南側から南西に伸びる舌状の微高地に遺跡が立地する。試掘調査では対象地北側や西側の一部で２m以上の堆積を認める泥炭層が確認されており、本遺跡が微高地の舌端部に当たることが認められた。

今回の調査では遺構確認面で多くの土器片・黒曜石片を認めたがその土器片のほとんどは表面が著しく摩耗した状態で発見されている。おそらく周囲の河川などの水の作用によって本対象地周辺に存在する遺跡から流れ込み、堆積した物と考えられる。出土した縄文土器片は縄文時代中期後葉から後期のものであるが、これらについては周辺の遺跡から流入した物であろう。

今回の調査によって確認された遺構・遺物は以下の通り。

検出遺構　溝状遺構　３条　　土坑　２基
出土遺物　縄文土器（深鉢）　弥生土器　土師器　須恵器　黒曜石片

◀西村中遺跡　遠景（虚空蔵山頂より）
▲西村中遺跡　近景（東より）

4　西一里塚遺跡Ⅱ

所 在 地　佐久市根々井1054－2他
調査委託者　佐久建設事務所
開発事業名　道路改良事業
調 査 期 間　平成16年５月19日～６月３日
　　９月17日～11月３日
調 査 面 積　794㎡
調査担当者　羽毛田卓也　出澤　力

西一里塚遺跡Ⅱ位置図（1:50,000）

経過と立地

本遺跡が所在する西一里塚遺跡群は根々井・平塚地籍に位置し、長上呂より南下する帯状低地に挟まれた標高684m内外の帯状微高地に広がる。

遺跡群内でこれまで発掘された遺跡では、餅田遺跡、西一里塚遺跡の第一次調査などがあり、特に西一里塚遺跡では弥生時代後期の竪穴住居址11軒、土坑７基、溝址６条と、環濠と思われる溝址を確認している。

佐久建設事務所により計画された県単道路改良事業（塩名田佐久線）に伴い、平成15年度より記録保存を目的とした発掘調査を実施している。平成16年度も、継続して道路拡張部分の発掘調査が行われた。

調査の概要

今回、濁川を挟んで東側と西側、合わせて２箇所において発掘調査が行われた。便宜上東側をＡ地点、西側をＢ地点とする。各地点で確認された遺構・遺物は以下の通り。

Ａ地点	**○検出遺構**	溝状遺構　１条	黒色包含層
	○出土遺物	弥生土器（壺・高坏・甕・浅鉢）	木製品
Ｂ地点	**○検出遺構**	溝状遺構　１条　土坑　１基	ピット34基
	○出土遺物	弥生土器　石器	

Ａ地点で確認された溝址は表土中から弥生土器を検出し、集落を巡る溝址ではないかと考えられる。包含層は溝址が埋まった址に堆積した物と考えられ、溝址とは時間差があると伺える。包含される土器片は弥生土器である。

Ｂ地点は、表面を削平、または土壌の移動を受けており、遺構の上部は破壊された可能性が高い。土器を多量に含む撹乱層の下より土坑、ピット等を確認したが、特にピットは住居址の柱穴であった可能性がある。溝址は調査区の西側で確認されたが、その位置、形状は集落を囲む環濠とは異なっている。

Ａ地点　溝址

Ｂ地点　ピット出土状況

5　戸坂遺跡Ⅲ

所在地　佐久市新子田字戸坂1090－2・字星谷端979・道端961－1
調査委託者　東京電力株式会社
開発事業名　南佐久線No.15～25鉄塔建替工事
調査期間　平成16年７月26日～８月18日
調査面積　230.2㎡
調査担当者　出澤　力　佐々木　宗昭

戸坂遺跡Ⅲ位置図（1:50,000）

経過と立地

戸坂遺跡Ⅲは佐久市新子田字戸坂、星谷端、道端に所在する。当地は湯川東岸に接する浅間軽石流堆積物による台地上の東端に立地し、標高は703～４m内外を測る。周辺では戸坂遺跡Ⅰ・Ⅱ、供養塚遺跡、四ツ塚遺跡Ⅰ・Ⅱ、四ッ塚古墳などの遺跡調査が行われている。

今回、東京電力株式会社により鉄塔建替工事が行われることとなり、南佐久線No.18・20・22号鉄塔の建替について、対象地が戸坂遺跡都内に立地し各対象地が極めて小規模な範囲であることから、試掘調査は行わず、対象地の表土を除去後、各鉄塔部分３ヶ所について記録保存を目的とした発掘調査が行われることとなった。

調査の概要

３ヶ所の対象地について、北からNo.１～３調査区と便宜上名付け、発掘調査を行った。各調査区で確認された遺構・遺物は以下の通り。

No.１調査区	○検出遺構	土坑　１基　　ピット　１基
	○出土遺物	土師器（甕）　須恵器（短頸壺・蓋）
No.２調査区	○検出遺構	掘建柱建物址　１棟　　土坑　４基　　ピット　36基
	○出土遺物	土師器（坏・甕）　須恵器（坏・甕）
No.３調査区	○検出遺構	竪穴住居址（弥生時代後期）　３軒　　掘立柱建物址（平安時代）　１棟 土坑　６基　　ピット　３基
	○出土遺物	縄文土器　　弥生土器(壷・甕・鉢・高坏・蓋)　　土師器(坏)　　須恵器(坏・甕)

今回の調査と、これまで近隣で行われた発掘調査の成果を鑑みると、本遺跡周辺の集落の変遷、つまり弥生時代集落は台地の縁辺に立地し、台地の中央には奈良時代集落、そして平安時代の集落はほぼ台地上全体に広く分布すると考えられる。

No.2調査区　全景（南から）

No.3調査区　全景（南から）

6　扇田遺跡

所在地　佐久市内山字扇田7174、7175、7176外
調査委託者　佐久建設事務所
開発事業名　道路改良事業
調査期間　平成16年７月５日～９月24日（現場）
　　11月８日～12月17日（現場）
調査面積　1,400㎡
調査担当者　上原　学

扇田遺跡位置図（1:50,000）

経過と立地

扇田遺跡は佐久市内山地籍の標高708～710mを測る滑津川右岸の氾濫源沖積地上に位置し、これまで遺跡の不鮮明な地域であった。

今回、佐久建設事務所による道路改築工事（佐久市平賀バイパス）が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。結果、古代の住居址、溝跡等の遺構が認められたため、記録保存を目的として発掘調査を実施した。

調査の概要

古墳・平安時代の住居址、掘立柱建物址、土坑、ピット、溝跡の調査を行った。調査区西側一帯は低地帯が広がり、幾筋もの流露と思われる溝跡が確認できた。覆土内には縄文時代から平安時代の遺物が含まれるが、主体は５世紀後半～６世紀代の古墳時代である。この低地の東側は東方向から舌状に台地が張り出し、古墳時代から平安時代の住居址が新旧切り合いながら密集して掘り込まれている。調査遺構・遺物の詳細は以下の通りである。

遺　構　竪穴住居址　14軒
　　土　　坑　４基
　　溝　　跡、掘立柱建物址

遺　物　土師器、須恵器、灰釉陶器
　　鉄製品（鎌、刀子）
　　石器・石製品（打製石斧・砥石・掲臼）

扇田遺跡　M1号溝跡調査風景（西から）

扇田遺跡M１号溝跡遺物出土状況

扇田遺跡東側調査区全景（北西から）

扇田遺跡H２号住居址カマド（西から）

7　野沢館跡Ⅶ

所 在 地　佐久市原480－5・野沢78－2　他
調査委託者　佐久市（都市計画課）
開発事業名　まちづくり総合支援事業
調 査 期 間　平成16年７月12日～30日
・８月17日～19日・９月１日～22日
調 査 面 積　1,982㎡
調査担当者　羽毛田　卓也

野沢館跡Ⅶ位置図（1:50,000）

経過と立地

野沢館跡は、佐久市原、野沢に所在し、佐久地方南西部の甲武信ヶ岳に源を発し、佐久市中央を北進する一級河川「千曲川」によって成立した西側の低河岸段丘（標高682～686m）に展開する平安時代末期から中世にかけての居館跡である。本館跡は平成３・11・13・14・15年度に部分調査され、中世から近世にかけての遺構や遺物が検出された。今回の調査は、本館跡中央部（主郭・県史跡伴野城跡）の周辺（外郭内）に位置する。

今回、佐久市が行う国庫補助まちづくり総合支援事業「野沢散策路事業」に伴い、佐久市建設部都市計画課と佐久市教育委員会とで協議の結果、現在の地表面より50～140cm を調査深度とし、破壊されないそれ以下については保存することとなり、委託を受けた佐久市教育委員会が主体となって発掘調査を行う運びとなった。

調査の概要

上下水道・ガス・水路・排水路等の破壊を免れた部分、野沢館跡として重要な部分を調査区として絞り込み、確認調査及び発掘調査が行われた。結果、中世から近世にかけての柱穴群や組石遺構を検出し中世～近世の建物址群の存在が確認されたこと、また平成14年度に調査が行われた野沢館跡Ⅳで確認された主郭の堀の南側のラインを想定する資料を得ることが出来た。今回の調査で発見された遺構・遺物は、堀、土塁そしてその周辺の町屋を含め大規模に整備された防御機能を持つ中世城郭「野沢城」としての野沢館に当たるものであった。

南側堀検出状況（東より）

石組み遺構完掘状況

8　下曽根遺跡Ⅷ

所 在 地　佐久市小田井131－3外
調査委託者　佐久市（高速交通課）
開発事業名　国補　交通安全施設等整備事業
調 査 期 間　平成16年７月26日～８月12日（現場）
調 査 面 積　167㎡
調査担当者　上原　学

前田遺跡Ⅴ他（下曽根遺跡Ⅷ）位置図（1:50,000）

経過と立地

前田遺跡Ⅴ他は、佐久市北部の南北方向に長い地域で、調査範囲には１遺跡、３遺跡群（前田遺跡群・鍛冶屋遺跡群・曽根城遺跡・芝宮遺跡群）が含まれる。それぞれの地域はいずれも浅間山の麓から放射状に延びる田切り地形の細長い台地上に位置し、標高は754～763mを測る。

本遺跡は、佐久市高速交通課が行う交通安全施設等整備事業（歩道設置工事）に伴い、前年度から発掘調査を開始し、これまでに縄文時代の落とし穴、古墳～平安時代の住居址が調査されている。今年度は未調査地域167㎡の調査を実施した。

調査の概要

本年度は、対象地域南端、下曽根遺跡の調査を行った。調査遺構は奈良・平安時代の住居址、堀立柱建物址、溝跡である。調査区が幅３m前後と限られているため、いずれの遺構も部分的な調査にとどまった。溝跡は平安時代の住居址を破壊して掘り込まれており、僅かだが土錘片が出土していることから15世紀前後の遺構と考えられる。遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器・土錘・鉄製品・石製品等が出土した。

遺構・遺物の詳細は以下の通りである。

遺　構

竪穴住居址	７軒	（奈良・平安時代）
土　　坑	１基	
溝　　跡	２条	
堀立柱建物址	１棟	

遺　物

土師器（坏・碗・甕）	石製品（紡石・砥石）
須恵器（坏・甕・壷）	鉄製品（鏃）
灰釉陶器（碗）	鍋

調査区全景（北東から）

H１号住居址全景（北東から）

H1号住居址鉄鏃出土状況

調査風景（西から）

9　市道遺跡Ⅲ・辻遺跡

所 在 地　佐久市跡部字市道
調査委託者　佐久建設事務所
開発事業名　国道141号臼田野沢バイパス4車線化工事
調 査 期 間　平成16年９月９日～平成17年２月28日
調 査 面 積　2,892㎡
調査担当者　冨沢　一明　佐々木　宗昭

市道遺跡Ⅲ・辻遺跡位置図（1:50,000）

経過と立地

市道遺跡Ⅲと辻遺跡は佐久市大字跡部・三塚にそれぞれ所在する。両遺跡はいずれも野沢平に広がる沖積微高地に立地する。これら沖積微高地は片貝川や千曲川の流路変遷により形成されたものと考えられるが大規模な圃場整備により現状での微高地範囲は不明な部分が多い。因って、遺跡範囲も地表面からの観察では限界があり、今回も「遺跡詳細分布調査地図」と比較すると大きくその範囲が異なっている。今回、国道141号の４車線化工事に伴い佐久建設事務所より計画地の遺跡有無について照会があった。佐久市教育委員会では計画路線に接して市道遺跡・三千束遺跡群・辻遺跡等が存在することを回答し、試掘調査を行うこととなった。結果、試掘調査により遺構が発見されたため、保護協議の後に記録保存目的の発掘調査を行うこととなった。今年度は予定地の内、市道遺跡Ⅲの一部と辻遺跡の一部を調査することとなった。

調査の概要

調査によって、辻遺跡及び市道遺跡Ⅲともに古墳～平安時代の竪穴住居址及び中世の集落址の一部が検出された。

市道遺跡Ⅲ	竪穴住居址	51軒	掘立柱建物址	16棟	竪穴状遺構	９基	土坑	52基
辻遺跡	竪穴住居址	４軒	掘立柱建物址	２棟	溝状遺構	３本	土坑	３基

市道遺跡Ⅲ全景（北より）

市道遺跡Ⅲ竪穴住居址カマド全景

市道遺跡Ⅲ竪穴住居址全景

獣骨歯出土状況

10　平馬塚遺跡Ⅰ

所 在 地　佐久市桜井911－1
調査委託者　株式会社　町田設計
開発事業名　宅地造成
調 査 期 間　平成16年10月４日～10月19日（現場）
調 査 面 積　330㎡
調査担当者　上原　学

平馬塚遺跡Ⅰ位置図（1:50,000）

経過と立地

平馬塚遺跡は、千曲川と片貝川に挟まれた自然堤防上の桜井地籍にあり、集落の周辺は現在も広く水田として利用されている。標高は600m内外を測る。遺跡付近では昭和52年に上桜井北遺跡の調査によって古墳時代から平安時代の住居址17軒、土坑状の特殊遺構などが確認されている他、西側の石堂遺跡では竪穴状遺構が発見され、陶磁器・土器など15世紀代の遺物が出土している。また、本遺跡群内では平馬塚古墳及び、北側一帯に中世の遺跡と考えられる泉屋敷跡などが存在している。

今回、町田設計による宅地造成計画に伴い、試掘調査を行った結果、遺構・遺物の存在が確認されたため、開発主体者と協議を行い、進入道路地域の発掘調査を佐久市教育委員会が主体となり実施する運びとなった。

調査の概要

調査によって、中世と考えられる遺構、縄文・古墳～平安・中世の遺物を発見した。調査区の北西には中世の遺跡である泉屋敷跡が存在することから、これに関する遺構と思われ、泉屋敷とされる範囲が本遺跡周辺まで広がることが確認できた。

遺構・遺物の詳細は以下の通りである。

調査遺構　竪穴状遺構　－　３棟
土　　坑　－　37基
溝　　跡　－　２条　　ピット群

出土遺物　縄文土器・土師器・須恵器
陶器・土師質土器・須恵質土器

東側調査区全景（南から）

調査風景（南西から）

調査区遠景（東から）

西側調査区（東から）

11　下信濃石遺跡

所在地　佐久市岩村田字仁王前3311－1　他
調査委託者　佐久市花園土地区画整理組合・佐久市
開発事業名　佐久市花園土地区画整理事業
調査期間　平成16年11月1日～平成17年1月18日（発掘）
調査面積　1,200㎡
調査担当者　羽毛田　卓也　森泉　かよ子

下信濃石遺跡位置図（1:50,000）

経過と立地

佐久市岩村田地籍に所在し、南に流れる湯川右岸にある。湯川の河川堆積層であるシルト・砂層・黒色土が堆積している。ここの西台地上は端下平（はけのたいら）の字名があり、中世南北朝時代に大井氏が建立した龍雲寺の伝承地とされている。今回、花園土地区画整理事業が計画され、道路部分について遺跡の破壊が余儀なくされる事態となり、遺構が破壊される部分を発掘調査し、破壊されない部分は埋土保存することとなった。佐久市花園土地区画整理組合・佐久市の委託を受け、佐久市教育委員会文化財課が発掘調査を実施することとなった。

調査の概要

遺跡は上の城の台地から湯川に傾斜する東斜面地である。そのため台地からの土砂が堆積し埋もれたため、複数の文化面があった。上層には中世遺物の包含層が２面、さらにその下層から弥生前期の遺物包含層がみられた。したがって全面ではないものの２～３面にわたる調査を行った。

検出遺構

	寺院関連址	1址	土　坑	47基
	建物址（Ｔａ）	10棟	溝	6本
	単独ピット	258個		

出土遺物

中　世	かわらけ、内耳、常滑壺・甕、珠洲壺、古瀬戸灰釉水滴・瓶子・平椀、青磁小杯・碗・盤、白磁口禿皿・碗、青銅製品（鏡・銅仏）、鉄製刀子、鉄製釘、渡来銭、五輪塔、石鉢、砥石、骨、炭化米、炭化材
古墳後期・奈良平安	土師器甕・杯、須恵器甕・杯・高台付杯
弥生後期	弥生後期土器壺・高杯
弥生前期	土器－浮線文浅鉢・壺・甕、沈線文鉢・壺・甕、条痕文壺・甕、撚糸文甕 石器－打製石斧、敲打石、安山岩製石鏃、黒曜石製石鏃・石鏃未製品・黒曜石剥片

中世龍雲寺の伝承地に隣接し、寺院関連遺構が検出された。斜面を削りだしてテラスを作り、端部を石積みで囲む東西24m南北９mの平場が検出された。テラス面からは敲きの土間、石積みの井戸址、石で囲った基壇がみられた。整地面の内側にも石積がみられ、整地面は拡幅されたようである。

出土遺物は素焼きのかわらけ、内耳、常滑焼の壺・甕、東海系の捏ね鉢、中国製の青磁碗・盤、白磁口禿皿・碗、銅製品、鉄製の角釘などが出土している。またテラス端部の石積みには五輪塔３点が転用されて積まれていた。中世の石積みが残されている例は稀少例である。角釘の存在から何らかの上屋があったものとみられる。またこの整地面には、灰・炭化物層が上面にみらた。文明16年（1484）の村上氏の佐久侵攻により大井城が陥落し、その際に龍雲寺も灰燼に帰したという記録があり、出土遺物と文献がほぼ一致している。

平場を作り、掘立柱建物址をもつ建物址が10棟検出された。中でもＴａ３は、長さ10m幅３mほどの平場に３間×１間の掘立柱建物址で、かわらけ・渡来銭・古瀬戸灰釉水滴が出土している。古瀬戸の水滴は水鳥形の南北朝期（14ｃ）完形品である。南北朝期の古瀬戸は流通が少なく稀少であり、ことに水滴は武士または僧侶など所有する人も限られ、龍雲寺の開基が南北朝期とされており、これに関係する遺物とみられる。

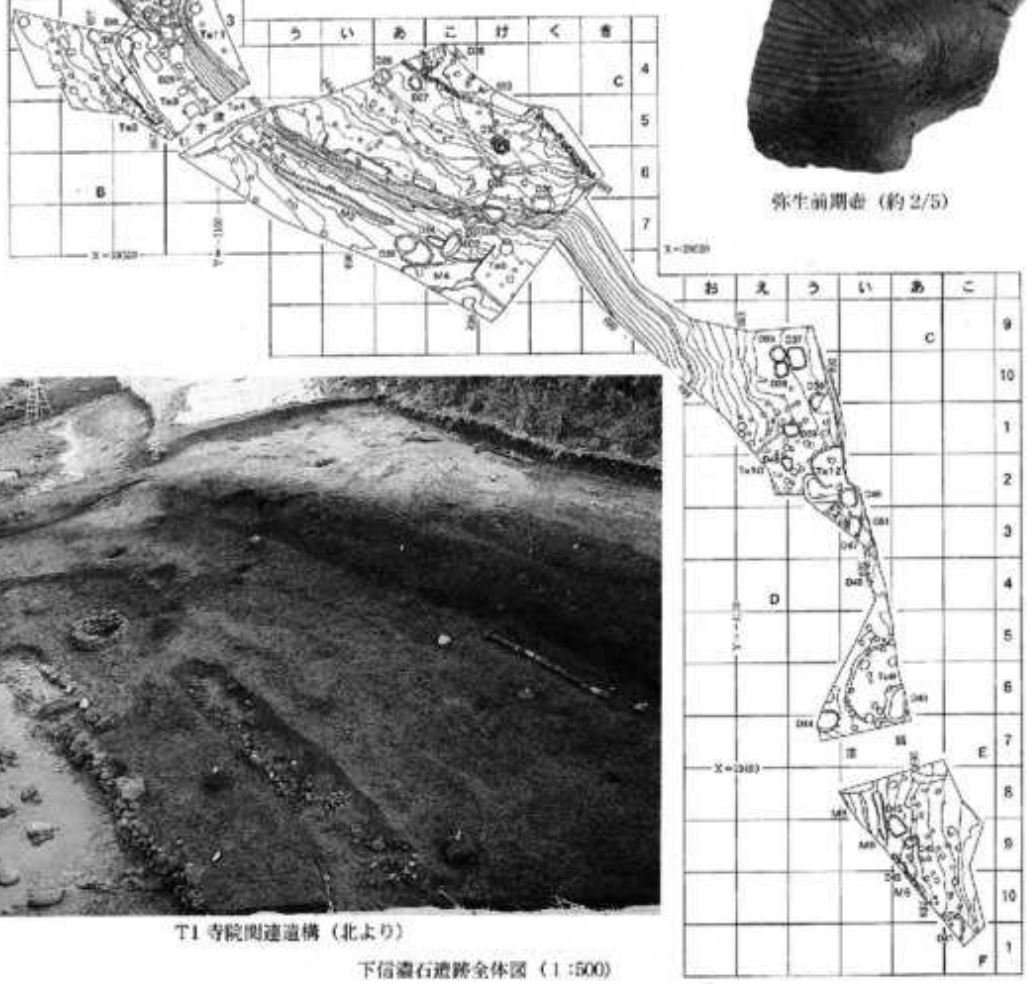
他に中世のピットや土坑が多数検出され、斜面地が活用されたようである。

弥生前期の遺物がBか1グリット付近より出土している。佐久市内には多くの遺跡があるが弥生前期の遺跡は、猿久保の仲田遺跡、野沢の東五里田遺跡があるのみである。近隣では小諸市の氷遺跡がこの時期の標識遺跡としても著名であるが、長野県内の遺跡は極端に少なく、土器片のみを出土する遺跡を加えても30遺跡以下であろう。

今回、下信濃石遺跡では長さ12m、幅8mの黒色土層中より、数百点の弥生前期の土器・石製品が出土し、黒色土を下げたところ平場がみられ、遺物の出土状態を一部記録することができた。

Ta3出土　古瀬戸水滴（実物大）

弥生前期壺（約2/5）



T1 寺院関連遺構（北より）

下信濃石遺跡全体図（1：500）

西近津遺跡群　西近津遺跡Ⅱ 調査報告書

NISHI CHIKA TU

長野県佐久市長土呂
西近津遺跡Ⅱ発掘調査報告書

株式会社カウベルエンジニアリング
長野県佐久市教育委員会

西近津遺跡群　西近津遺跡Ⅱ

所在地　佐久市長土呂1185－3、1183－6
調査委託者　株式会社カウベルエンジニアリング
開発事業名　工場建設
調査期間　平成16年3月16日～3月22日（現場）
　　平成16年3月23日～5月21日（整理）
調査面積　200㎡
調査担当者　上原　学

西近津遺跡群　西近津遺跡Ⅱ位置図（1：50,000）

例言・凡例

1．本書は平成15年度に調査を行った長野県佐久市長土呂に所在する西近津遺跡群西近津遺跡Ⅱの発掘調査報告書である。

2．作成・執筆は上原が行った。

3．本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

4．遺跡の略称－ＮＴⅡ

5．遺構の略称　竪穴住居址－Ｈ　　土坑－Ｄ　　竪穴状遺構－Ｔａ

6．スクリーントーンの表示は以下の通りである。

遺　構　　地山断面　　焼土　　床下

遺　物　　須恵器断面　　灰釉　　黒色処理

7．挿図の縮尺　　遺　構　　住居址－１／80　　遺　物　　土器－１／４　　白玉－１／１

8．調査グリッドは４×４ｍに設定。

9．写真図版中の番号と同一遺構の実測図番号は一致する。

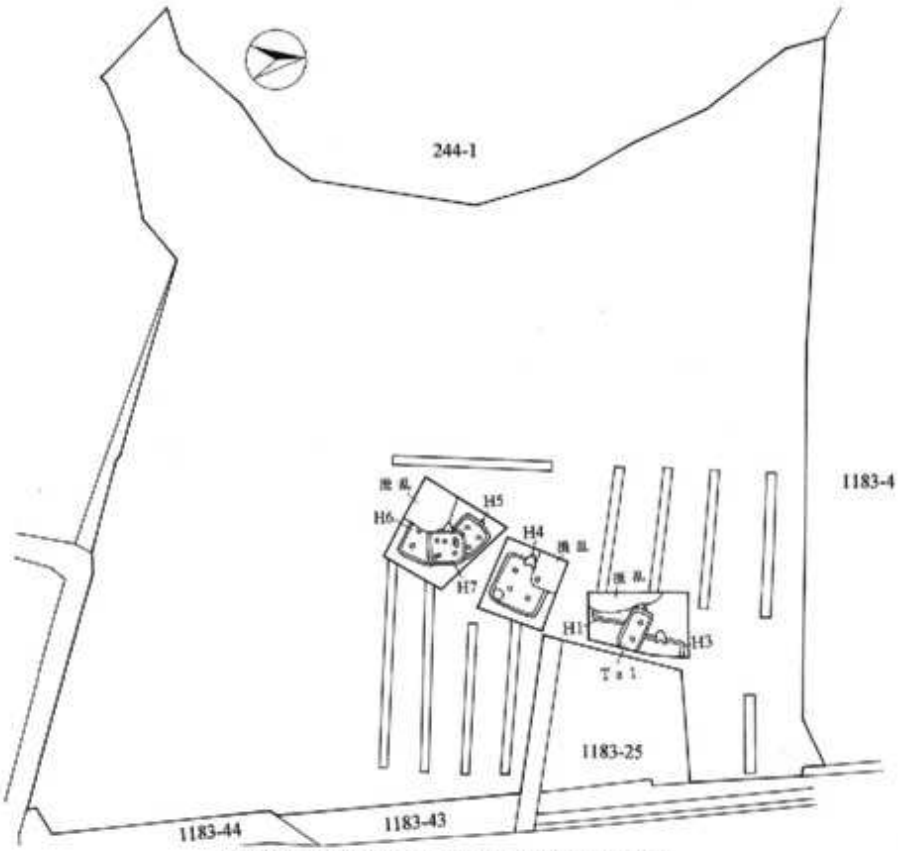
10．遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。

11．土層・土器色調は、農林水産省水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修1987年度版『新版標準土色帖』の表示に基づいた。

立地と経過

西近津遺跡群は、佐久市長土呂地積の標高693～714mの台地上に展開し、佐久地域特有の浅間山麓から放射状に延びる田切り地形の末端地域にあたり、遺跡群の西及び東側には規模の違いはあるが、細長い田切り（谷）を認めることができる。調査対象地は遺跡群の北端にて昭和46年に発掘調査を行った西近津遺跡の南に位置し、以前はセメント工場として使用されていた地域である。標高は713mを測る。

今回、株式会社カウベルエンジニアリングによる工場建設事業が行われることとなり、遺構の有無を確認するため工場建設によって遺構の破壊が予想される地域の試掘調査を行った。その結果、古代の住居址が確認されたため開発主体者と協議を行い、佐久市教育委員会が主体となり遺構の記録保存を目的として発掘調査を行う運びとなった。



西近津遺跡Ⅱ試掘トレンチ・遺構配置図（1：1,000）

遺構と遺物の詳細

遺　構

竪穴住居址　6軒（古墳時代5軒、奈良時代1軒）竪穴状遺構　1（平安～中世）土坑　1

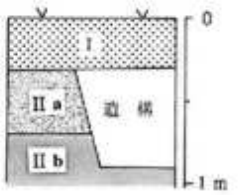
遺　物

出土量　テンバコ2箱（58×36×20cm）

内容　縄文式土器
弥生式土器
土師器（坏・高坏・鉢・甕・壺）
須恵器（坏・甕・壺）
土師質土器（鉢）
石製品（滑石製臼玉・すり石・敲石）
石　器（石鏃）

基本層序

今回調査を行った地域は工場跡地であるため、工場建設及び解体工事によって激しい攪乱を受けており、大半はローム面まで削り取られていた。ローム上面を覆った表土は解体工事後に整地した埋土であった。よって遺跡内の層序は上層から表土（層厚20～50cm）、黄褐色土ロームである。遺構の確認は表土を除去した直下の黄褐色ローム上面で行った。



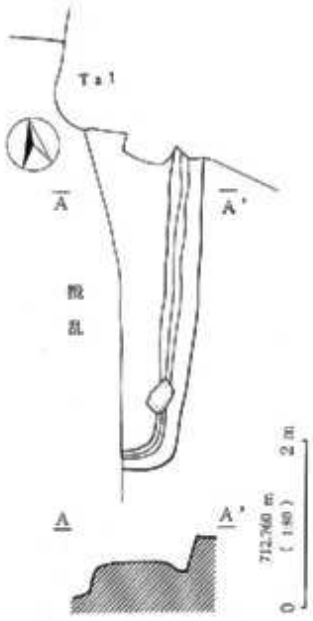
Ⅰ　表土
Ⅱa灰白色ローム
（遺構検出面）
Ⅱb灰赤色ローム

基本層序模式図

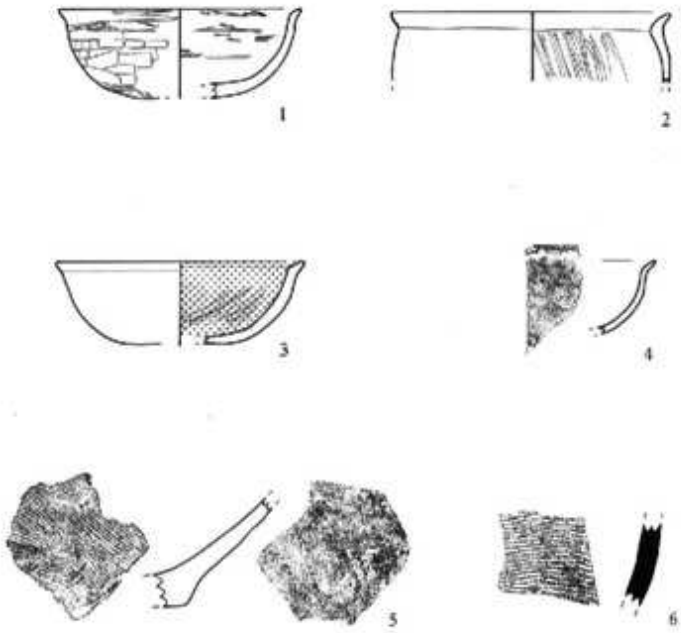
遺構と遺物

H１号住居址

遺構は調査区北に位置し、Ta１号竪穴状遺構に切られ、西側の大半は攪乱に破壊されている。確認できたのは東壁付近の一部で調査規模は東壁3.8m、残存の床面は東壁から最長1.5m程度である。確認面から床面までの深さは30cmを測り、壁際に周溝が認められた。ピット、カマドは確認できなかった。遺物は土師器坏、甕の破片が出土した。大半が小破片で出土数も僅かだが、丸底の底部から立ち上がり口縁端部で外反する土師器坏から古墳時代（五世紀後半）としたい。



H1号住居址実測図



H１号住居址出土遺物実測図

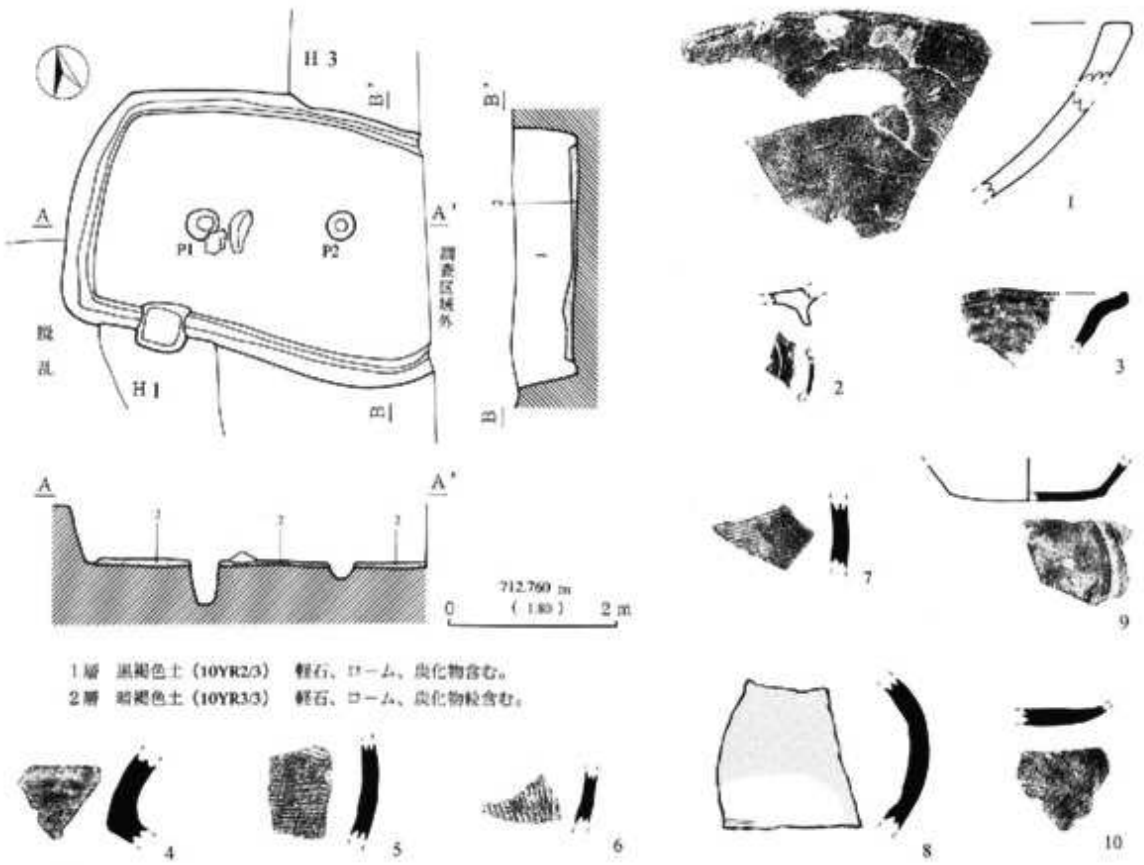
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位等	焼成	色調（外面）（内面）
1	土師器	坏	(14.4)	丸底	－	外面削り後ミガキ。内面ミガキ。	40	良	明赤褐色 明赤褐色
2	土師器	鉢	(16.7)	－	－	外面削り後ミガキ。内面屈ミガキ。口縁外面横ナデ。内面ナデ後ミガキ	口縁破片	良	赤色 明赤褐色
3	土師器	坏	(14.8)	丸底	－	外面ヘラケズリ。内面黒色処理、組めミガキ。口縁横ナデ。	口縁～体部破片	良	明赤褐色 黒色
4	土師器	坏	－	－	－	外面削り後ミガキ。口縁、内面ミガキ。	口縁～体部破片	良	明赤褐色 明赤褐色
5	土師器	甕	－	－	－	外面ヘラケズリ、付着物（煮こぼれか）。内面櫛状工具によるナデ。	底部破片	良	同い赤褐色 赤褐色
6	須恵器	甕	－	－	－	外面平行叩き、内面ナデ。	胴部破片	良好	褐灰色 褐灰色

H１号住居址出土遺物観察表

Ta１号竪穴状遺構

遺構は調査区北に位置し、H１・３号住居址を切り、東側の一部は調査区域外となる。規模は東西4.2m、南北は３m、検出面から床面までの深さは70cmを測る。形態は東西方向に長い隅丸長方形である。床面は平坦で固く、壁際には周溝が存在した。ピットは２個認められ、位置的に主柱穴と考えられる。火を利用した施設は認められなかった。掘方は薄く暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は古墳時代、奈良・平安時代の土器、中世と思われる鉢が出土している。本遺構は当初土師器・須恵器の存在から古代の住居址（H２号住居址）として調査を行ったが、形態・規模（平面形は長方形を呈し、床面までが深く、カマドを伴わない）及び床直上から出土した厚手の土師質土器の特徴から平安時代から中世の竪穴状遺構とした。



Ｔａ１号竪穴状遺構・遺物実測図

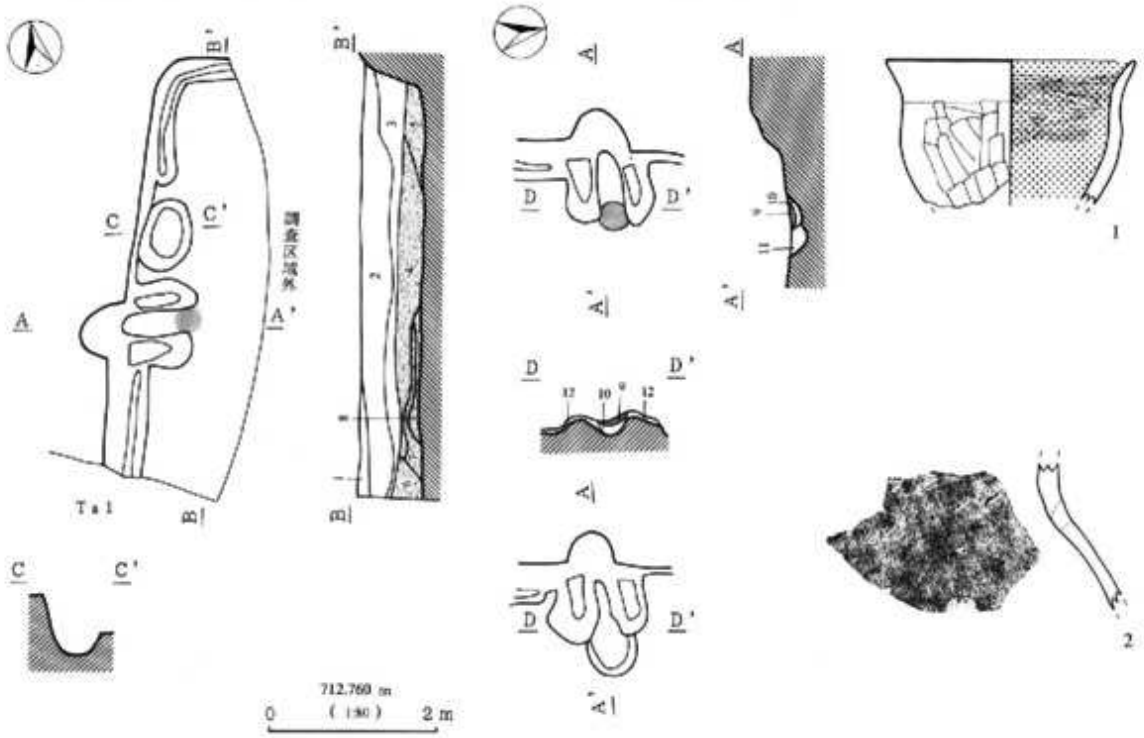
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・遺存等	焼成	色調（外面）（内面）
1	土師器土甘	鉢	－	－	－	外面ナデ。内面ナデ。口縁部面取り。	口縁～体部破片	良	淡い赤褐色 暗赤褐色
2	土師器	碗	－	－	－	高台貼り付け	底部破片	良	橙色 明赤褐色
3	須恵器	壺	－	－	－	ロクロ横ナデ。自然釉付着。	口縁破片	良好	褐灰色 黄灰色
4	須恵器	甕	－	－	－	ロクロ横ナデ。	胴部破片	良好	灰褐色 灰褐色
5	須恵器	甕	－	－	－	外面叩き。内面ナデ。	胴部破片	良好	灰褐色 灰褐色
6	須恵器	甕	－	－	－	外面叩き。内面ナデ。	胴部破片	良好	灰褐色 灰褐色
7	須恵器	甕	－	－	－	外面平行叩き。内面ナデ。	胴部破片	良好	灰褐色 灰褐色
8	須恵器	壺	－	－	－	ロクロ横ナデ。外面自然釉付着。	胴部破片	良好	オリーブ灰色 灰白色
9	須恵器	杯	－	(9.4)	－	ロクロ横ナデ。底部ヘラ削り。混入遺物。	底部～体部破片	良	薄い赤褐色 薄い赤褐色
10	須恵器	坏or蓋	－	－	－	外面ヘラケズリ。刻線。混入遺物。	破片	良好	褐灰色 褐灰色

Ｔａ１号竪穴状遺構出土遺物観察表

H３号住居址

遺構は調査区北に位置し、Ta１号竪穴状遺構に切られ、東側の多くは調査区域外となる。確認できた規模は西壁５m、東西80cm、検出面から床面までの深さ40cmである。確認できた床面は平坦で固く、壁際に周溝が認められた。西壁中央と考えられる位置にカマドが構築されていた。カマドは地山を利用した造り出しの袖及び火床が確認できた。火床には厚さ７cm の焼土が認められた。掘方は比較的厚く30cm を測り、暗褐色・褐色・黄褐色土といった多種の土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の鉢、甕が僅かに出土し、いずれも小破片である。土器の特徴から古墳時代としたい。



1層	淡い黄褐色土（10YR4/3）	ローム、軽石、赤色粒含む。	7層	黒褐色土（10YR2/2）	黒褐色土主体。ローム、軽石含む。
2層	黒褐色土（10YR2/3）	ローム、軽石、炭化物含む。	8層	褐色土（10YR4/6）	ローム主体。褐色土含む。
3層	褐色土（10YR4/4）	ローム多量、焼土粒、炭化物含む。	9層	明赤褐色土（2.5YR5/8）	焼土層（火床）
4層	褐色土（10YR4/6）	ローム主体、黒褐色土含む。	10層	暗褐色土（10YR3/3）	ロームと褐色土の混合土。しまりなし。
5層	暗褐色土（10YR3/4）	ローム多く、黒褐色土との混合土。	11層	黒褐色土（10YR3/2）	ロームと褐色土の混合土。しまりなし。
6層	鈍い黄褐色土（10YR4/3）	ローム多量、黒褐色土との混合土。	12層	暗褐色土（10YR3/4）	ローム多くしまりあり。（カマド袖）

H３号住居址・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位等	焼成	色調（外面）（内面）
1	土師器	鉢	(14.0)	－	－	外面ヘラケズリ。内面黒色処理・ミガキ。口縁横ナデ。	口縁～体部	良	鈍い赤褐色 黒色
2	土師器	甕	－	－	－	外面ヘラケズリ。内面ナデ。口縁横ナデ。	頸部～胴部破片	良	鈍い褐色 鈍い褐色

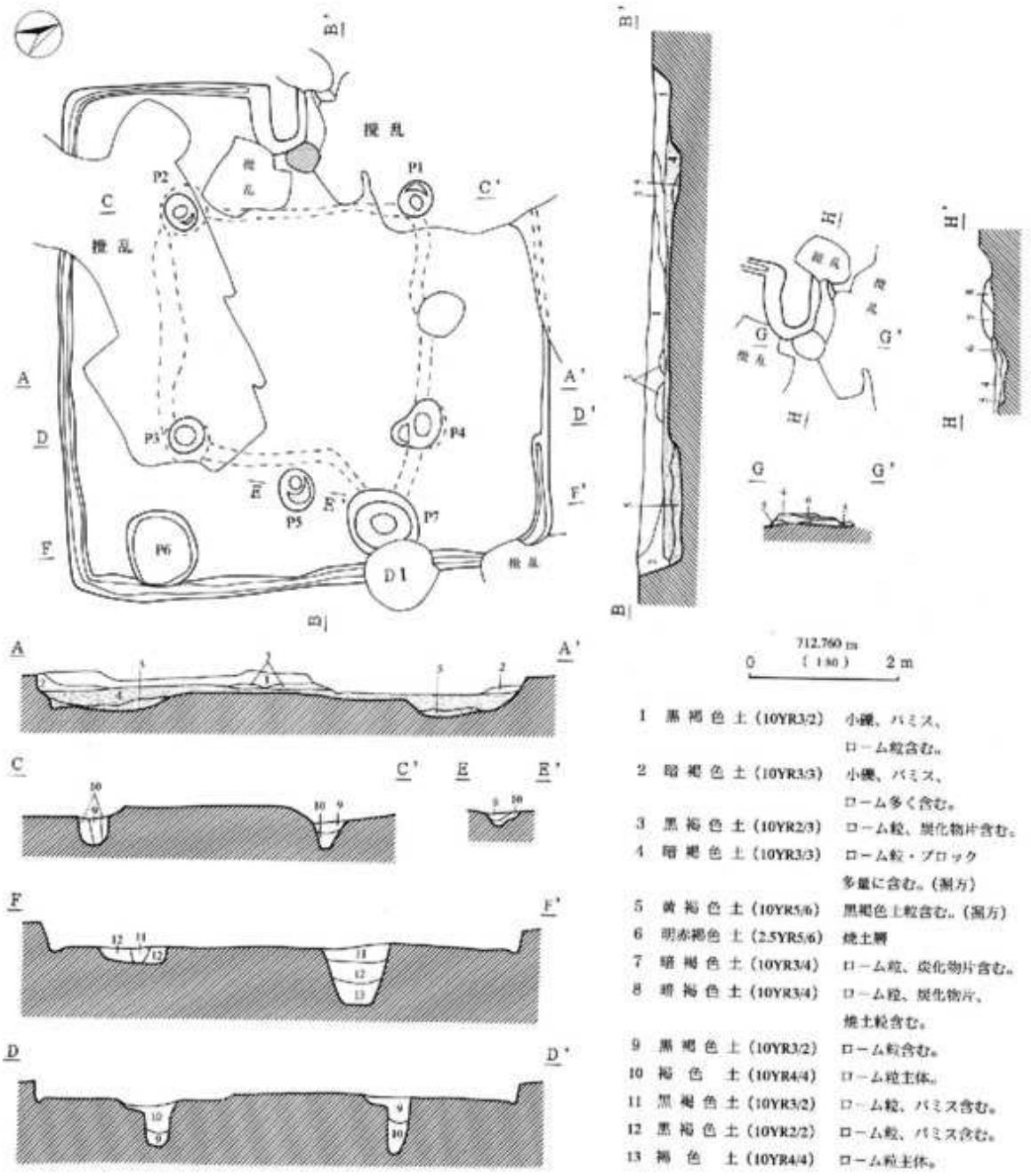
H３号住居址出土遺物観察表

H４号住居址

遺構は調査区中央付近に位置し、部分的に近年の撹乱を受けているが、比較的残存状態は良好である。規模は南北6.4m、東西6.4m、検出面から床面までの深さは25cmを測る。平面形態は方形である。床面は一部撹乱を受けているが残存部の状況は固く平坦であり、壁際に周溝が存在する。ピットは７個確認できP１～P４が主柱穴である。東壁寄り

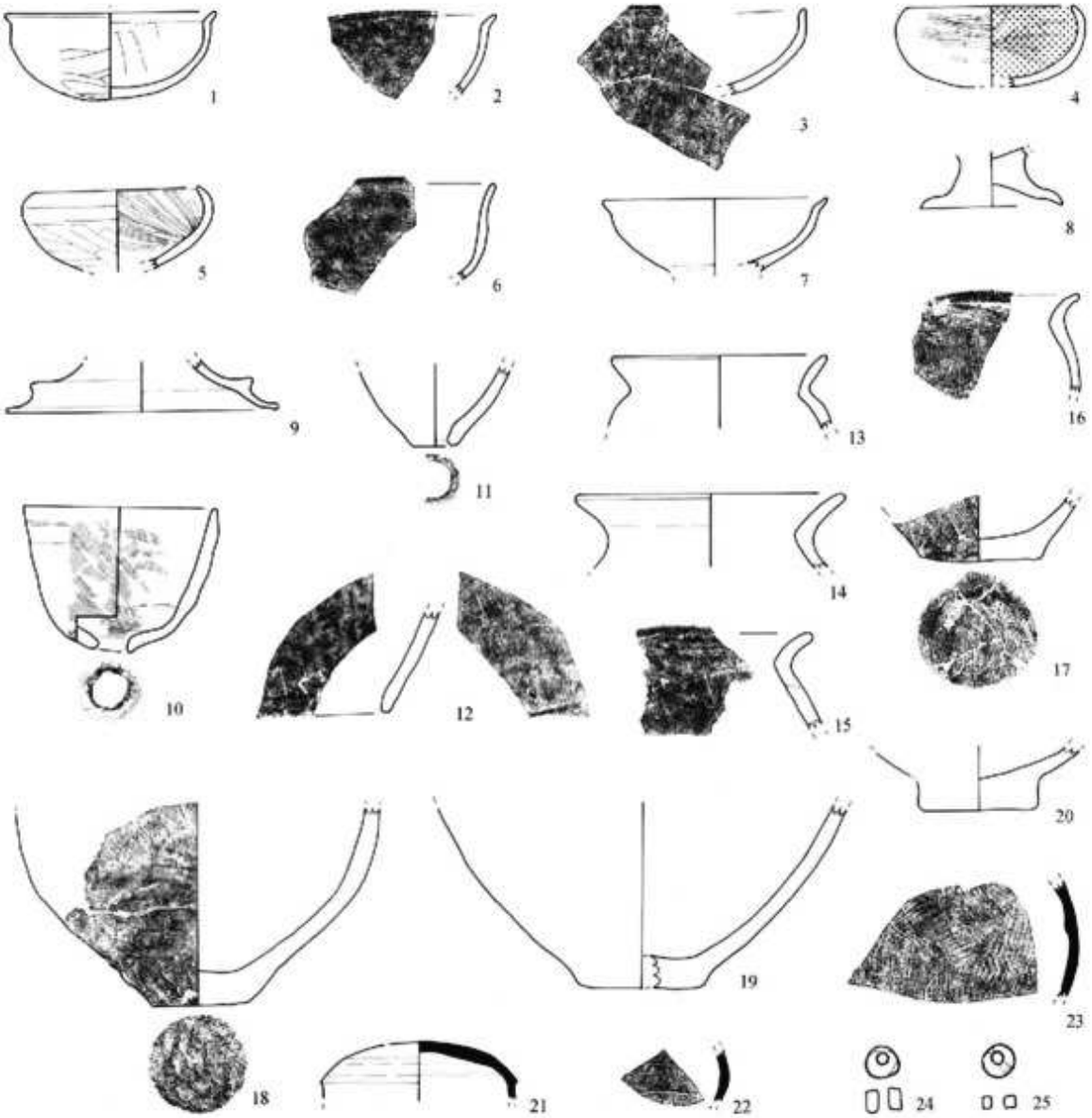
に土坑状のP6、P7が認められ、東壁中央付近はD1号土坑に切られる。カマドは西壁中央に構築されているが北側半分は攪乱に破壊され、南袖及び火床付近と考えられる焼土の堆積のみ残存していた。掘方は中央が5cm内外と薄く、周辺部は30cm内外と深い状態で暗褐色土・黄褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕・甑・高坏、須恵器坏・蓋・甕、滑石製臼玉（No.24－径5mm・孔径1.6mm・長さ3.4mm、No.25－径5.3mm・孔径1.8mm・長さ3.4mm）が出土した。遺物の特徴から古墳時代（五世紀後半）としたい。



1	黒褐色土（10YR3/2）	小礫、パミス、ローム粒含む。
2	暗褐色土（10YR3/3）	小礫、パミス、ローム多く含む。
3	黒褐色土（10YR2/3）	ローム粒、炭化物片含む。
4	暗褐色土（10YR3/3）	ローム粒・ブロック多量に含む。（掘方）
5	黄褐色土（10YR5/6）	黒褐色土粒含む。（掘方）
6	明赤褐色土（2.5YR5/6）	焼土層
7	暗褐色土（10YR3/4）	ローム粒、炭化物片含む。
8	暗褐色土（10YR3/4）	ローム粒、炭化物片、焼土粒含む。
9	黒褐色土（10YR3/2）	ローム粒含む。
10	褐色土（10YR4/4）	ローム粒主体。
11	黒褐色土（10YR3/2）	ローム粒、パミス含む。
12	黒褐色土（10YR2/2）	ローム粒、パミス含む。
13	褐色土（10YR4/4）	ローム粒主体。

H4号住居址実測図



H４号住居址出土遺物実測図

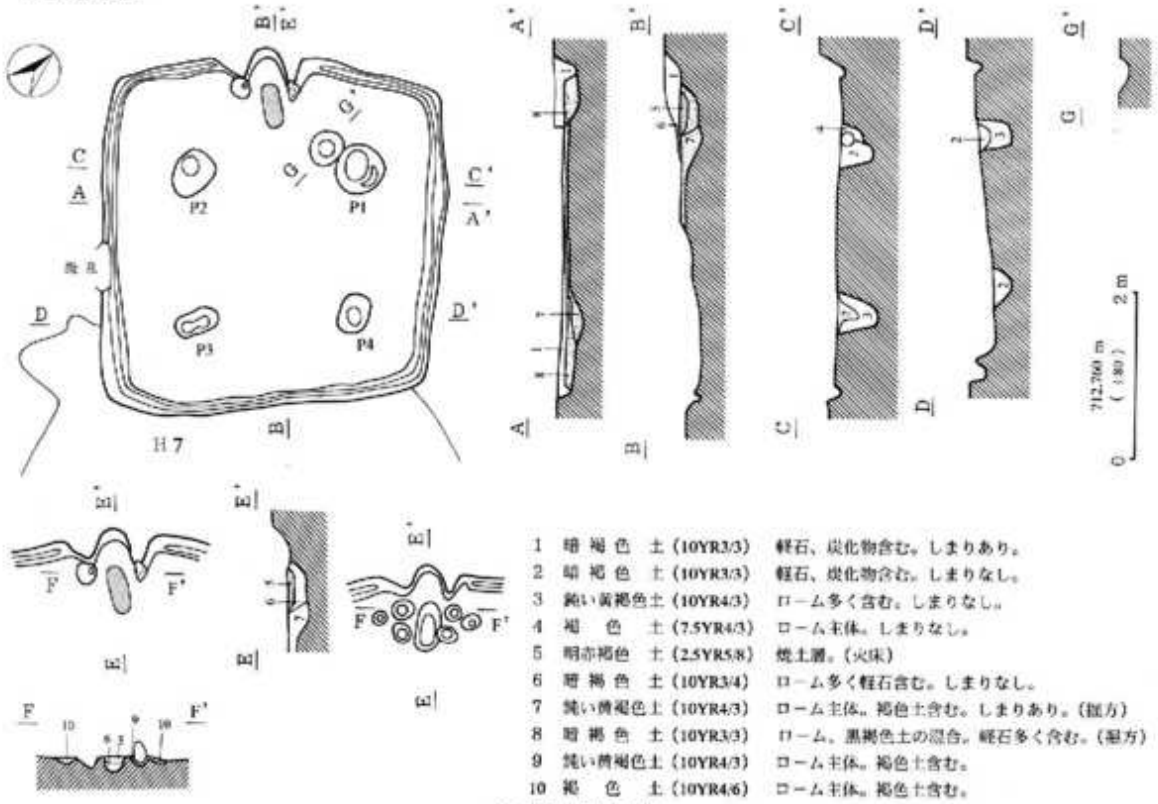
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	現存率・部位等	焼成	色調（外面）（内面）
1	土師器	坏	13.2	丸底	5.4	外面ヘラケズリ、内面ナデ。口縁横ナデ。底部刻線。	70	良	明赤褐色 明赤褐色
2	土師器	坏	－	－	－	外面ヘラケズリ、ミガキ、内面ナデ、ミガキ。口縁横ナデ。	口縁～体部破片	良	橙色 橙色
3	土師器	坏	－	丸底	－	外面ヘラケズリ、ミガキ、内面ナデ、ミガキ。口縁横ナデ。	口縁～底部破片	良	橙色 橙色
4	土師器	坏	(10.2)	丸底	－	外面ヘラケズリ、ミガキ、内面ナデ、黒色処理、ミガキ。口縁横ナデ。	口縁～体部	良	明褐色 黒色
5	土師器	坏	(10.2)	丸底	－	外面ヘラケズリ、ミガキ、内面ナデ、ミガキ。口縁横ナデ。	口縁～体部	良	鈍い橙色 鈍い橙色
6	土師器	坏	－	－	－	外面ヘラケズリ、ミガキ、内面ナデ、ミガキ。口縁横ナデ。	口縁～体部	良	浅黄橙色 浅黄色
7	土師器	高坏	(14.2)	－	－	坏部外面ヘラケズリ、内面ナデ、ミガキ。口縁横ナデ。	口縁～体部	良	橙色 橙色

H４号住居址出土遺物観察表（１）

8	土師器	高坏	—	9.3	—	脚部内外面横ナデ。	脚部	良	橙色 橙色
9	土師器	高坏	—	(17.2)	—	脚部外面ミガキ。内面横ナデ。	脚部	良	橙色 橙色
10	土師器	甑	12.1	2.5	9.1	内外面ハケ状工具によるナデ。底部単孔。	100	良	鈍い褐色 鈍い褐色
11	土師器	鍋	—	3.1	—	外面ヘラケズリ。ナデ。底部単孔。内外面付着物（煮こぼれか）	底部破片	良	灰褐色 鈍い褐色
12	土師器	甑	—	—	—	外面皆ミガキ。底部単孔。	底部～体部	良	灰黄褐色 灰黄褐色
13	土師器	甕	(13.6)	—	—	外面ヘラケズリ。内面ヘラナデ。口縁横ナデ。	口縁～頸部破片	良	灰黄褐色 鈍い橙色
14	土師器	甕	(17.2)	—	—	外面ヘラケズリ。内面ヘラナデ。口縁横ナデ。	口縁～頸部破片	良	灰黄褐色 灰黄褐色
15	土師器	甕	—	—	—	外面ヘラケズリ後ミガキ状ナデ。内面ナデ。口縁横ナデ後ミガキ。	口縁～頸部破片	良	鈍い赤褐色 灰黄褐色
16	土師器	甕	—	—	—	外面ヘラケズリ。内面ヘラナデ。口縁横ナデ。	口縁～胴部	良	明赤褐色 灰褐色
17	土師器	甕	—	7.3	—	外面・底部縦状工具によるナデ。内面ヘラナデ。	底部～胴部破片	良	灰黄褐色 褐色
18	土師器	甕	—	6.2	—	外面ヘラケズリ後ヘラナデ。内面ヘラナデ。底部ヘラケズリ。	底部～胴部破片	良	鈍い赤褐色 明褐灰色
19	土師器	甕	—	(7)	—	外面縦状工具によるナデ。内面ヘラナデ。	底部～胴部破片	良	鈍い赤褐色 鈍い黄橙色
20	土師器	甕	—	7.6	—	外面・底部ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	底部～胴部破片	良	鈍い赤褐色 灰黄褐色
21	須恵器	蓋	—	—	—	ロクロ横ナデ。外面自然軸。	天井部破片	良好	灰色 灰色
22	須恵器	はそう	—	—	—	ロクロ横ナデ。外面膨縁波状文・膨横横線文。	破片	良	明褐色 褐色
23	須恵器	甕	—	—	—	外面叩き。	胴部破片	良	オリーブ灰色 オリーブ灰色

H４号住居址出土遺物観察表（２）

H５号住居址



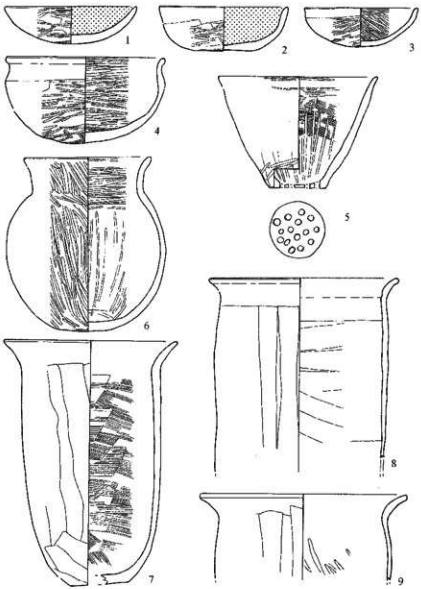
1　暗褐色　土（10YR3/3）　軽石、炭化物含む。しまりあり。
2　暗褐色　土（10YR3/3）　軽石、炭化物含む。しまりなし。
3　鈍い黄褐色土（10YR4/3）　ローム多く含む。しまりなし。
4　褐　色　土（7.5YR4/3）　ローム主体。しまりなし。
5　明赤褐色　土（2.5YR5/8）　焼土層。（火床）
6　暗褐色　土（10YR3/4）　ローム多く軽石含む。しまりなし。
7　鈍い黄褐色土（10YR4/3）　ローム主体。褐色土含む。しまりあり。（掘方）
8　暗褐色　土（10YR3/3）　ローム。黒褐色土の混合。軽石多く含む。（掘方）
9　鈍い黄褐色土（10YR4/3）　ローム主体。褐色土含む。
10　褐　色　土（10YR4/6）　ローム主体。褐色土含む。

H５号住居址実測図

遺構は調査区南に位置し、南東コーナー付近をH７号住居址に切られ、東側は撹乱付近の深さまで攪乱を受け破壊されている。規模は東西4.0m、南北4.2m、確認面から床面までの深さは20cmを測る。形状は方形である。床面の西側は平坦で固いが、東側は攪乱を受けている。住居址範囲は壁際の周溝から確認することができた。ピットは４個確認できP１～P４が主柱穴である。P１からカマドに寄った位置に径40cm、深さ15cmの窪みが認められた。灰だめであろうか。カマドは西壁中央に構築され、北袖及び火床に厚さ10cm程度の焼土の堆積が認められ、袖先端の焚口部には石材が埋め込まれていた。掘方は中央に比べ周辺がやや深い状態で鈍い黄褐色土、暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物はカマド周辺及び北西コーナー床直上から比較的状態の良い土師器の杯、甕、甑が出土し、P１内からは完形の土師器壺が出土した。

本住居址は坏及び口縁に最大径を有し直線的な胴部を持つ甕の特徴から古墳時代後期（七世紀代）としたい。



H５号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器系	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位等	焼成	色調（外面）（内面）
1	土師器	坏	14.5	丸底	4	外面ヘラケズリ後ミガキ。内面ミガキ。黒色処理。	95	良	黒色 黒色
2	土師器	坏	13.7	6.4	4.6	外面ヘラケズリ後ミガキ。内面ミガキ。黒色処理。底部ヘラケズリ。	80	良	黒色 黒色
3	土師器	坏	12.1	丸底	4.1	外面ヘラケズリ。内面ミガキ。口縁横ナデ。	70	良	明黄褐色 暗い黄褐色
4	土師器	鉢	17.0	丸底	9.1	外面ヘラケズリ後ミガキ。内面ミガキ。口縁横ナデ。	60	良	黒い茶褐色 暗い褐色
5	土師器	壺	16.9	5.9	11.9	外面ヘラケズリ後ミガキ。内面ハケメ後縦ミガキ。底部15孔	95	良	暗い茶褐色 黒色
6	土師器	甕	13.5	3.5	18.4	外面・底部ミガキ。内面ナデ。ミガキ。	100	良	黒い灰褐色 暗い褐色
7	土師器	甕	18.3	6.3	23.9	外面縦ヘラケズリ。内面ハケナデ。口縁横ナデ。	85	良	暗い茶褐色 暗い褐色
8	土師器	甕	20.2	－	－	外面縦ヘラケズリ。内面ヘラナデ。口縁横ナデ。	50	良	黒い茶褐色 暗い褐色
9	土師器	甕	(22.2)	－	－	外面縦ヘラケズリ。内面ヘラナデ。口縁横ナデ。	口縁～胴部破片	良	暗い褐色 暗い褐色

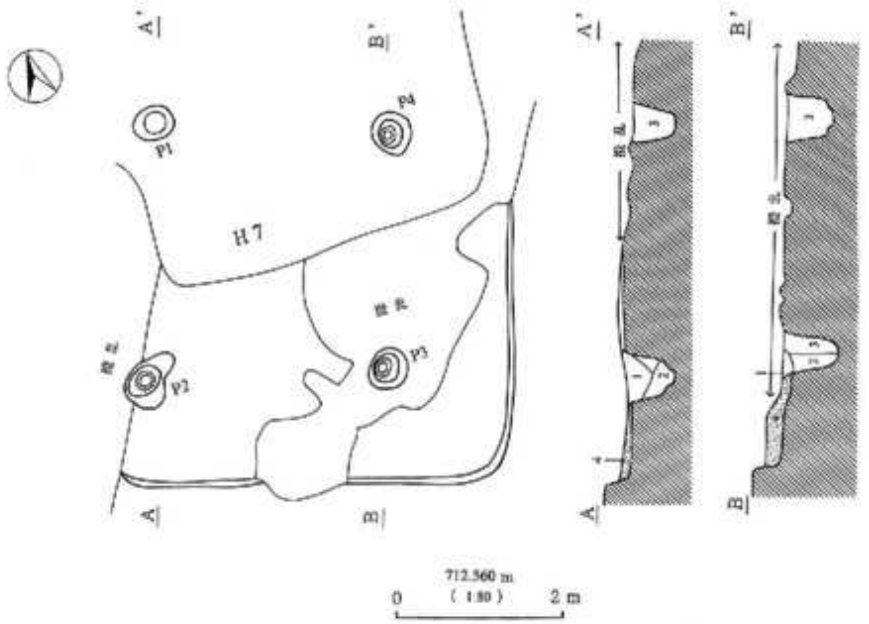
H５号住居址出土遺物観察表

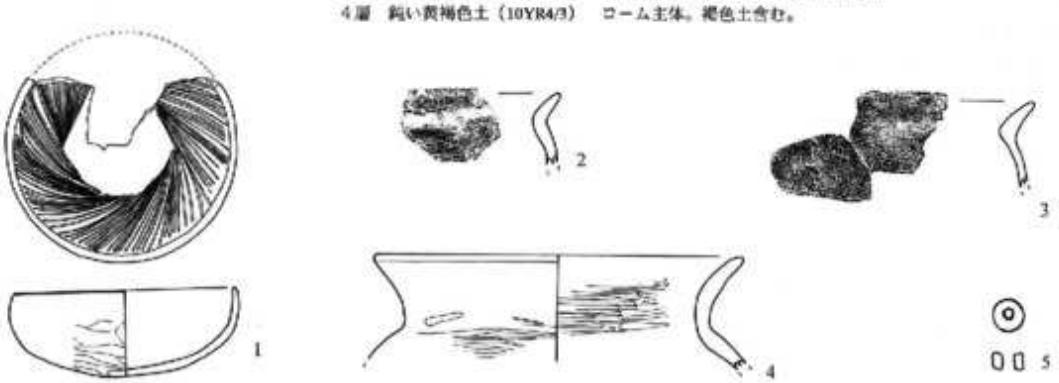
H６号住居址

遺構は調査区南に位置し，H７号住居址に切られ、遺構大半は攪乱を受けている。確認できたのは南東コーナー付近の床面及び主柱穴と考えられる４本のピットである。規模・形態は攪乱が激しく不明だが残存壁及び主柱穴の配置状況から一辺5.8m内外の方形と考えられる。カマド、炉などの施設は確認できなかった。

遺物は土師器の坏・甕が出土したが大半は小破片である。土器以外では床面付近の攪乱から滑石製臼玉（径1.5mm・孔径1.4mm・長さ2.4mm）が認められた。

本住居址は丸底の底部から立ち上がり口縁端部で僅かに外反する土師器坏片、内面に放射状の細かい暗文を施す丸底の土師器坏の存在から古墳時代（五世紀後半）としたい。





H６号住居址・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・形状等	地残	色調（外面）（内面）
1	土師器	坏	13	丸底	5.1	外面ヘラケズリ，内面ナデ，放射状暗文，口縁横ナデ。	50	良	明赤褐色 明赤褐色
2	土師器	小型甕	－	－	－	外面ヘラケズリ，内面ヘラナデ，口縁横ナデ	口縁～頸部破片	良	灰黄褐色 鈍い黄橙色
3	土師器	小型甕	－	－	－	外面ヘラケズリ，内面ヘラナデ，口縁横ナデ	口縁～胴部破片	良	橙色 鈍い黄橙色
4	土師器	甕	(22)	－	－	外面ミガキ，内面ナデ，口縁外面横ナデ，口縁内面ミガキ。	口縁～頸部破片	良	浅黄色 鈍い黄橙色

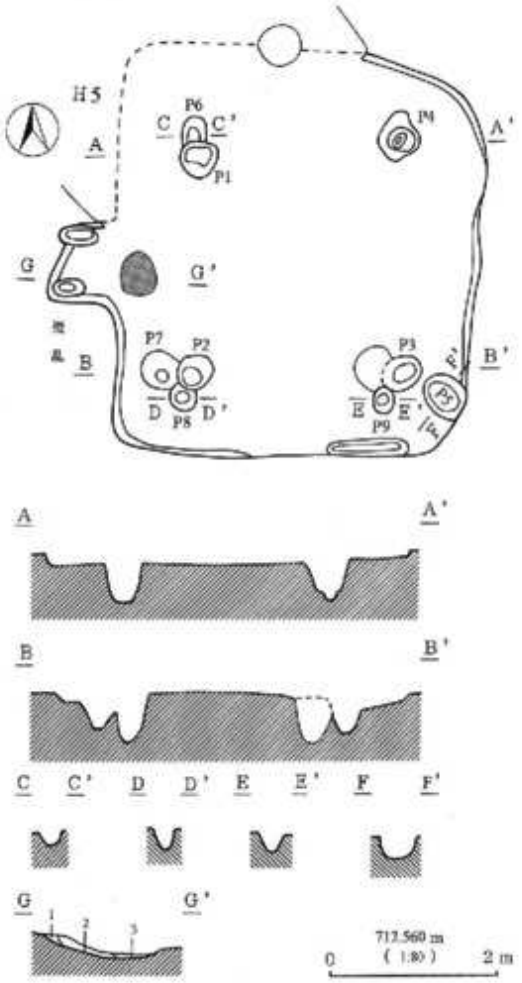
H６号住居址出土遺物観察表

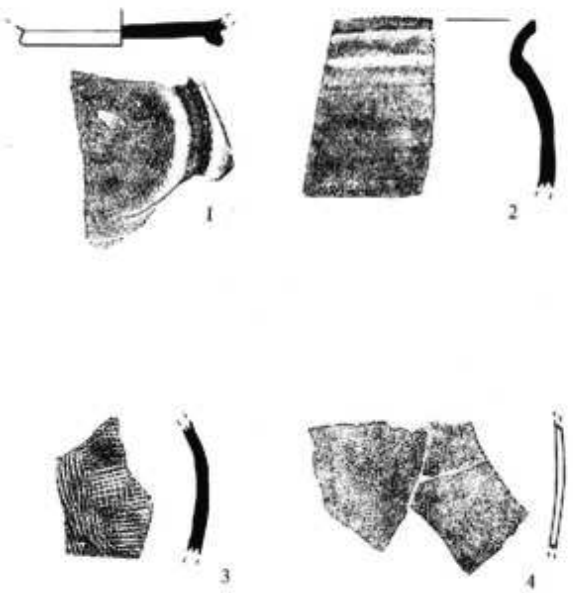
Ｈ７号住居址

遺構は調査区南に位置し、Ｈ５・６号住居址を切る。遺構の大半が近年の攪乱によって削り取られ、確認できたのは掘方による住居址範囲及びカマドの痕跡、主柱穴と考えられるピットである。規模は掘方状況から東西4.2m、南北4.8mの方形と推察される。床面は確認できなかった。西壁中央付近に壁外への張り出し及び、焼土の堆積が認められることからカマドの残存部と考えられた。ピットは９個確認でき、位置的にＰ１～Ｐ４が主柱穴である。主柱穴に接して同等のピットの掘り込み（Ｐ６～Ｐ９）が存在するため、ピットの移動を伴う建てかえが行われたことが伺われる。

遺物は土師器甕、須恵器の高台付坏、甕破片などが出土した。

本住居址は時期決定に至る遺物の量が僅かであるが古墳時代（七世紀）の住居址を切り、底部回転ヘラケズリ後高台貼り付けの須恵器高台付坏が存在することから奈良時代の住居址と考えられる。



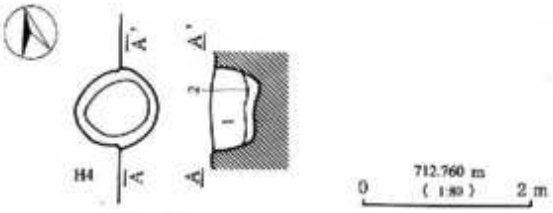


Ｈ７号住居址・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位等	焼成	色調（外面）（内面）
1	須恵器	高台付坏	－	（12）	－	ロクロ成ナデ。底部回転ヘラケズリ後、高台貼り付け。	底部破片	良	オリーブ黒色 / 灰色
2	須恵器	甕	－	－	－	ロクロ成ナデ。外面自然釉。	口縁～肩部破片	良好	灰色 / 灰色
3	須恵器	甕	－	－	－	外面叩き。内面動作工具によるナデ。	胴部破片	良好	灰色 / 灰色
4	土師器	甕	－	－	－	外面ヘラケズリ。内面ハケナデ。	胴部破片	良	鈍い赤褐色 / 黒褐色

Ｈ７号住居址出土遺物観察表

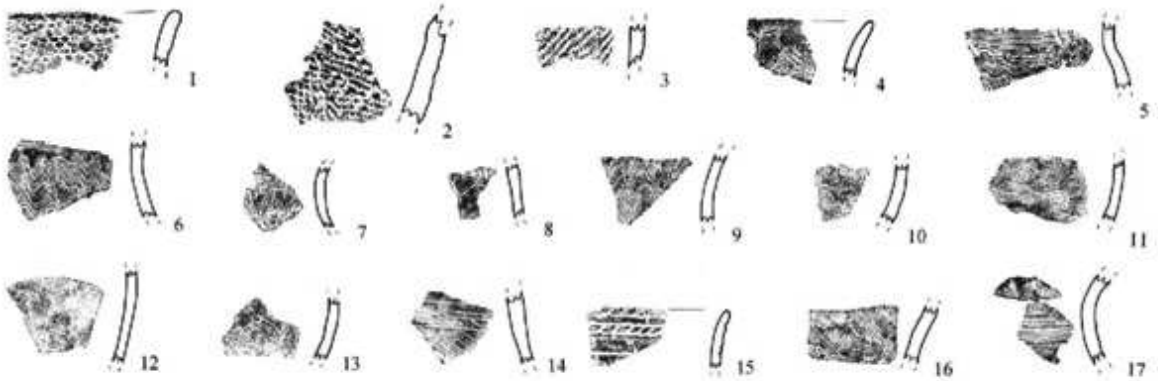
D1号土坑



1　暗褐色土（10YR3/3）小石、ローム粒、パミス含む。砂質。
2　黒褐色土（10YR3/3）ローム粒、パミス多く含む。

D1号土坑実測図

遺構外・混入遺物



遺構外・混入遺物実測図

番号	器種	器形	出土層	施文・文様	残存率・部位等	焼成	色調（外面）（内面）
1	縄文土器	深鉢	H2混入	外面隆口押型文、内面ナデ	口縁破片	良	赤褐色 赤褐色
2	縄文土器	深鉢	H4混入	外面羽状縄文、内面ナデ、横線混入。	破片	良	橙色 橙色
3	縄文土器	深鉢	H5混入	外面縄文、内面ナデ。	破片	良	鈍い赤褐色 灰黄褐色
4	弥生式土器	壺	H4混入	外面櫛描波状文、内面ナデ。	口縁破片	良	鈍い黄褐色 鈍い黄褐色
5	弥生式土器	甕	H4混入	外面櫛描簾状文、櫛描波状文、内面横ナデ、ミガキ。	頸部破片	良	鈍い黄橙色 鈍い黄橙色
6	弥生式土器	甕	H5混入	外面櫛描波状文、櫛描横線文、内面ミガキ。	破片	良	明黄褐色 鈍い黄褐色
7	弥生式土器	甕	H4混入	外面櫛描波状文、櫛描横線文、内面ミガキ。	頸部下部破片	良	橙色 橙色
8	弥生式土器	壺	H4混入	外面櫛描波状文、櫛描横状文、内面ナデ。	頸部下部破片	良	橙色 鈍い褐色
9	弥生式土器	甕	H7混入	外面櫛描波状文、内面ハケナデ。	破片	良	鈍い褐色 灰黄褐色
10	弥生式土器	甕	H6混入	外面櫛描波状文、内面ミガキ。	破片	良	鈍い灰褐色 灰黄褐色
11	弥生式土器	壺	H6混入	外面櫛描波状文、内面ミガキ。	破片	良	鈍い黄橙色 鈍い黄橙色
12	弥生式土器	甕	H5混入	外面斜ナデ後櫛描波状文、内面ヘラナデ。	破片	良	灰褐褐色 鈍い黄褐色
13	弥生式土器	壺	H4混入	外面櫛描波状文、内面ミガキ。	破片	良	鈍い黄橙色 鈍い黄橙色
14	縄文土器？	-	H7混入	外面ヘラガキ横線文、ヘラガキ斜線文、内面ナデ。胎容？	頸部破片	良	鈍い橙色 鈍い橙色
15	縄文土器？	-	H6混入	外面ヘラガキ横線文・斜め直線文、内面ナデ。加曽利B？	破片	良	黒色 鈍い橙色
16	弥生式土器	壺	H5混入	外面櫛描斜線文。	破片	良	鈍い黄橙色 鈍い黄橙色
17	弥生式土器	壺	H2混入	外面赤色塗彩・櫛描横線文、内面上部赤色塗彩・ミガキ。	頸部破片	良	上下部赤色 上部赤色

遺構外・混入遺物観察表

H１号住居址全景（西から）

H１号住居址掘方全景（南西から）

Ｔａ１号竪穴状遺構（北東から）

Ｔａ１号竪穴状遺構全景（南東から）

Ｔａ１号竪穴状遺構掘方全景（南から）

H３号住居址全景（南から）

H３号住居址カマド（東から）

H３号住居址カマド掘方（東から）

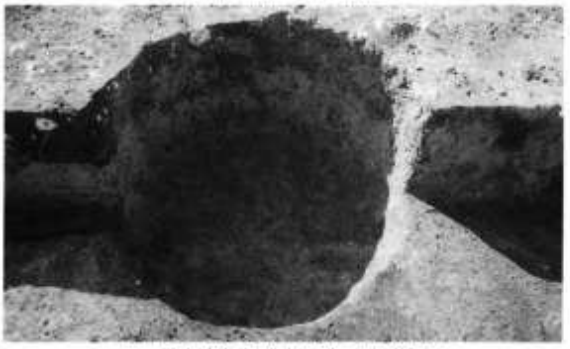
H３号住居址掘方（南から）

H４号住居址全景（東から）

H４号住居址カマド（東から）

H４号住居址調査風景（南西から）

H４号住居址掘方（東から）



D１号土坑全景（西から）H４を切る

H５号住居址全景（東から）

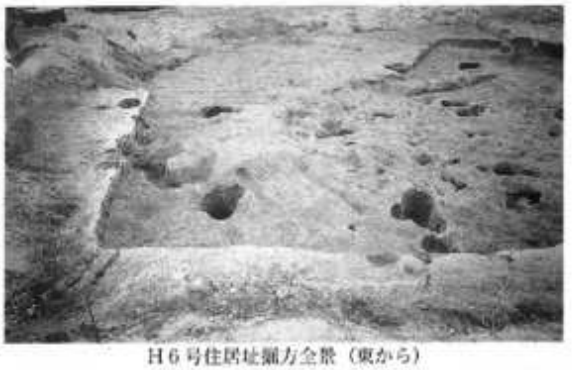
H５号住居址遺物出土状況（1）

H５号住居址遺物出土状況（2）

H５号住居址カマド（東から）

H５号住居址掘方全景（東から）

H６号住居址全景（東から）



H６号住居址掘方全景（東から）

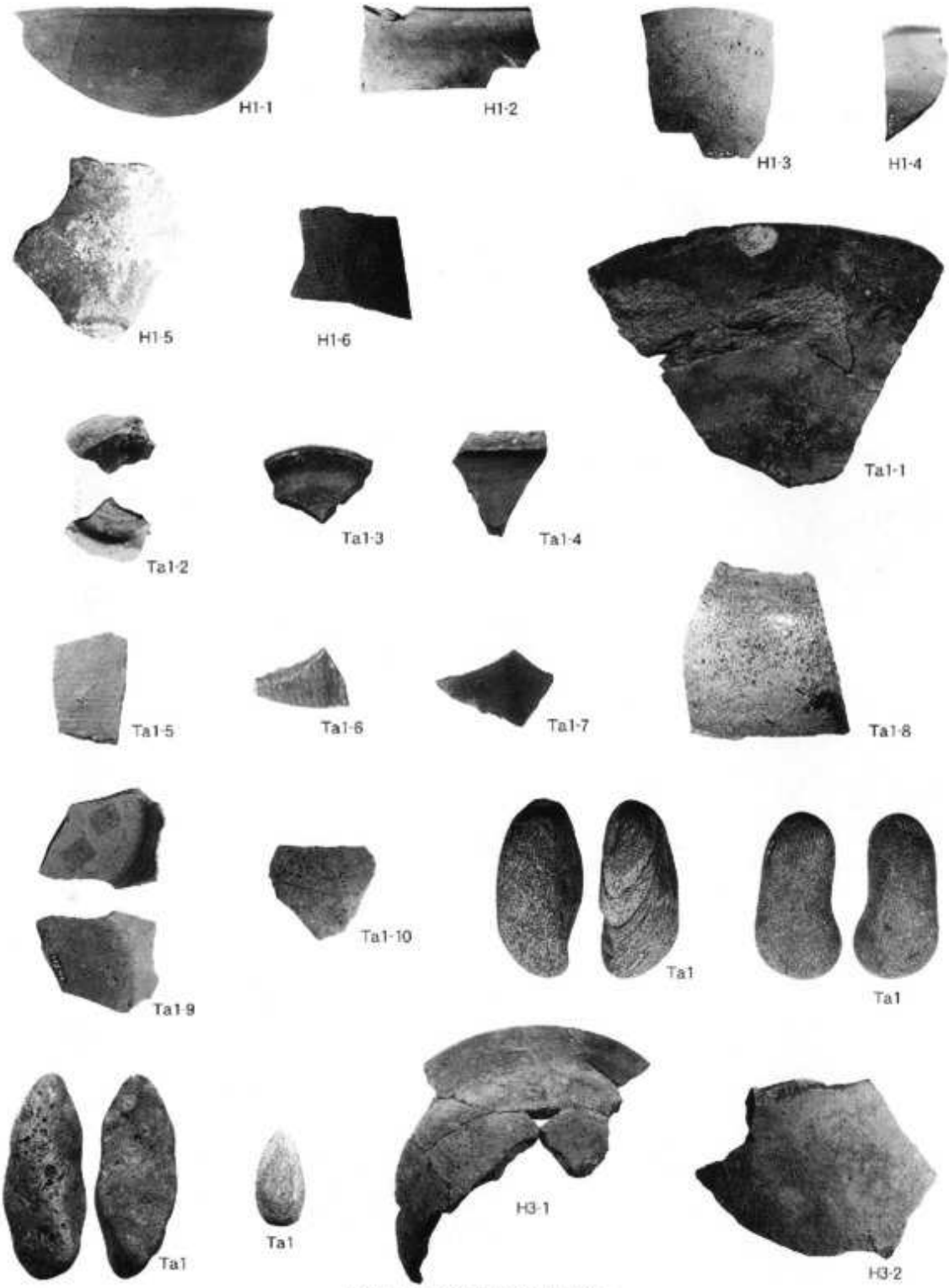
H７号住居址掘方全景（東から）

H７号住居址カマド掘方（東から）

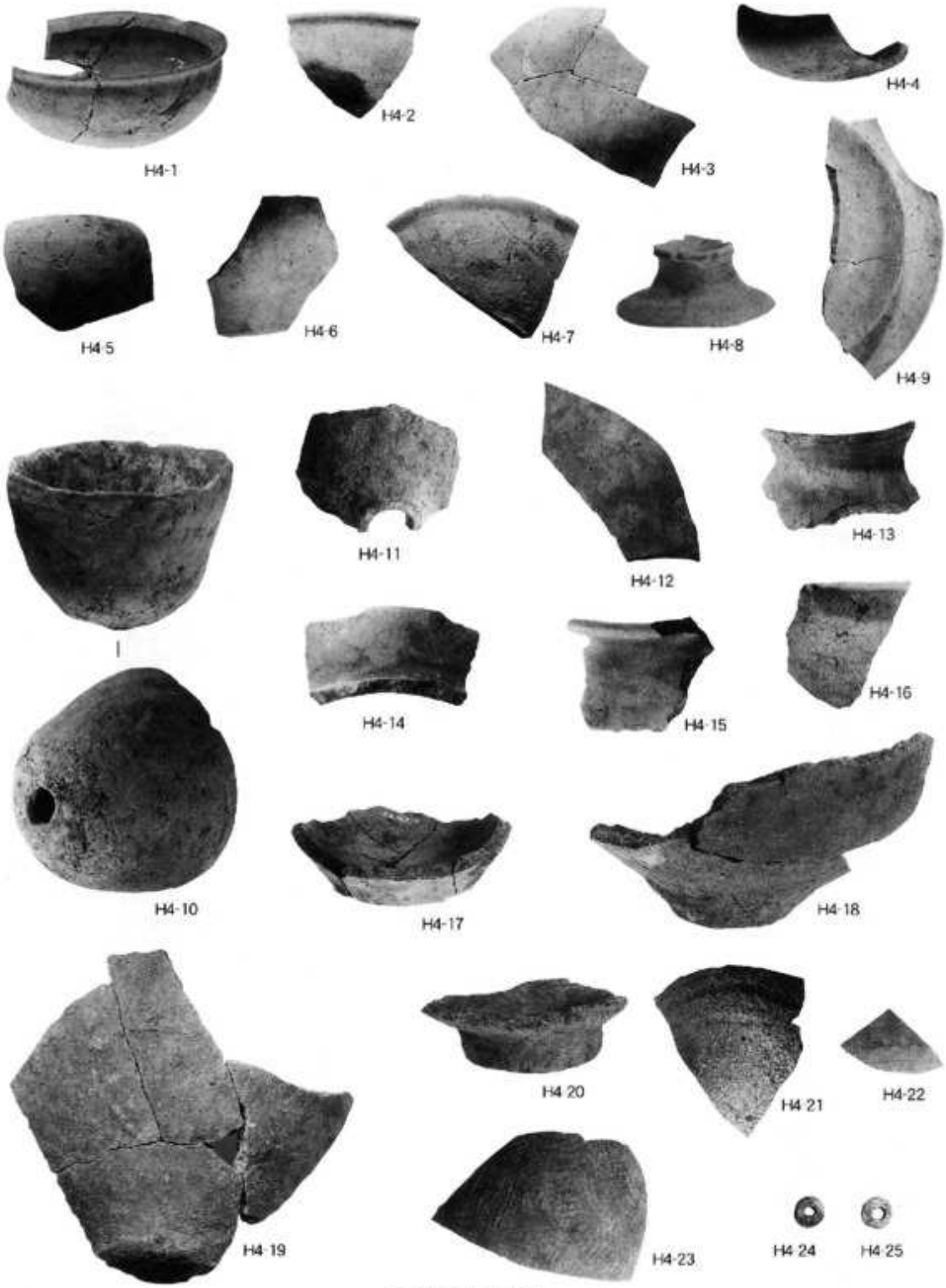
調査風景（南から）

西近津遺跡Ⅱ全景（北から）

西近津遺跡Ⅱ全景（南から）



H1・H2・H3号住居址出土遺物


H4-1
H4-2
H4-3
H4-4
H4-5
H4-6
H4-7
H4-8
H4-9
H4-10
H4-11
H4-12
H4-13
H4-14
H4-15
H4-16
H4-17
H4-18
H4-19
H4 20
H4 21
H4-22
H4-23
H4 24
H4 25

H 4 号住居址出土遺物

H4

H4

H4

H4

H5-1

H5-2

H5-3

H5-4

H5-6

H5-7

H5-5

H5-8

H４・H５号住居址出土遺物

H5-9

H6-2

H6-3

H6-1

H5-10

H6-4

H6-5

H6

H7-1

H7-2

H7-3

H7-4

外-1

外-2

外-3

外-4

外-5

外-6

外-7

外-8

外-9

外-10

外-11

外-12

外-13

外-14

外-15

外-16

外-17

H５・H６・H７号住居址，遺構外・混入出土遺物

一本柳遺跡群

北一本柳遺跡 II
調査報告書

KITA IPPON YANAGI

長野県佐久市岩村田
北一本柳遺跡II発掘調査報告書

清　水　俊　之
長野県佐久市教育委員会

一本柳遺跡群　北一本柳遺跡Ⅱ

所 在 地　佐久市岩村田666－1
調査委託者　清水　俊之
開発事業名　（仮称）レオパレス21清水邸新築工事
調 査 期 間　平成15年９月26日～10月３日（現場）
調 査 面 積　99㎡
調査担当者　上原　学

例　言・凡　例

1．本書は平成15年度に調査を行った長野県佐久市岩村田に所在する一本柳遺跡群北一本柳遺跡Ⅱの発掘調査報告書である。

2．作成・執筆は上原が行った。

3．本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

4．遺跡の略称－ＩＫＰⅡ

5．遺構の略称　竪穴住居址－Ｈ　　土壙墓－Ｄ　　溝跡－Ｍ　　ピット－Ｐ

6．スクリーントーンの表示は以下の通りである。

遺　構　　地山断面　　焼土・炭化物　　床下

遺　物　　赤色塗彩　　石器使用痕

7．挿図の縮尺　　遺　構　　住居址・溝跡－１／80　　土壙墓－１／40
遺　物　　土器－１／４　　銅鋲・紡錘車－１／２　　鉄製品－３／２　　石器－１／１・１／４

8．調査グリッドは公共座標に基づき４×４ｍに設定。

9．写真図版中の番号と同一遺構の実測図番号は一致する。

10．遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。

11．土説・土器色調は、農林水産省水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修1987年度版『新版標準土色帖』の表示に基づいた。

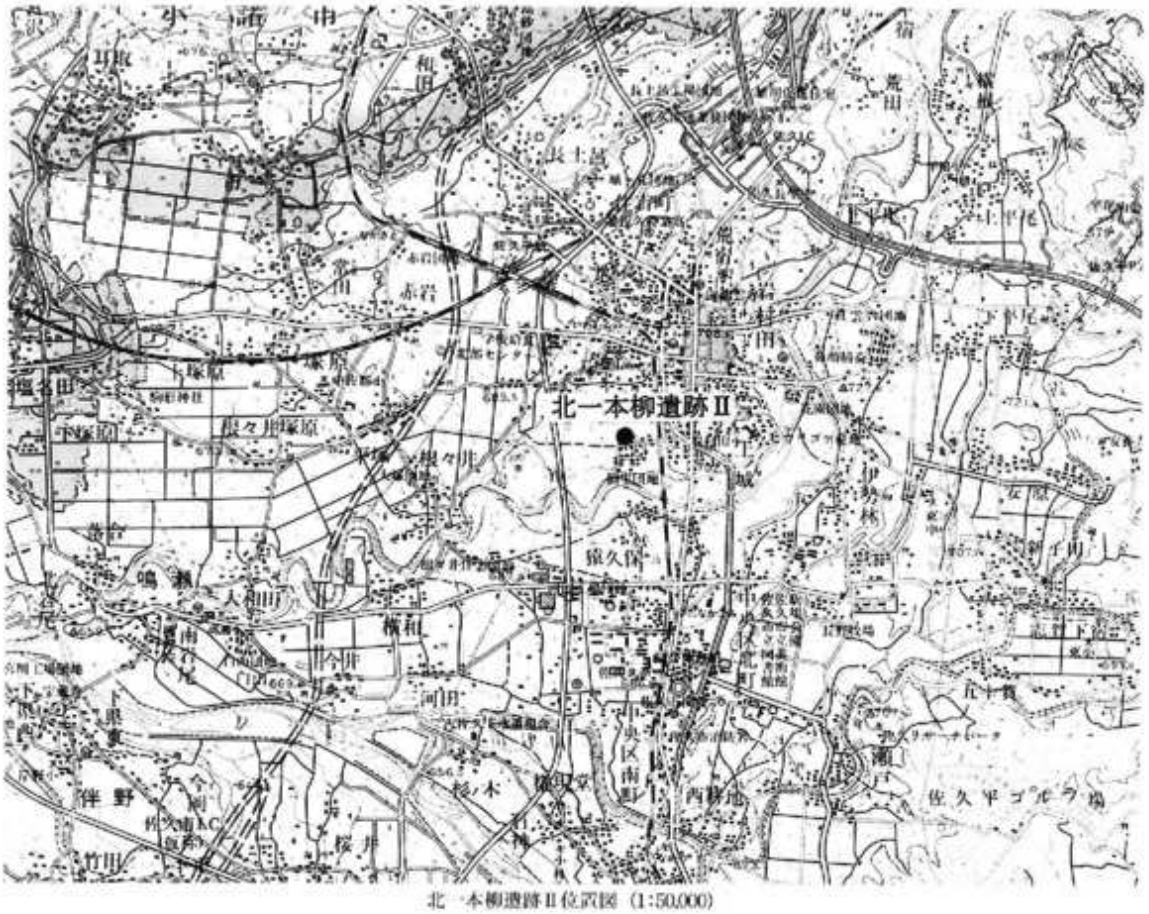
立地と経過

一本柳遺跡群は、佐久市岩村田市街地の西側に東西方向に長く展開し、標高685～702ｍを測る湯川右岸の台地上に展開する。調査対象地は、佐久市内を南北に横切る国道141号線臼田バイパス東側に位置し、周辺は以前から遺跡密集地として知られ、弥生時代中期から平安時代を主とする遺構が多数検出されており、県の重要遺跡にも指定されている。遺跡群内の調査としては、昭和43年に宅地造成に伴う東一本柳遺跡の調査が実施され古墳時代後期の住居址が５軒検出されたのをはじめとし、昭和46年には銅製の杏葉・辻金具、鉄製轡、玉類など豪華な副葬品を出土した東一本柳古墳、昭和47年には弥生時代後期の住居址７軒、平安時代の住居址10軒などを検出した北一本柳遺跡の調査が行われている。近年に至っては平成３～11年にかけて西一本柳遺跡Ⅰ～Ⅶ、平成12～14年にかけては西一本柳遺跡Ⅷの

調査がグランド造成・店舗・道路建設といった事業に伴い行われ、弥生・古墳・奈良平安時代の住居址200軒以上が発見されている。遺物では西一本柳遺跡Ⅰから鼻筋の通った切れ長の目をした弥生人を模倣したと思われる人面付土器の人面部が出土し注目された他、各遺跡からは土器を中心とした多量の遺物が出土している。

今回、集合住宅建設工事が行われることとなり、遺構の有無を確認するため開発面積1,412.76㎡の内56㎡の試掘調査を実施した。その結果、住居址、溝跡等の遺構が多数認められたため、開発主体者と協議を行い、遺構が破壊される西側区域99㎡の記録保存を目的として、佐久市教育委員会が主体となり発掘調査を行う運びとなった。

北一本柳遺跡Ⅱ調査区・試掘トレンチ配置図（1:1,000）



北一本柳遺跡Ⅱ位置図（1:50,000）

周辺遺跡位置図

遺構と遺物の詳細

遺　構

竪穴住居址	4軒	弥生時代後期
土壙墓	1基	弥生時代後期
溝跡	2条	不明

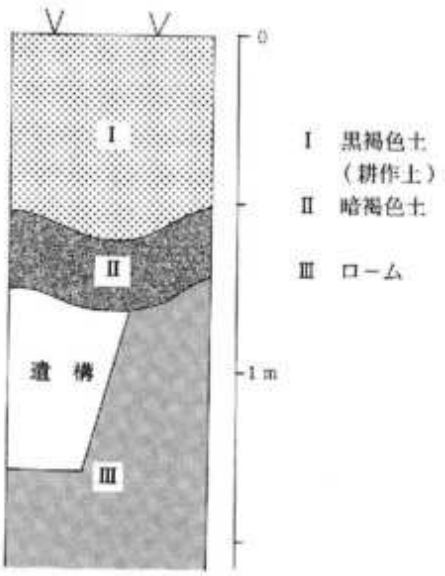
遺　物

出土量　テンバコ3箱（58×36×20cm）

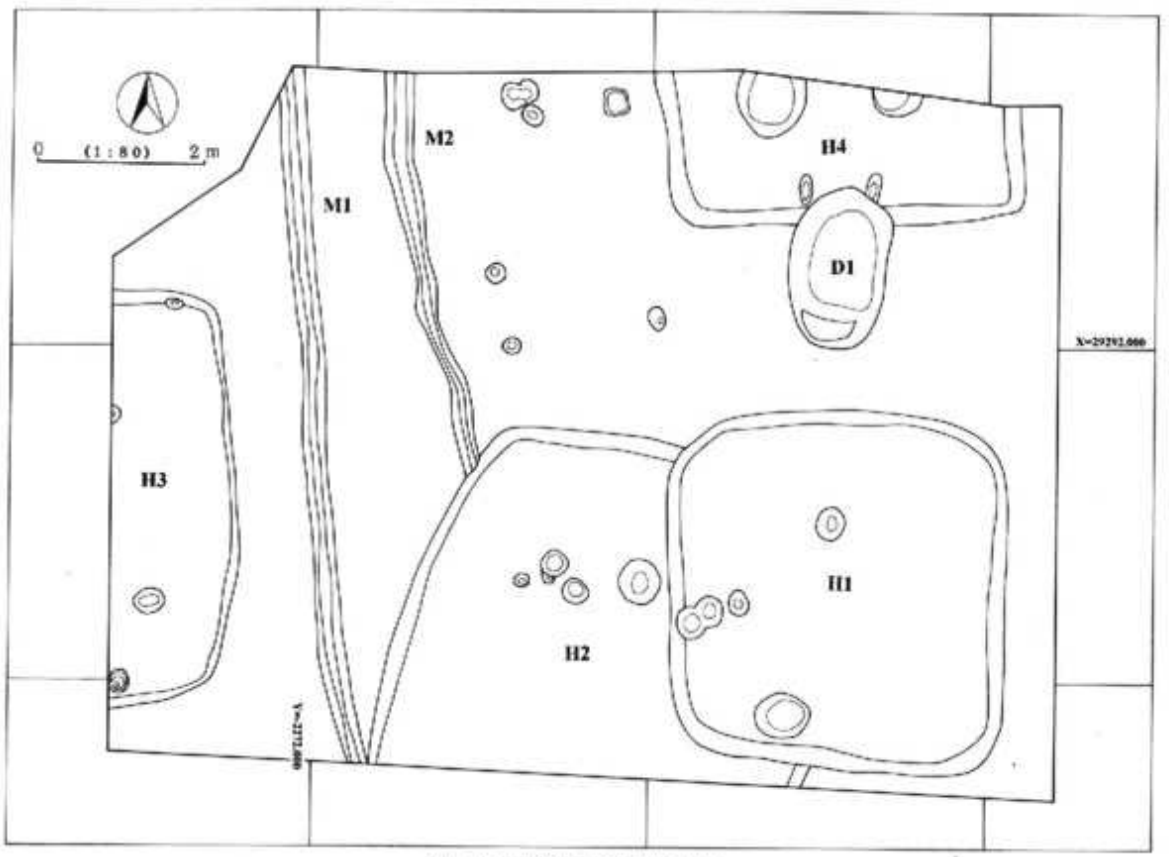
内　容　弥生式土器（後期　箱清水式－甕・壺・高坏・甑）
青銅製銅剣
鉄製品（破片のため詳細不明）
土製紡錘車（弥生式土器壺片転用）
石製品（すり石等）

基本層序

遺跡周辺は北に聳える浅間山の山麓末端部に広がる台地で、この台地は現在の浅間山を形成する過程に噴出した火砕流軽石流と降下火山灰砂が２度にわたり堆積したことによって形成された。上層に堆積した第一軽石流（黄褐色ローム）は雨水による浸食に弱く、長い年月の間に深く削り取られ、浅間の麓から放射状に幾筋もの浸食谷（田切り地形）を形成し、切り立った断崖によって台地を深く分断している。調査区は田切り地形末端のほぼ平坦な標高697mを測る台地上に位置し、南側350mには西方向に蛇行しながら流れる湯川が存在する。調査区内の層序は上層から40cm厚の耕作土、耕作土と軽石流の中間層にあたる暗褐色土、厚く堆積した黄褐色ローム（軽石流）である。遺構の確認は黄褐色ローム上面で行った。なお黄褐色ローム上面から40cmと比較的浅い位置で湧水が認められ、弥生時代後期の住居址床面付近まで達することから、現在は弥生時代に比して水位の上昇が考えられる。



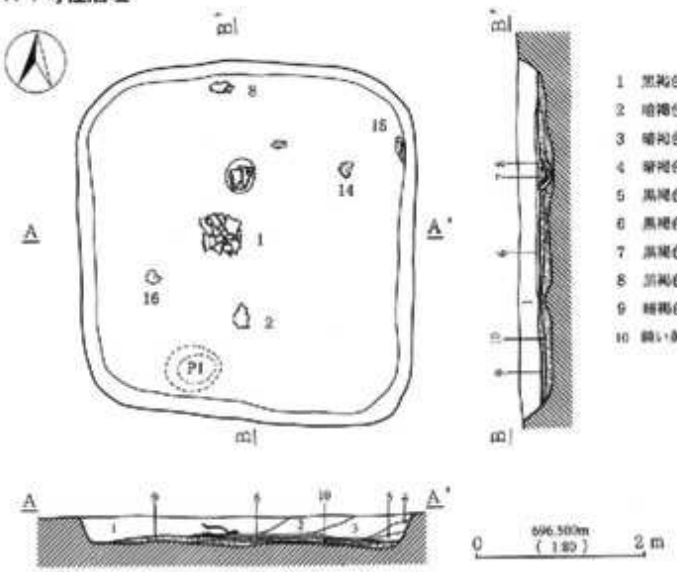
基本層序模式図



北一本柳遺跡Ⅱ遺構配置図（1:80）

第1節　竪穴住居址

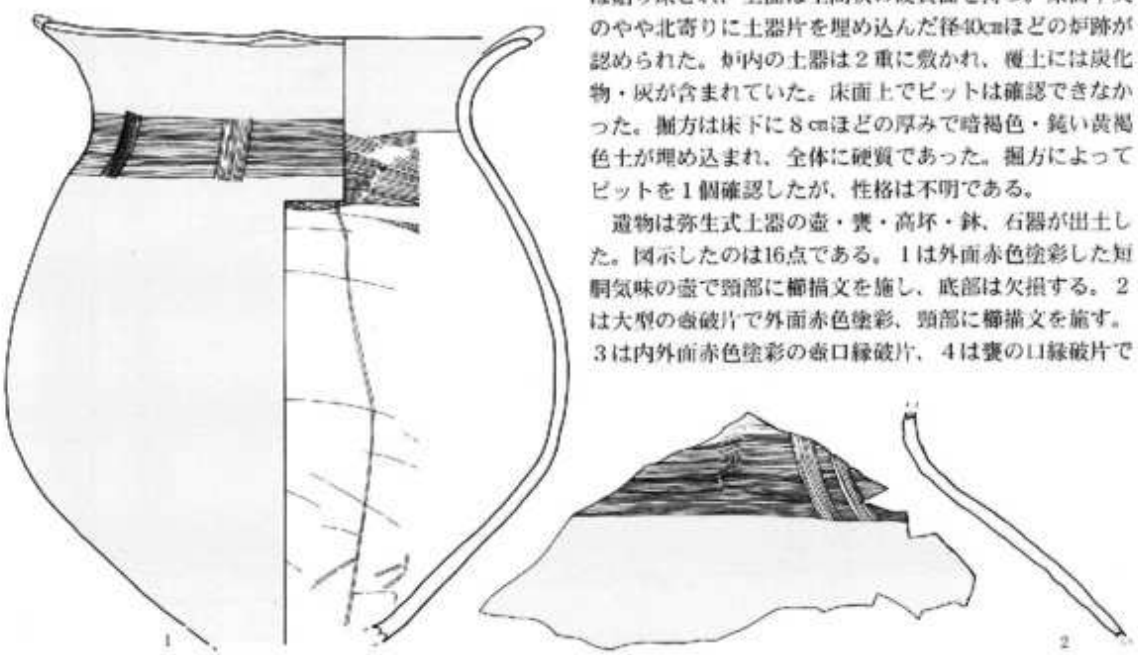
H１号住居址



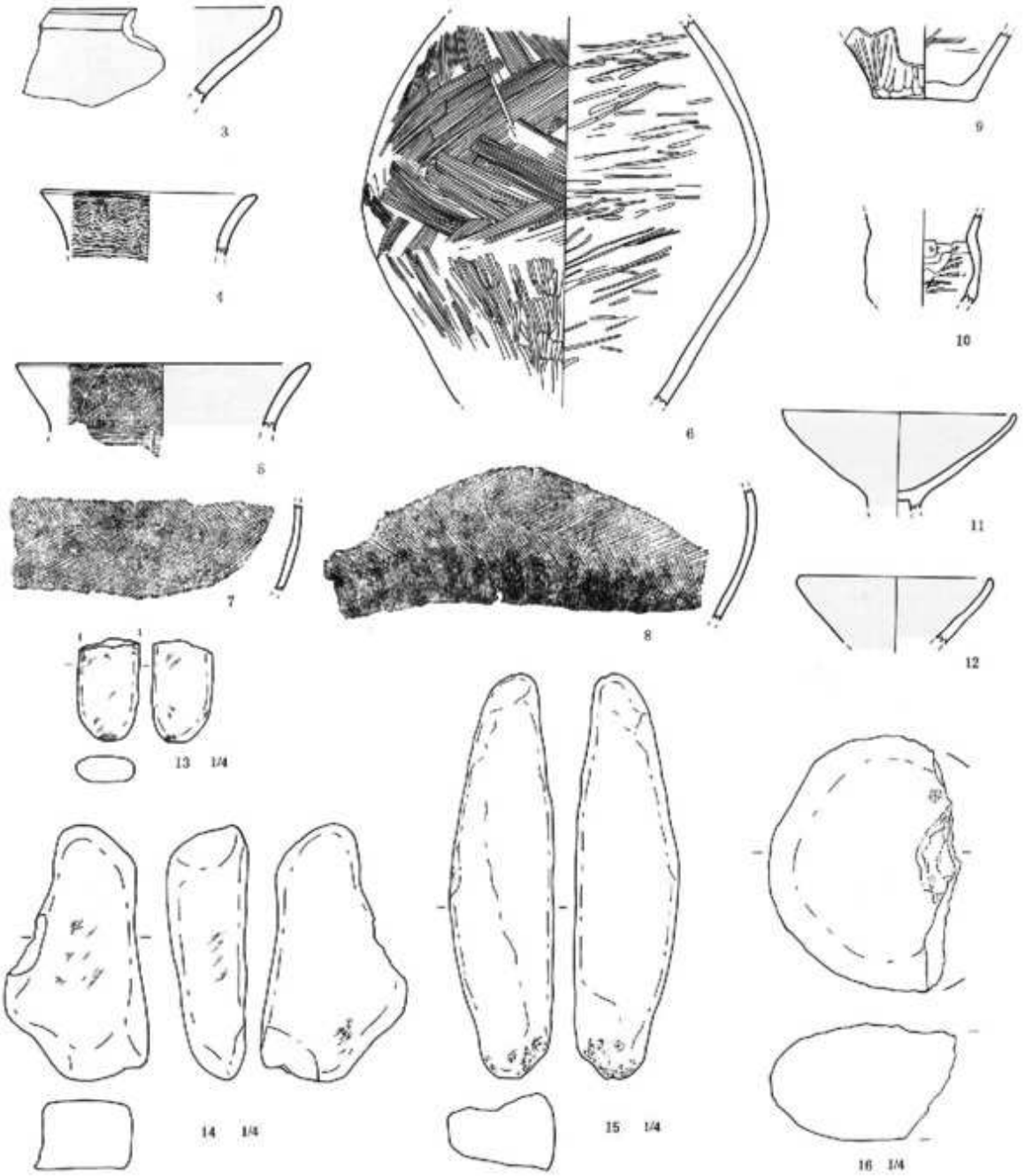
H1号住居址実測図

遺構は調査区中央のやや南に位置し、Ｈ２号住居址の北東コーナー付近を破壊し構築されている。覆土は黒褐色土及び暗褐色土が東から斜めに流れ込んだ状態で堆積していることから自然堆積と思われる。住居規模は最大で南北4.3m、東西4.0m、床面までの深さは28cmを測る。平面形態は隅丸方形である。壁際の周溝は認められなかった。床面は貼り床され、上面は土間状の硬質面を持つ。床面中央のやや北寄りに土器片を埋め込んだ径40cmほどの炉跡が認められた。炉内の土器は２重に敷かれ、覆土には炭化物・灰が含まれていた。床面上でピットは確認できなかった。掘方は床下に８cmほどの厚みで暗褐色・鈍い黄褐色土が埋め込まれ、全体に硬質であった。掘方によってピットを１個確認したが、性格は不明である。

遺物は弥生式土器の壺・甕・高坏・鉢、石器が出土した。図示したのは16点である。１は外面赤色塗彩した短胴気味の壺で頸部に櫛描文を施し、底部は欠損する。２は大型の壺破片で外面赤色塗彩、頸部に櫛描文を施す。３は内外面赤色塗彩の壺口縁破片、４は甕の口縁破片で



H1号住居址遺物実測図（1）



H1号住居址遺物実測図 (2)

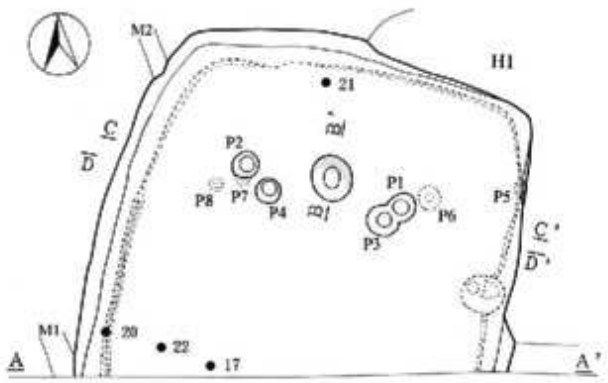
外面櫛描波状文、頸部簾状文を施す。5は甕の口縁破片で外面櫛描波状文、頸部簾状文、内面のみ赤色塗彩を施す。6は甕の胴部破損品で外面櫛描横羽状文、胴下部は細かいミガキを施す。7・8は甕胴部の破片で外面横羽状文を施し、同一個体の可能性が認められる。9は甕の底部、10は小型甕の破損品、11は逆「ハ」の字状に開く高坏の坏部で内外面赤色塗彩を施す。12は鉢の口縁破片と思われ、内外面赤色塗彩を施す。13～16は敲・すり石である。本住居址は弥生時代後期の住居址H２を切り、短胴気味の赤色塗彩された壺の存在から弥生時代後期後半としたい。

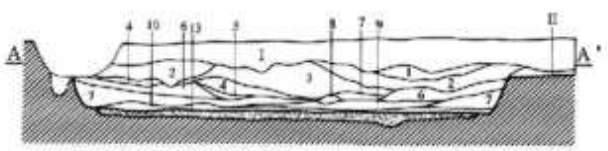
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位等	焼成	色調（外面）（内面）
1	弥生式土器	壺	29.2	－	－	口縁ハケ目・赤色塗彩・ミガキ。頸部ハケ目・櫛描横線文・垂下文 口縁内面・ミガキ・胴部赤色塗彩。内面ハケ目・ミガキ	底部欠損	良好	暗赤色 暗赤・鈍い赤褐
2	弥生式土器	壺	－	－	－	外面頸部櫛描横線文・垂下文。赤色塗彩・ミガキ。	頸部破片	良	赤色 鈍い橙色
3	弥生式土器	壺	－	－	－	内外面赤色塗彩・ミガキ。	口縁破片	良	赤色 赤色
4	弥生式土器	甕	[14.4]	－	－	外面頸部櫛描擬似文。外面口辺櫛描波状文。内面ミガキ。	口縁破片	良	鈍い黄橙色 灰黄褐色
5	弥生式土器	壺	[19.7]	－	－	外面頸部櫛描擬似文。外面口辺櫛描波状文。内面赤色塗彩・ミガキ	口縁破片	良	褐色 暗赤褐色
6	弥生式土器	壺	－	－	－	外面上部横線櫛描羽状文。下部縦ミガキ。内面横ミガキ。	胴部25%	良	明褐色 明褐色
7	弥生式土器	壺	－	－	－	外面櫛描横羽状文。内面横ミガキ。8と同一か？	胴部破片	良	褐色 灰褐色
8	弥生式土器	壺	－	－	－	外面上部横線横羽状文。下部縦ミガキ。内面横ミガキ。7と同一か？	胴部破片	良	黒褐色 灰褐色
9	弥生式土器	壺	－	6.8	－	外面ミガキ・ナデ。内面ミガキ。	底部	良	橙色 鈍い褐色
10	弥生式土器	小型壺	－	－	－	外面ケズリ。内面ナデ・ミガキ。	胴部～頸部破片	良	鈍い赤褐色 鈍い橙色
11	弥生式土器	高杯	15.6	－	－	内外面赤色塗彩・ミガキ。	杯部90%	良	赤色 赤色
12	弥生式土器	鉢	12.8	－	－	内外面赤色塗彩・ミガキ。	口縁破片	良	明赤褐色 明赤褐色

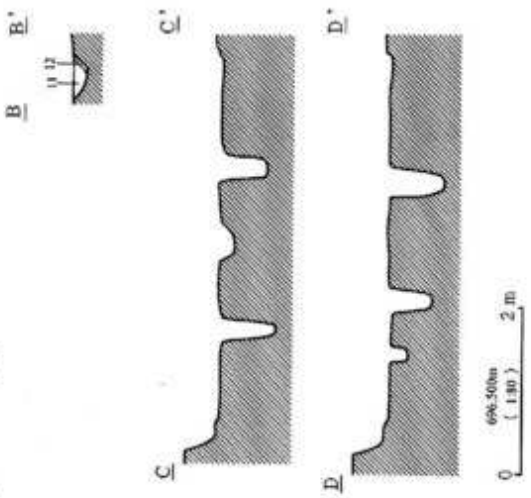
番号	出土位置	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
13	覆土	砥・すり石	[6.8]	4.1	1.7	80.8	上部欠損、下端敲打痕
14	床上	すり石	17	9.7	5.5	1,120	台石として使用？
15	床上	敲石	27	8.9	5.2	1,550	下部赤色付着物
16	床上	凹石	16.8	[12.8]	7.8	[2,100]	一部欠損、中央部に敲打痕

H１号住居址土器・石製品観察表

H２号住居址





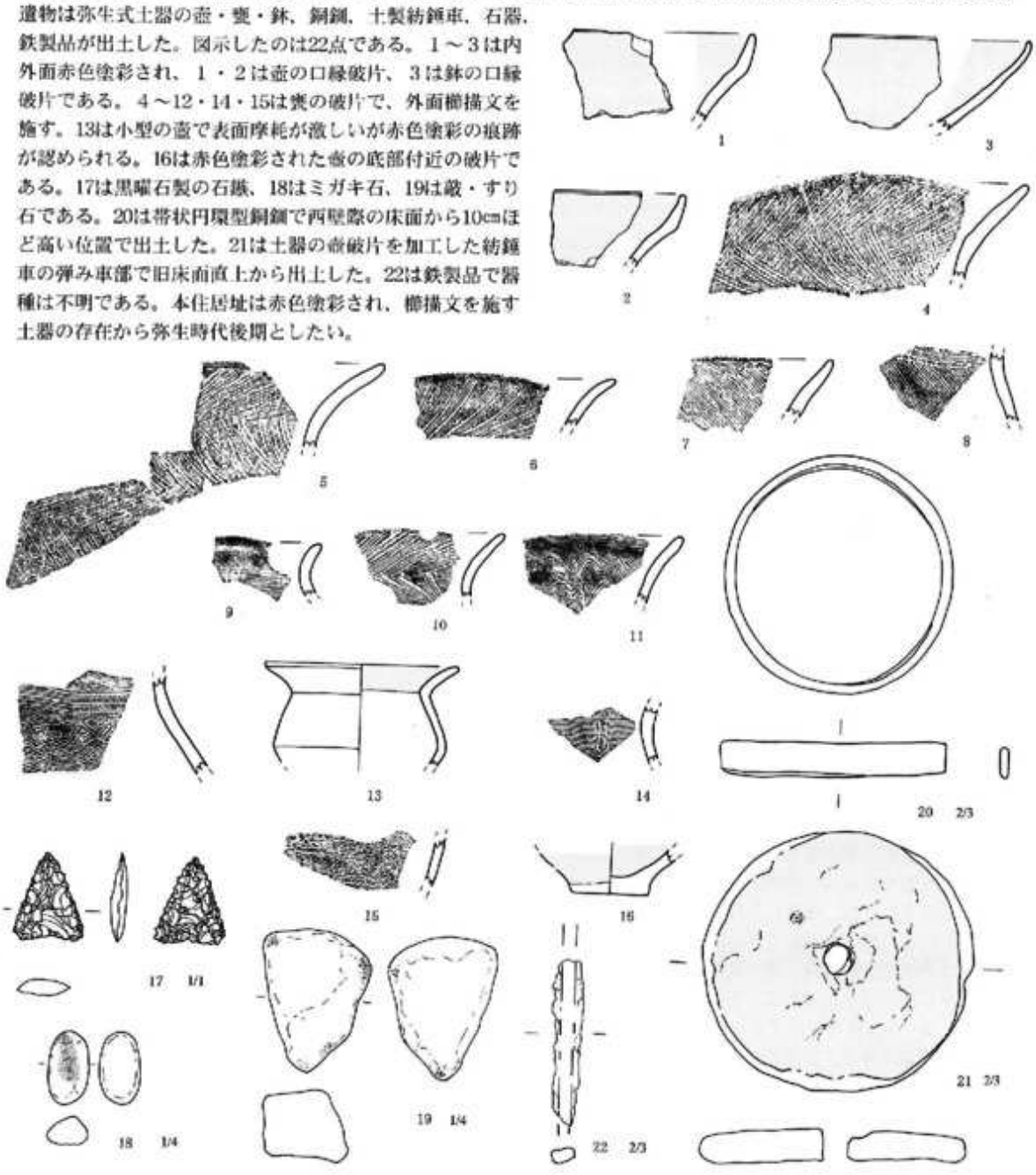


1　暗褐色土（10YR3/4）ローム多く、軽石・炭化物含む。
2　黒褐色土（10YR3/2）ローム中多く、軽石・炭化物含む。
3　暗褐色土（10YR3/4）ローム・軽石多く、炭化物・焼土含む。
4　暗褐色土（10YR3/3）ローム中多く、炭化物・軽含む。
5　暗褐色土（10YR3/3）ローム中多く（5>4）炭化物・軽石含む。
6　黒褐色土（10YR3/2）ローム粒・軽石・炭化物含む。
7　黒褐色土（10YR2/3）炭化物・ローム粒含む。西側上層で胴鎖・鉄・石鏃出土。
8　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒多く、軽石含む。
9　黒褐色土（10YR3/2）炭化物多く、ローム粒・軽石含む。
10　暗褐色土（10YR3/4）ロームと黒色土の混合土。しまりやや有り。
11　暗赤褐色土（5YR3/2）ロームブロック多量に含む。
12　黒褐色土（10YR2/2）炭化層。
13　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒、黒色土の混合土。（貼床）

H２号住居址実測図

遺構は調査区南に位置し、H１号住居址に切られ住居址の南側２分の１程度は調査区域外となる。規模は東西5.0m、南北は確認規模で4.2m、床面までの深さは40cmを測る。平面形態は周辺の同時期の住居址調査例から南北に長い長方形と考えられる。床面は壁から10cm内外の幅を除き全体に貼り床されている。ピットは北壁寄りから２対、４本が認められ、北壁寄りのピット間に径52cm、深さ14cmのかが認められた。炉の覆土からは土器片が出土し、北側に黒色の炭化層が堆積していた。床面調査終了後、掘方掘り下げを行った結果、床面下部に平坦な硬質面が確認できた。本住居址には２対の主柱穴と思われるピットが存在することから、柱の移動を伴う建てかえがあったと推測できた。

遺物は弥生式土器の壺・甕・鉢、銅鋼、土製紡錘車、石器、鉄製品が出土した。図示したのは22点である。１～３は内外面赤色塗彩され、１・２は壺の口縁破片、３は鉢の口縁破片である。４～12・14・15は甕の破片で、外面櫛描文を施す。13は小型の壺で表面摩耗が激しいが赤色塗彩の痕跡が認められる。16は赤色塗彩された壺の底部付近の破片である。17は黒曜石製の石鏃、18はミガキ石、19は敲・すり石である。20は帯状円環型銅鋼で西壁際の床面から10cmほど高い位置で出土した。21は土器の壺破片を加工した紡錘車の弾み車部で旧床面直上から出土した。22は鉄製品で器種は不明である。本住居址は赤色塗彩され、櫛描文を施す土器の存在から弥生時代後期としたい。



H２号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位等	焼成	色調（外面）（内面）
1	弥生式土器	壺	-		-	内外面赤色塗彩・ミガキ。2と同一か？	口縁破片	良	赤色 赤色
2	弥生式土器	壺		-	-	内外面赤色塗彩・ミガキ。1と同一か？	口縁破片	良	赤色 赤色
3	弥生式土器	鉢		-	-	内外面赤色塗彩・ミガキ。	口縁破片	良好	赤色 赤色
4	弥生式土器	甕			-	外面櫛描横羽状文。5と同一か？	口縁破片	良	灰褐色 鈍い橙色
5	弥生式土器	甕	-	-	-	外面櫛描横羽状文。4と同一か？	口縁破片	良好	鈍い橙色 橙色
6	弥生式土器	甕				外面斜線文。内面ミガキ。	口縁破片	良	褐色 褐色
7	弥生式土器	甕				外面斜線文。内面ミガキ。	口縁破片	良	暗褐色 暗赤褐色
8	弥生式土器	甕	-	-	-	外面櫛描簾状文、櫛描横羽状文。内面ナデ・ミガキ。	頸部破片	良	鈍い橙色 鈍い褐色
9	弥生式土器	甕	-	-	-	口縁・内面横ミガキ。頸部櫛描簾状文。	口縁破片	良	暗赤褐色 鈍い赤褐色
10	弥生式土器	甕				外面櫛描横羽状文。内面横ミガキ。	口縁破片	良	鈍い橙色 鈍い黄褐色
11	弥生式土器	甕			-	外面ハケ目後櫛描波状文。内面ハケ目。	口縁破片	良	浅黄橙色 浅黄橙色
12	弥生式土器	甕	-		-	外面口辺部櫛描斜線文・頸部櫛描直線文・胴部櫛描波状文。内面ミガキ。	頸部破片	良	橙色 鈍い橙色
13	弥生式土器	小型甕	[13.0]		-	表面磨耗。口縁内面赤色塗彩・ミガキ。	口縁～体部破片	不良	橙色 暗赤褐色
14	弥生式土器	甕	-		-	外面櫛描簾状文、櫛描波状文。内面横ミガキ。	頸部破片	良	鈍い橙色 鈍い橙色
15	弥生式土器	甕	-			外面櫛描波状文。内面縦ミガキ。	胴部破片	良	橙色 橙色
16	弥生式土器	壺		5.4	-	内外面赤色塗彩、ミガキ。	底部	良	赤色 赤色

番号	出土位置	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
17	II区南床上15cm	石鏃	1.5	1.1	0.25	0.3	
18	覆土	ミガキ石	4.8	2.7	1.8	36.1	一部分にミガキ痕
19	II区北床上	敲・すり石	9.6	7.3	4.5	390	赤色の粉状物付着

番号	出土位置	材質	径cm	高cm	厚さcm	重量g	断面形	備考
20	II区南床上10cm	青銅	5.7～5.98	0.9	0.24	11.1	長方形	完形、鋳造品

番号	器種	出土位置cm	径(最大)cm	厚さcm	孔径cm	重量g	備考
21	紡錘車	II区北旧床直上	6.8	0.8	0.6	41.5	弥生式土器破片転用。片面赤色塗彩

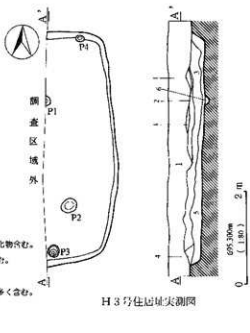
番号	器種	出土位置cm	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
22	不明	II区南床上15cm	4.1	0.4	0.3	1.5	両端部欠損

H2号住居址土器・石製品・銅釧・紡錘車・鉄製品観察表

H3号住居址

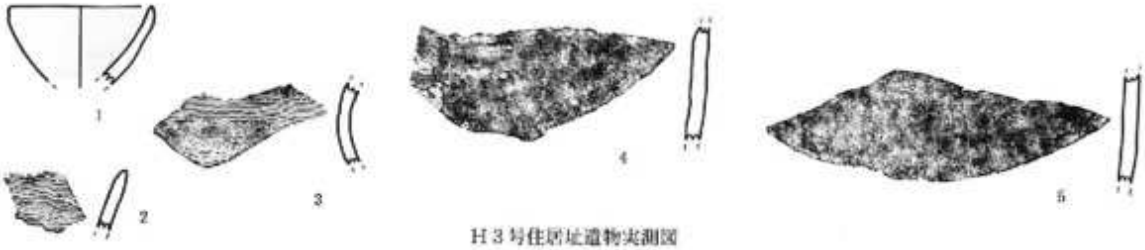
遺構は調査区西に位置し、住居址西側の大半は調査区外となる。規模は南北4.9m、東西は確認できた規模の最大で1.6m、床面までの深さは38cmを測る。平面形態は隅丸の方形と考えられる。覆土は暗褐色土、黒褐色土がほぼ水平に堆積している。床面は地山を直接床面とした状態で表面は土間状に固く平坦である。ピットは床面上から4個認められたが、確実に主柱穴と断言できるものは存在しなかった。炉などの施設は確認できなかった。

遺物は弥生式土器の鉢・甕・壺が出土したが、いずれも破片である。図示したのは5点である。1は小型の鉢破片で内外面赤色塗彩を施す。2・3は甕の破片で2は外面櫛描波状文を施す口縁破片、3は外面櫛描直線文、櫛描波状文を施す頸部破片である。4・5は甕又は壺の胴下半部破片で縦方向のミガキを施す。本住居址は赤色塗彩された壺片、櫛描波状文の甕片の出土から弥生時代後期としたい。



1 暗褐色土（10YR3/3）ローム粒・軽石やや多い。
2 黒褐色土（10YR2/3）ローム粒・軽石やや多く、炭化物含む。
3 暗褐色土（10YR3/4）ローム多く、軽石・炭化物含む。
4 暗褐色土（10YR3/3）ローム少量含む。
5 暗褐色土（10YR3/3）ローム粒・軽石少量、炭化物多く含む。
6 黒褐色土（10YR2/3）ローム少量含む。（ピット）。

H3号住居址実測図



H３号住居址遺物実測図

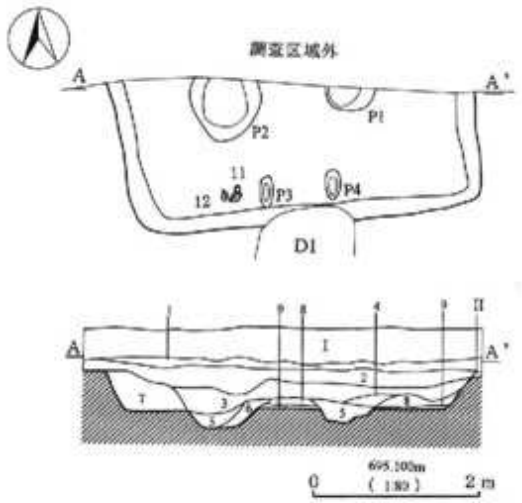
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位等	地域	色調（外面）（内面）
1	弥生式土器	鉢	[8.6]	－	－	内外面赤色塗彩、横ミガキ。	口縁破片	員	赤色 / 赤色
2	弥生式土器	甕	－	－	－	外面櫛描波状文、内面横ミガキ。	口縁破片	員	暗褐色 / 褐色
3	弥生式土器	壺	－	－	－	外面ハケ目、櫛描波状文、頸部櫛描直線文、内面横ミガキ。	頸部破片	員	橙・明褐色 / 橙色
4	弥生式土器	甕or壺	－	－	－	外面縦ミガキ、極僅み痕、内面剥離。	胴部下半破片	員	明黄褐色 / 薄い黄橙色
5	弥生式土器	甕or壺	－	－	－	外面縦ミガキ、内面摩耗。	胴部下半破片	員	薄い黄橙色 / 薄い黄橙色

H３号住居址遺物観察表

H４号住居址

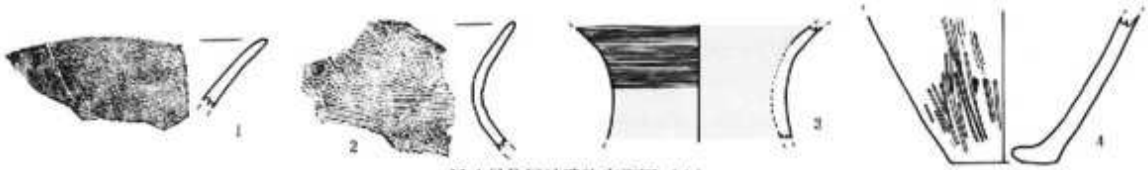
遺構は調査区北に位置し、住居址北側の大半は調査区外となり、Ｄ１号土坑に切られる。規模は東西4.2m、南北は確認できた最大で1.8m、床面までの深さは46cmを測る。平面形態はやや隅丸の方形または長方形と考えられる。床面は地山を直接床面としており、固く平坦である。床面直上には生活時に堆積したと思われる薄い炭化物を多く含む黒色土が堆積している。床面上からピット４個が認められ、Ｐ３・Ｐ４は入口に関係すると思われる。Ｐ１・Ｐ２は主柱穴と考えられたが土層断面では、床面より上層の覆土中から落ち込んでおり、床面上に堆積した黒色土上にピットを取り囲むように厚く黄褐色のローム土が堆積していることから、別遺構である可能性も考えられる。

遺物は弥生式土器の甕・壺・甑・高坏、石器が出土したがいずれも破片である。図示したのは12点である。１・２・６～９は甕で外面櫛描波状文及び頸部櫛描簾状文を施す。３は赤色塗彩された壺の頸部破片で櫛描直線文を施す。４は底部に穿孔の痕跡が認められることから甑と思われる。５は赤色塗彩された鉢の底部周辺破片である。10は赤色塗彩された壺の破片と思われる。住居址は赤色塗彩された壺片、櫛描波状文の甕片の出土から弥生時代後期としたい。

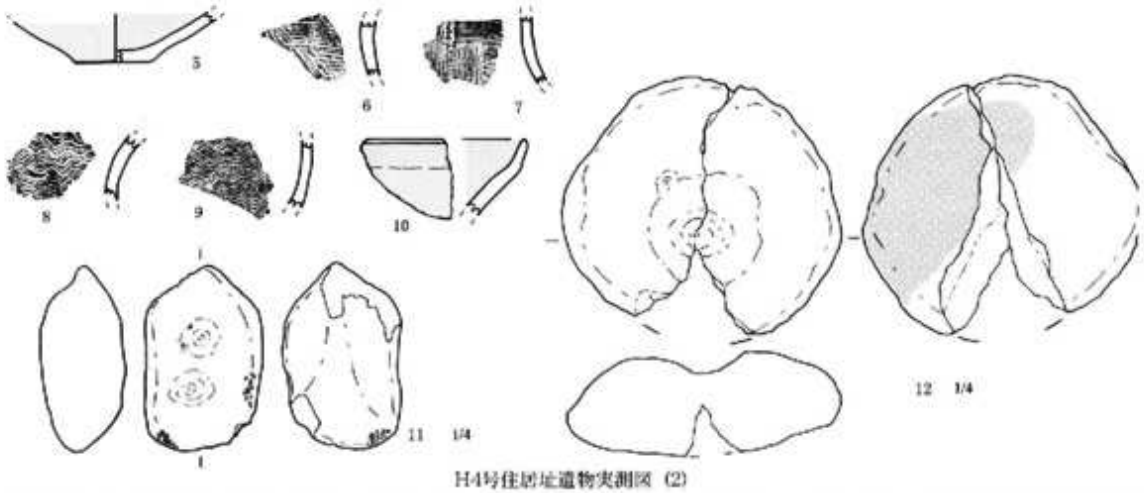


1 黒褐色土（10YR2/3）ローム粒、焼石少量含む。
2 暗褐色土（10YR3/3）ローム粒・焼石含む。
3 暗褐色土（10YR3/3）ローム粒・軽石やや多く、炭化物含む。
4 暗褐色土（10YR3/4）ローム粒・軽石含む。
5 暗褐色土（10YR3/4）ローム粒・軽石多く含む。
6 鈍い黄褐色土（10YR4/3）ローム多く含む。（5＜6）
7 暗褐色土（10YR3/3）ローム粒・焼石・炭化物含む。
8 褐色土（10YR4/6）ローム土。
9 黒褐色土（10YR3/2）炭化物多く、ローム含む。

H４号住居址実測図



H４号住居址遺物実測図（１）



H4号住居址遺物実測図 (2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位等	遺存	色調（外面）（内面）
1	弥生式土器	壺	－	－	－	外面櫛描波状文。内面ハケ目後ミガキ。	口縁破片	良	黒褐色 褐色
2	弥生式土器	壺	－	－	－	外面櫛描波状文。頸部櫛描簾状文。	口縁～頸部破片	良	暗褐色 暗褐色
3	弥生式土器	壺	－	－	－	内外面赤色塗彩、ミガキ。外面頸部櫛描直線文。	頸部	良	赤色 暗赤色
4	弥生式土器	甕	－	6.4	－	外面煤ミガキ。	底部～胴部	良	鈍い黄橙色 鈍い黄橙色
5	弥生式土器	鉢	－	4.5	－	内外面赤色塗彩、ミガキ、底部ミガキ、一部赤色。	底部～体部	良	赤色 赤色
6	弥生式土器	壺	－	－	－	外面櫛描横羽状文。内面横ミガキ。	破片	良	暗褐色 鈍い黄橙色
7	弥生式土器	壺	－	－	－	外面頸部横羽状文、外面櫛描垂下文・直線文。	頸部破片	良	淡い褐色 鈍い黄橙色
8	弥生式土器	壺	－	－	－	外面櫛描波状文。内面横ミガキ。	頸部破片	良	明黄褐色 淡い黄橙色
9	弥生式土器	壺	－	－	－	外面櫛描波状文。内面ミガキ。	破片	良	明褐色 褐色
10	弥生式土器	甕	－	－	－	内外面赤色塗彩、ミガキ。	口縁破片	良	赤色 赤色

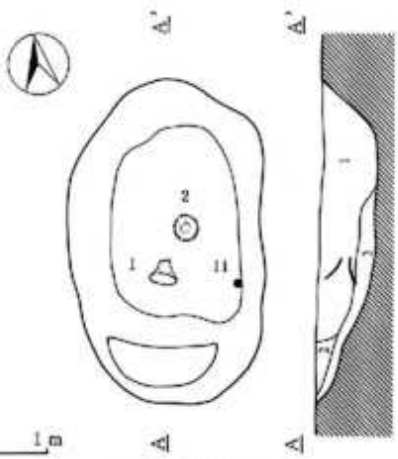
番号	型土位置	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
11	南壁際床上	凹石	11.1	7.2	5.2	580	上下欠損。表面凹2ヵ所。
12	南壁際床上	凹石	15.2	16.5	6.5	[1,490]	表面敲痕。裏面すり痕。

H４号住居址土器・石製品観察表

第２節　土坑

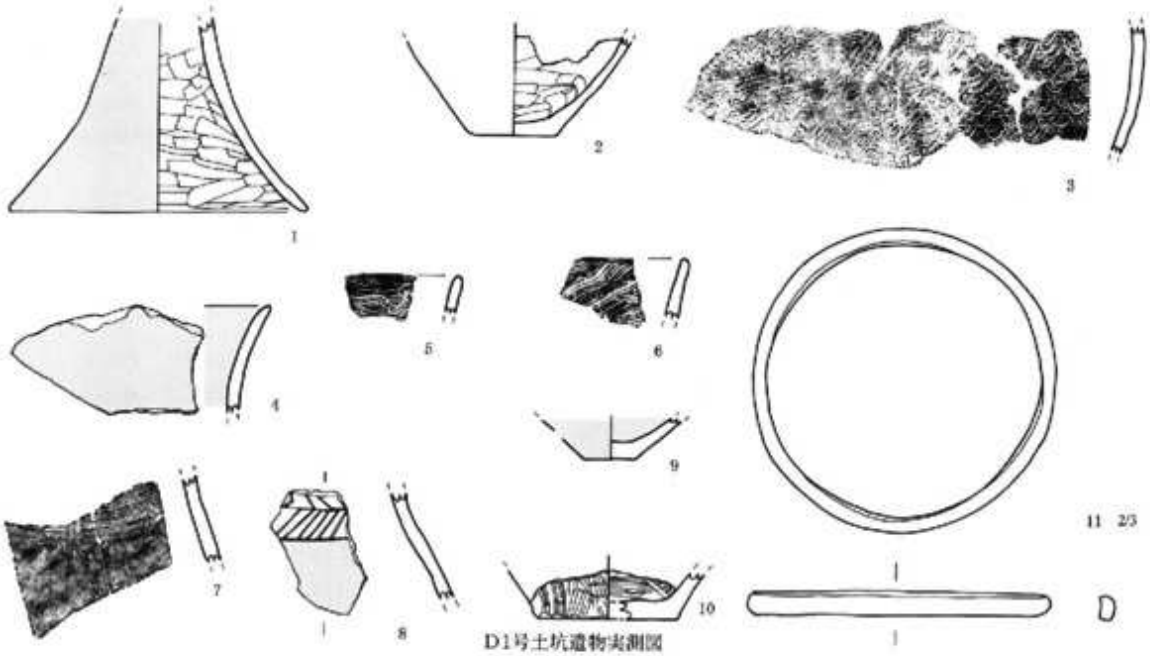
Ｄ１号土坑

遺構は調査区北に位置し、Ｈ４号住居址を切る。規模は南北1.9m、東西1.1m、深さ32cmを測る。平面形態はやや不整の楕円形である。遺物は弥生式土器の高坏・甕・壺・鉢、銅鋤が出土した。図示したのは11点である。１は赤色塗彩された高坏脚部で土坑の中心付近から、２は小型甕の胴下半から底部で土坑床面直上に伏せた状態で出土した。他の土器は小破片で外面櫛描文を施す甕、頸部に櫛描文、外面赤色塗彩を施す壺・内外面赤色塗彩を施す鉢等が認められる。11は円環型銅鋤で東壁の高い位置で出土した。これまで佐久市で出土している帯状円環型銅鋤は断面が薄く帯状に仕上げられているが、今回出土した鋤は断面厚みのある蒲鉾形で弥生時代東日本ではあまり見られない形態とされる。調査後、遺構内の覆土を持ち帰りふるいにかけたが土器以外の遺物は出土しなかった。しかし、遺構からは銅鋤といった特徴的な遺物が出土したことから土壙墓と考えられる。



1　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒多く、炭化物含む。
2　鈍い黄褐色土（10YR4/3）ローム多く含む。
3　黒褐色土（10YR2/3）ローム少量含む。

Ｄ１号土坑実測図



D1号土坑遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・遺存等	焼成	色調（外面）（内面）
1	弥生式土器	高杯	—	17.5	—	外面赤色塗彩、縦ミガキ、脚部表面剥離。内面ヘラナデ。	脚部	良	赤色 黒褐色
2	弥生式土器	壺	—	5.1	—	外面表面摩耗、ケズリ。内面ヘラナデ。	底部～胴部	良	浅黄橙色 浅黄橙色
3	弥生式土器	甕	—	—	—	外面櫛描波状文。内面横ミガキ。	胴部破片	良	鈍い黄橙色 鈍い黄橙色
4	弥生式土器	壺	—	—	—	内外面赤色塗彩。外面縦ミガキ、内面横ミガキ。	口縁破片	良	赤色 赤色
5	弥生式土器	甕	—	—	—	外面櫛描波状文。	口縁破片	良	鈍い黄橙色 鈍い黄橙色
6	弥生式土器	甕	—	—	—	外面櫛描斜格子文。	口縁破片	良	鈍い褐色 暗褐色
7	弥生式土器	壺	—	—	—	外面頸部櫛描斜格子文、櫛描垂下文。赤色塗彩痕跡。内面摩耗。	頸部破片	良	暗赤褐色 橙色
8	弥生式土器	壺	—	—	—	外面赤色塗彩。外面胴部ハケ目、櫛羽状文。	頸部破片	良	赤色・明褐色 浅黄橙色
9	弥生式土器	鉢	—	2.9	—	内外面赤色塗彩、ミガキ。	底部	良	赤色 赤色
10	弥生式土器	甕	—	(8.2)	—	外面櫛ナデ、縦ミガキ、内面ナデ、ミガキ。底部ミガキ。	底部破片	良	鈍い黄橙色 鈍い黄橙色

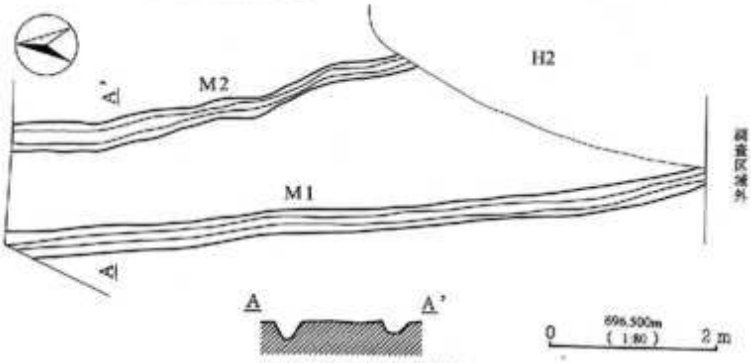
番号	出土位置	材質	径cm	幅cm	厚さcm	重量g	断面形	備考
11	表壁検出下5cm	青銅	6.71～6.84	0.4	0.32	20.7	薄平形	完形、鋳造品

D１号土坑土器・銅鋼観察表

第３節　溝状遺構

Ｍ１・２号溝状遺構

遺構は調査区西をおよそ南北方向に２条が平行して確認された。規模はＭ１が長さ8.5m、幅36cm、深さ24cm、M2が長さ4.9m、幅33cm、深さ18cmを測る。Ｈ２を切るが遺構内から遺物が出土していないため遺構の時期は不明である。



Ｍ１2号溝状遺構実測図

調査の成果

今回の調査は99㎡と非常に狭い限られた範囲であったが、弥生時代後期と考えられる住居址４軒、土壙墓１基など予想以上の遺構を発見することができた。住居址のうち１軒は全体調査が可能であったが、残り３軒の半分以上は調査区域外であるため部分的な調査にとどまった。遺物は弥生式土器が中心だが１号土壙墓及びＨ２号住居址からは弥生時代には貴重品とされる青銅製の銅釧（腕輪）が出土した。以下銅釧について記述する。

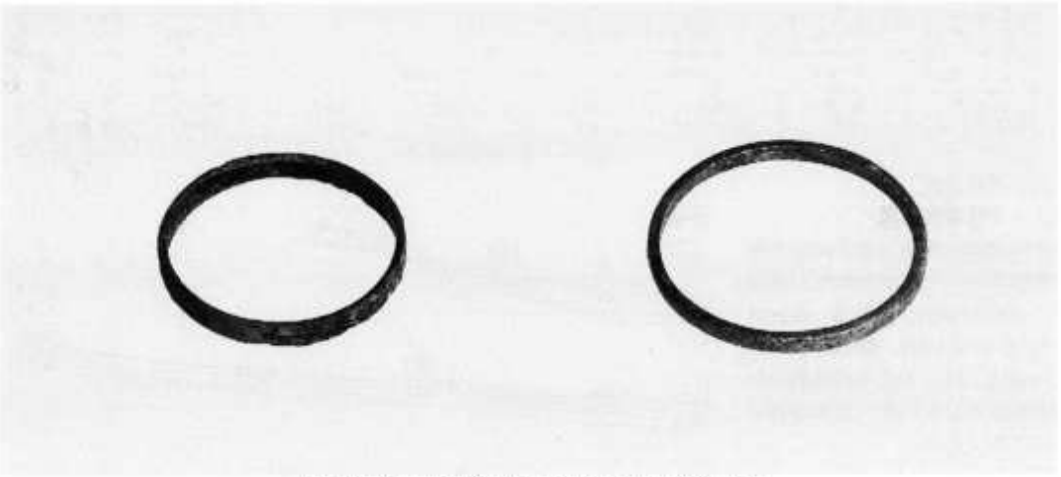
銅釧の出土した土壙墓の規模は南北1.9m、東西1.1m、深さ32cmの楕円形で、釧は土壙の南東隅上層から発見され、他に弥生式土器が出土した。住居址は北側半分の調査を行い南側は調査区外となる。調査した規模は東西5.0m、南北は調査規模で4.2m、深さは40cmを測り、平面形態は同時期の住居址調査例から南北方向に長い長方形と考えられる。銅釧は住居址西壁際、調査区境界付近の床面からやや浮いた位置で発見された。他に弥生式土器、赤色塗彩された弥生式土器褄片転用の土製紡錘車（糸紬に使用）が出土している。

今回出土した銅釧は土壙墓出土のものが外径6.71～6.84cm、幅4.0mm、厚さ3.2mm、重さ20.7ｇを測り、これまで佐久市を始め、東日本各地で出土している断面縦長の長方形あるいは細長い蒲鉾型の帯状円環型銅釧に比べ幅が狭く、厚みがあり、断面が方形に近い類例のない形状をしている。一方住居址出土のものは外径5.7～5.98cm、幅９mm、厚さ2.4mm、重さ11.1ｇを測る各遺跡で出土している帯状円環型銅釧に酷似する形状である。

帯状円環型銅釧は東日本一帯に分布する形態で、型に流し込んで製作する。（鋳造品）完形品は土壙墓（お墓）から出土することが多く、被葬者が身につけたまま埋葬されたと考えられている。破損品、あるいは再生品（破片に穴をあけペンダントにしたもの、腕輪には小さく破片を再度円環にした途中に切り目を持つ断環・小円環）は土壙墓以外の住居址などの遺構から出土することが多い。県内で完形に近い遺跡は佐久市、長野市、茅野市など７箇所前後報告されており、大半が土壙墓から出土している。北一本柳遺跡のように住居址から出土するのは希のようである。また、同じ遺跡の複数遺構から出土することも少ないことから、集落内において釧の装着を許された限られた人物に作られたものと考えられてる。

このように、弥生時代の青銅製銅釧は貴重品と考えられるが、佐久市内には同一遺構からの出土数が日本最多とされる15本の銅釧を出土した長土呂地積の上直路遺跡及び５本の銅釧を出土した根々井鳴澤地積の五里田遺跡、破片ではあるが円正坊遺跡が存在する。北一本柳遺跡の銅釧を加えると部分的な調査にもかかわらず、市内岩村田西方の限られた台地上の遺跡から、20本以上出土したことになり、この出土数は他地域と比べても多い状況である。また、銅釧の他に鉄を材料とした鉄釧も前述の五里田遺跡・上直路遺跡に加え、平賀地積の後家山遺跡からも出土している。こうした状況から弥生時代後期、佐久平周辺において比較的地位の高い人物は、金属製釧といった装身具を身につける傾向があったのではないだろうか。

参考文献　野澤　誠　2002「銅釧・鉄釧からみた東日本の弥生社会」『長野県立歴史館研究紀要第８号』



Ｈ２号住居址出土銅釧（左）Ｄ１号土坑出土銅釧（右）

北一本柳遺跡Ⅱ全景（南西から）

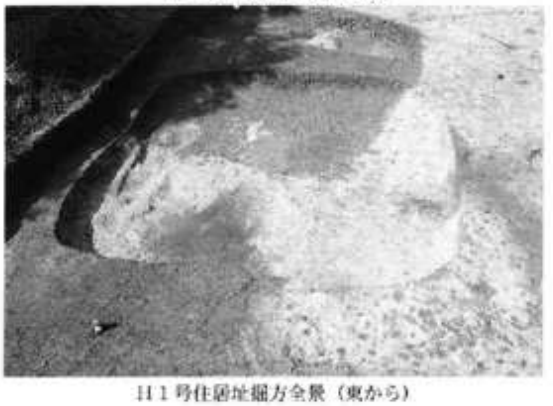
北一本柳遺跡Ⅱ全景（東から）

H１号住居址全景（東から）

H１号住居址　炉跡

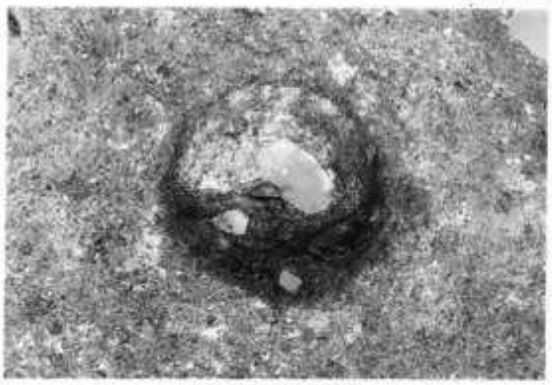
H１号住居址遺物出土状況

H１号住居址遺物出土状況



H１号住居址掘方全景（東から）

H２号住居址全景（東から）



H２号住居址　炉跡

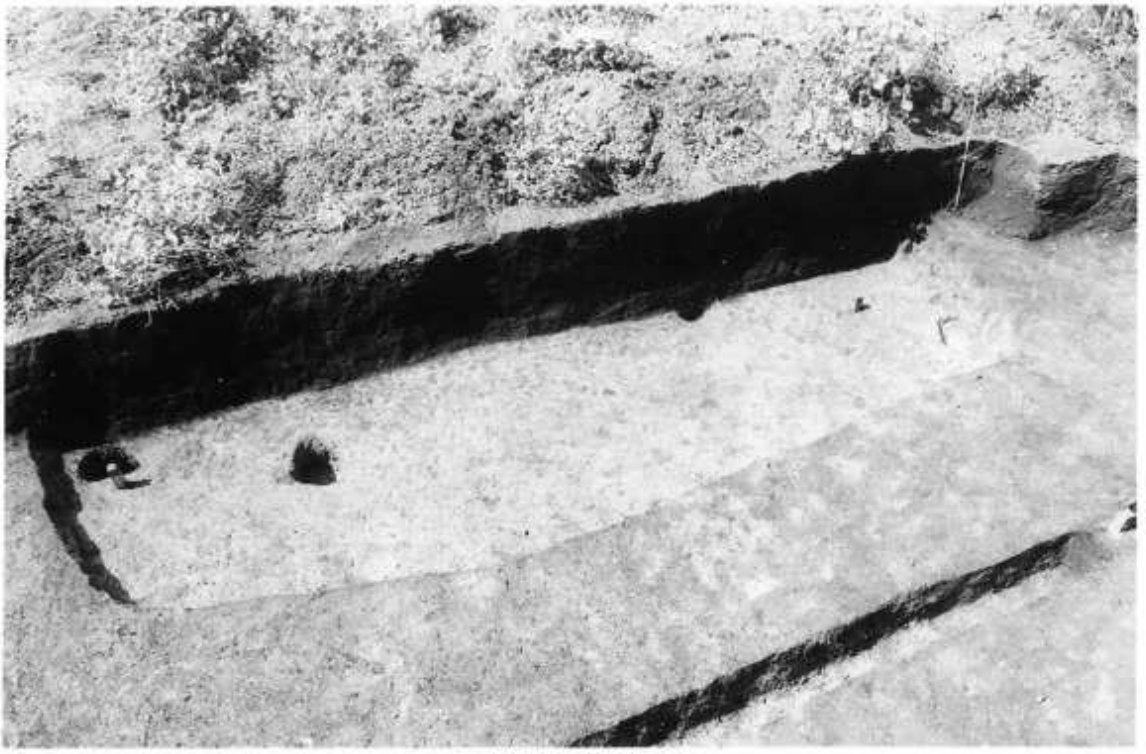
H２号住居址　炉跡（土器除去後）

H２号住居址銅鋤出土状況

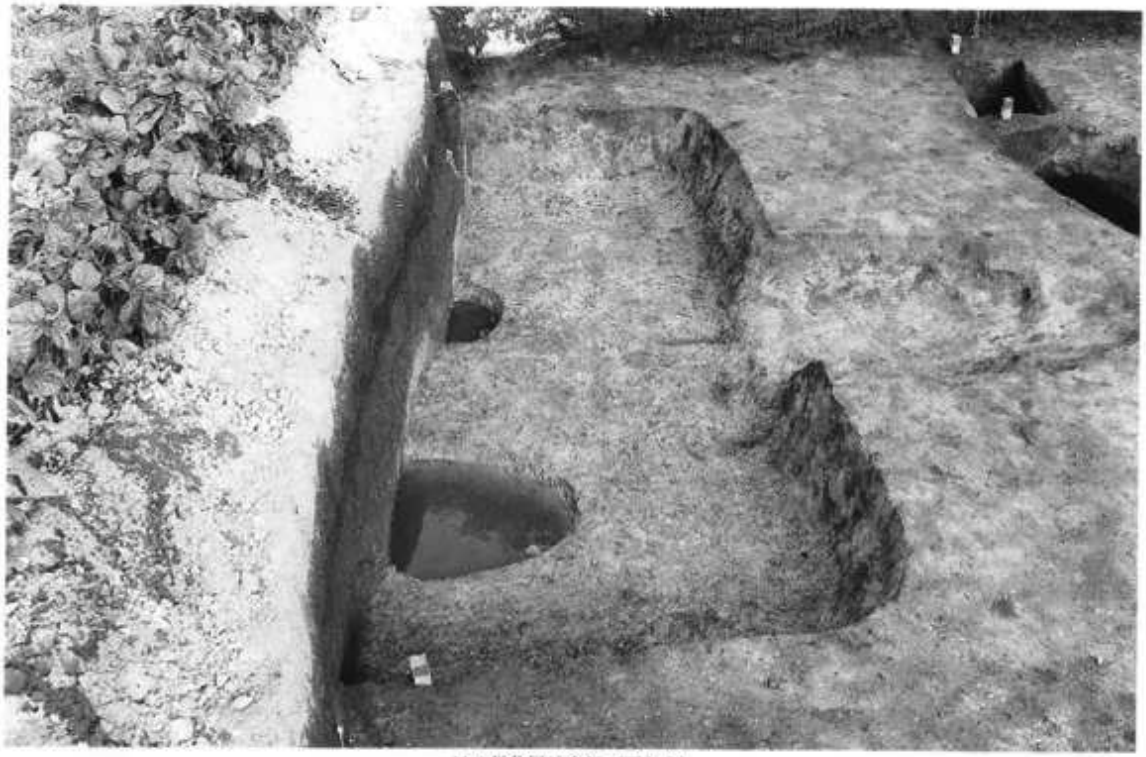
H２号住居址銅鋤出土状況

H２号住居址銅鐘埋出土状況

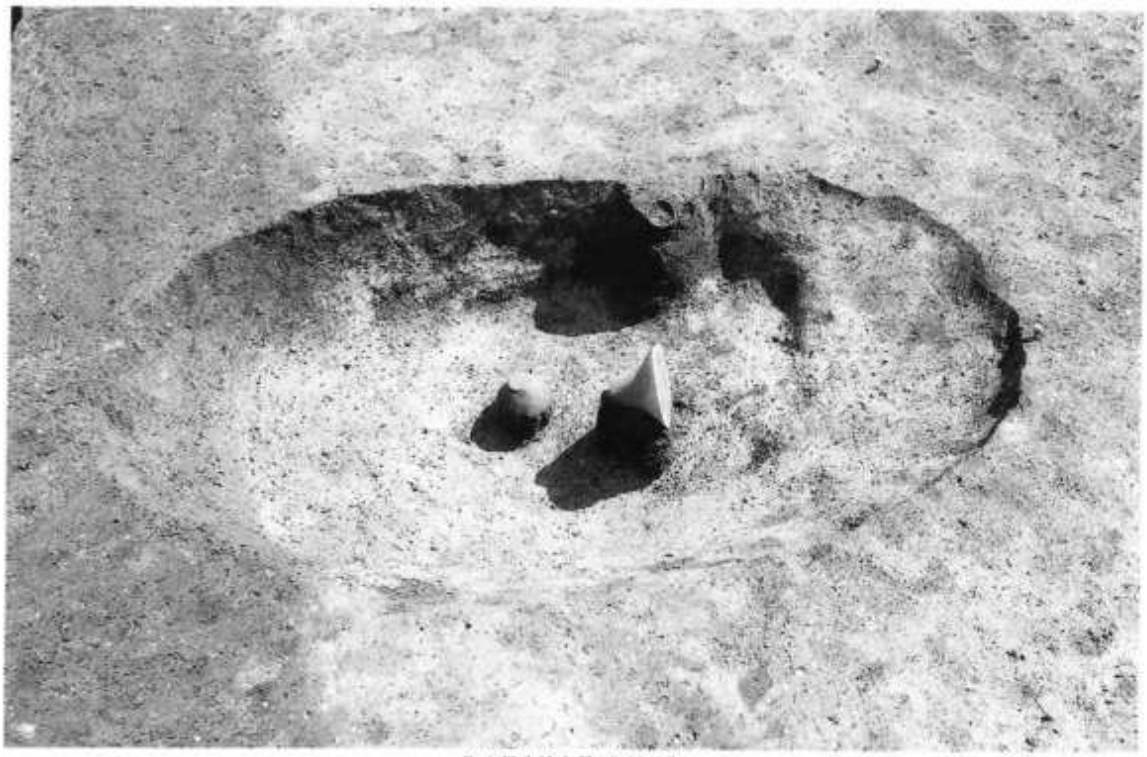
H２号住居址掘方（東から）



H３号住居址全景（東から）



H４号住居址全景（西から）



Ｄ１号土坑全景（西から）

D１号土坑遺物出土状況

D１号土坑掘削出土状況

D１号土坑全景

調査風景（南西から）

表土除去状況（西から）

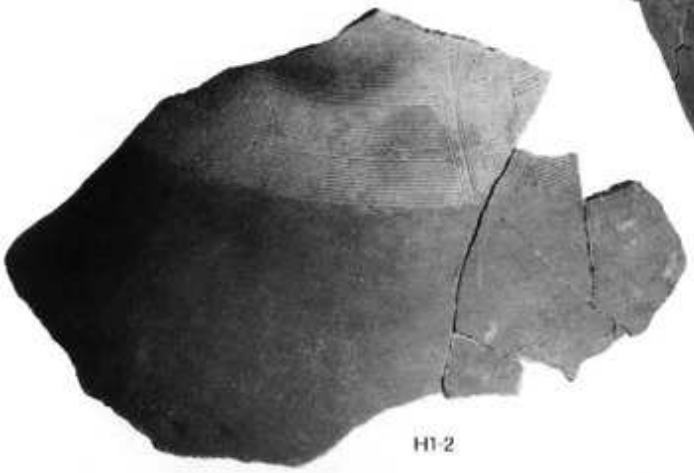
H1-1

H1-3

H1-4

H1-5

H1-6



H1-2

H1-7

H1-8

H1-9

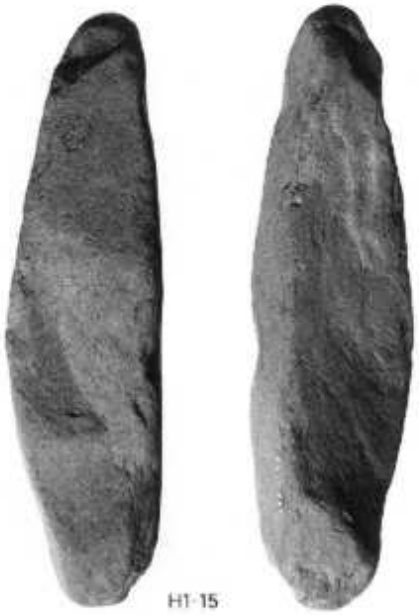
H1-10

H1号住居址出土遺物

H1-11

H1-12

H1-13



H1-15

H1-16

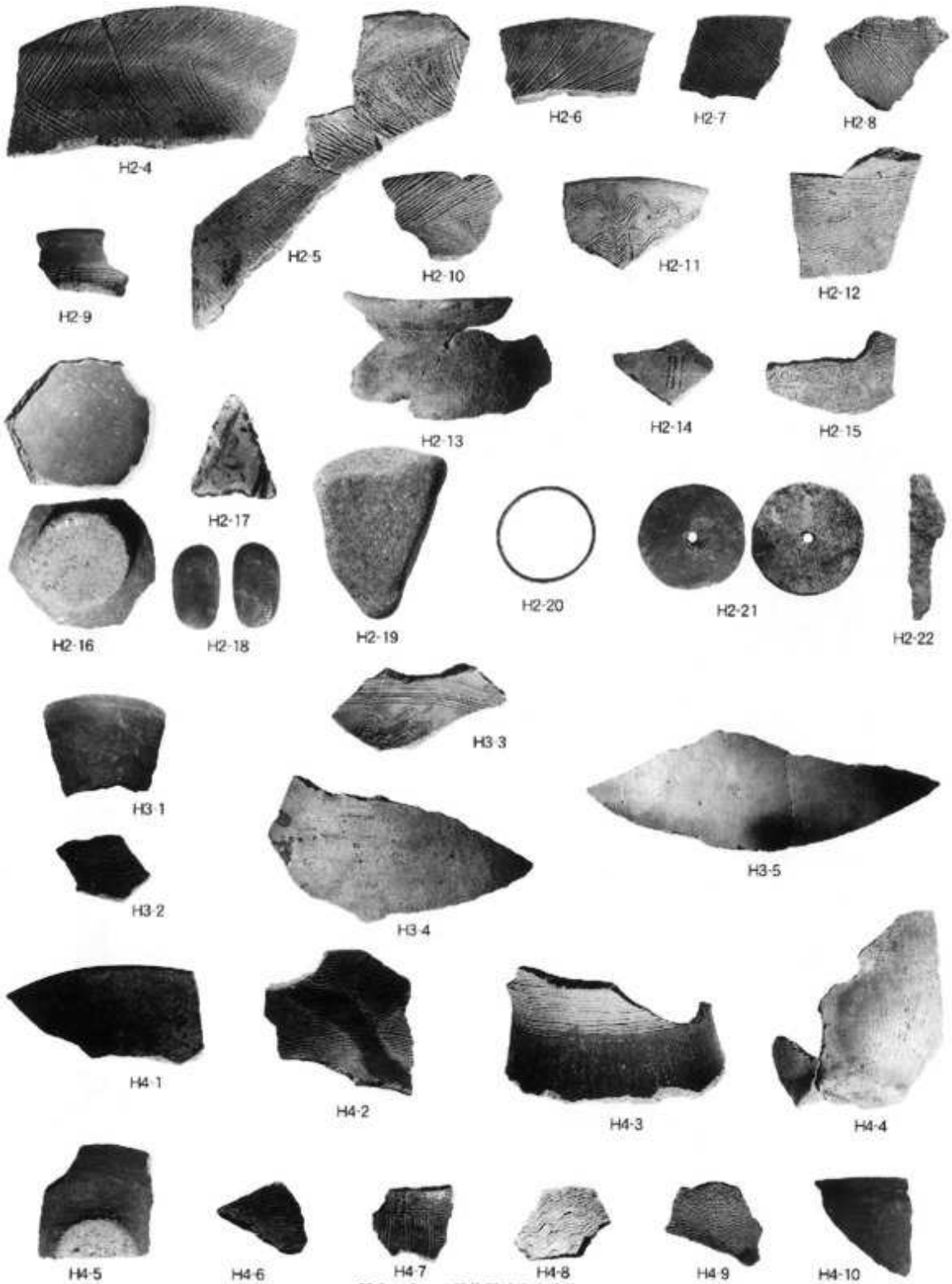
H1-14

H2-1

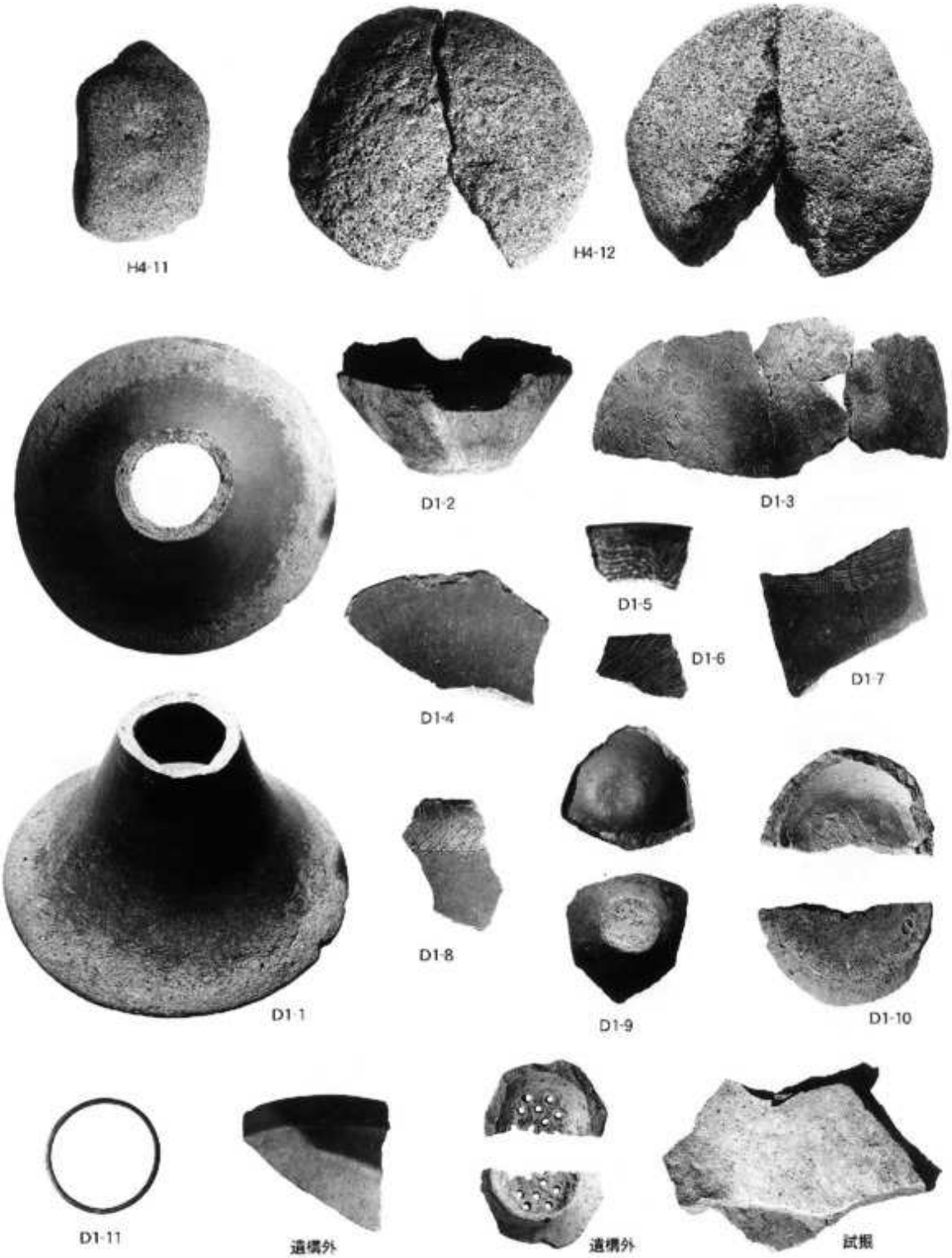
H2-2

H2-3

H１・２号住居址出土遺物



H 2 ・ 3 ・ 4 号住居址出土遺物



H４号住居址・Ｄ１号土坑・遺構外出土遺物

一本柳遺跡群

西一本柳遺跡X
調査報告書

NISHI IPPON YANAGI
（奈良時代）

長野県佐久市岩村田
西一本柳遺跡X発掘調査報告書

佐武建設株式会社
長野県佐久市教育委員会

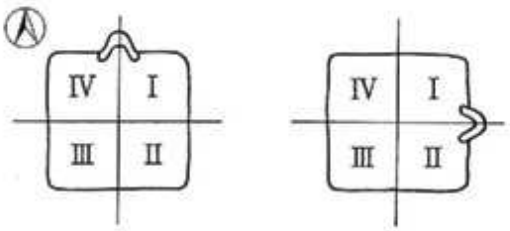
例　言

1．本報告書は、佐久市岩村田字地籍において平成15年度に行われた(株)ヤマダ電機店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の『一本柳遺跡群西　一本柳遺跡X』－奈良時代－の報告書である。
2．発掘調査は佐武建設株式会社の委託を受け、佐久市教育委員会文化財課が担当した。
3．本書に掲載した地図は、建設省国土地理院発行の地形図（1：25,000）、佐久市発行の基本図（1：2,500）を使用した
4．発掘調査は須藤隆司、上原　学、出澤　力、森泉かよ子が担当し、本書の編集、執筆は森泉かよ子が行った。
5．本遺跡の資料は佐久市教育委員会の責任下に置かれている。

凡　例

1．挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。

2．遺物の出土地点は、以下の分割図によるものである。



3．遺物の縮尺は原則として1／4に、石製品・鉄製品は異なる縮尺のものがあり、図中に明記してある。

4．全体については佐久市埋蔵文化財調査報告書第127集『一本柳遺跡群　西一本柳遺跡X』、『佐久市文化財　年報13　平成15年度』－平安時代・堀立柱建物址・試掘－を参照されたい。遺物の写真・遺構一覧表は第127集に掲載されている。

一本柳遺跡群　西一本柳遺跡X

遺跡名　西一本柳遺跡X（INPX）
所在地　佐久市岩村田字下樋田1780－1　他
調査委託者　佐武建設株式会社
開発事業名　(株)ヤマダ電機店舗建設事業
調査期間　平成15年6月11日～8月5日（発掘）
調査面積　1,500㎡
調査担当者　須藤隆司・上原学・出澤力・森泉かよ子

西一本柳遺跡X遺跡位置図（1：50,000）

立地と経過

一本柳遺跡群は、佐久市岩村田地籍に所在し、東西方向に流れる湯川右岸の台地上にある。岩村田市街地の南西1㎞、標高690mを測る。浅間第一軽石流が地盤をなしているが、その上に南に流れる湯川の河川堆積層である砂層が堆積している。一本柳遺跡群は台地上を東西の帯状に展開し、中央から西半分を西一本柳遺跡、東半分を東一本柳遺跡、中央より北部を北一本柳遺跡と呼称している。本遺跡群内では昭和43年には東一本柳遺跡が、また昭和46年には金銅製馬具の飾り金具などを出土した東一本柳古墳が発掘され、貴重な資料を得ている。さらに国道141号線の開通に伴い、西一本柳遺跡を南北に貫く調査がなされ、平成4年の公共下水道事業に伴う西一本柳遺跡Ⅱ、また平成7・8年度の国道141号線の工事にともなう西一本柳遺跡Ⅲ～Ⅵ、平成12･13年度の市道11－1号線緊急地方道路整備事業に伴う西一本柳遺跡Ⅷ、平成14年の店舗新築に伴う西一本柳遺跡Ⅸが調査されている。西一本柳遺跡Ⅰ～Ⅸまでの調査で竪穴住居址405棟が検出され、密集した古代集落であることが判明した。弥生時代中期から中世に至るまで連綿と人々の痕跡が残される佐久市内でも有数な遺跡の一つであり、一本柳遺跡群は県の重要遺跡とされている。

今回、(株)ヤマダ電機店舗建設が計画され、試掘調査を行ったところ遺構・遺物が検出され、遺構の破壊が余儀なくされる事態となり、遺構が破壊される部分を発掘調査し、破壊されない部分は埋土保存することとなった。

佐武建設株式会社より委託を受け、佐久市教育委員会文化財課が発掘調査を実施することとなった。

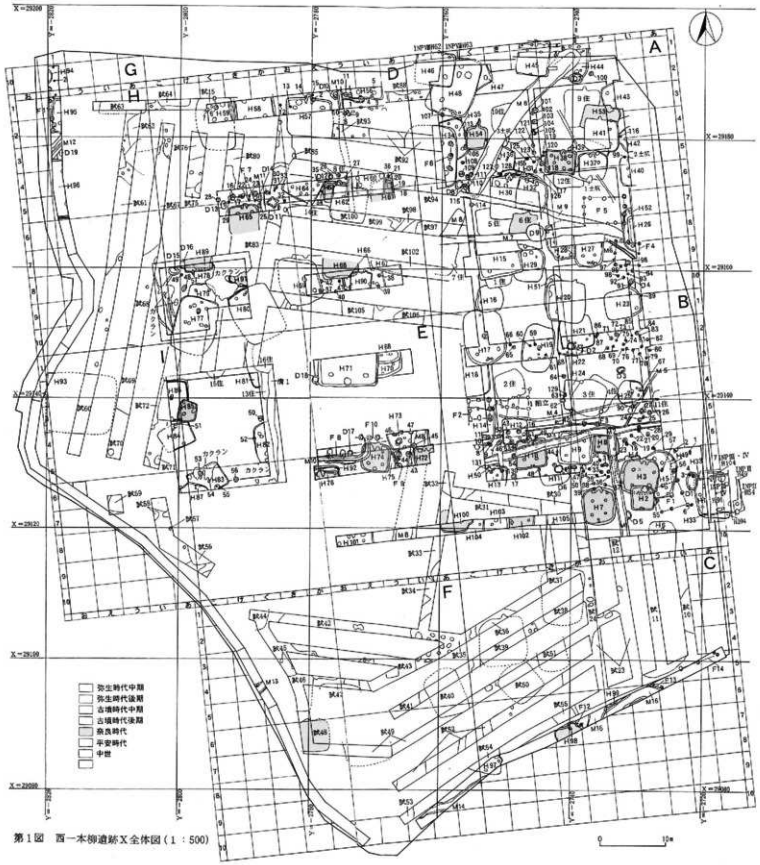
調査の概要

検出遺構

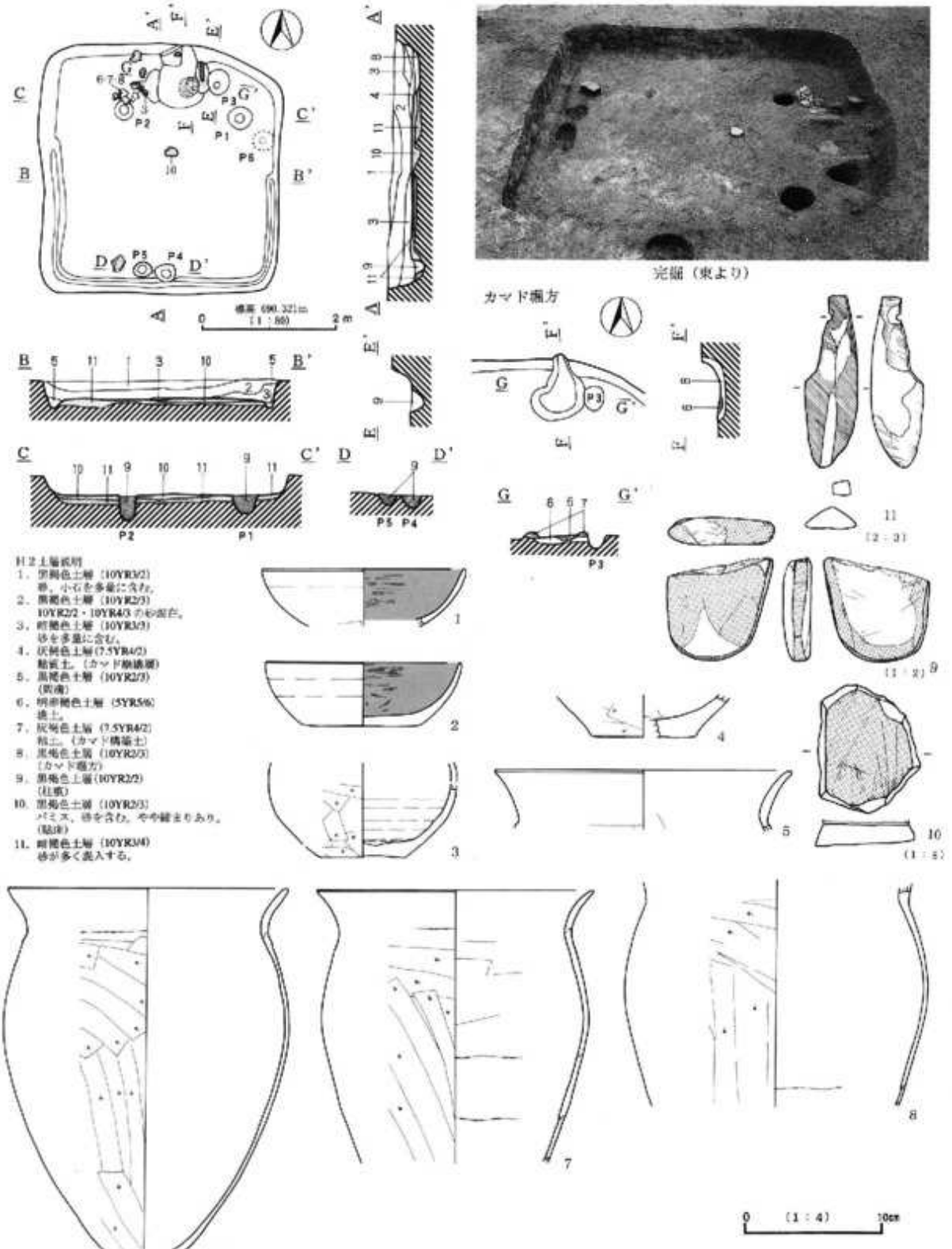
竪穴住居址	105棟	掘立柱建物址	14棟
弥生時代中期	34棟（紀元前1・2C頃）	土坑	19基
弥生時代後期	12棟（1・2C頃）	溝址	14本
古墳時代中期	12棟（5C頃）	単独ピット	151個
古墳時代後期	15棟（6～7C頃）		
奈良時代	21棟（8C頃）		
平安時代	9棟（9～11C頃）		
時期不明	2棟		

出土遺物

縄文時代
　縄文土器（鉢・深鉢）、石鏃、スクレイパー
弥生時代
　弥生土器（鉢・高坏・壺・甕・蓋）、太形蛤刃石斧、扁平片刃石斧、小形扁平片刃石斧、磨製石鏃、打製石鏃、石錐、スリ切り石、ヒスイ勾玉、勾玉、管玉、土製管玉、磨石、砥石
古墳時代
　土師器（小型丸底壺・壺・甕・坏・高坏・甑）、須恵器（甕・壺・鉢・坏・高坏）、ガラス小玉、臼玉、石製模造品（剣形・勾玉）、編物石、磨石、砥石
奈良・平安時代
　土師器（坏・鉢・甕）、須恵器（坏・坏蓋・甕・壺）、灰釉陶器（坏・皿・壺）、鉄製品（刀子・紡錘車・鉄鏃）、砥石、炭化材、骨



第1図　西一本柳遺跡X全体図(1：500)



H2土層説明
1．黒褐色土層（10YR3/2）
砂、小石を多量に含む。
2．黒褐色土層（10YR2/3）
10YR2/2・10YR4/3 の砂混在。
3．暗褐色土層（10YR3/3）
砂を多量に含む。
4．灰褐色土層（7.5YR4/2）
粘質土。（カマド崩壊層）
5．黒褐色土層（10YR2/3）
（黒褐）
6．明赤褐色土層（5YR5/6）
焼土。
7．灰褐色土層（7.5YR4/2）
粘土。（カマド構築土）
8．黒褐色土層（10YR2/3）
（カマド堀方）
9．黒褐色土層（10YR2/2）
（柱痕）
10．黒褐色土層（10YR2/3）
パミス、砂を含む。やや縮まりあり。
（貼床）
11．暗褐色土層（10YR3/4）
砂が多く混入する。

第3図　H2号住居址

第1表 INP X H2号住居址出土遺物一覧表

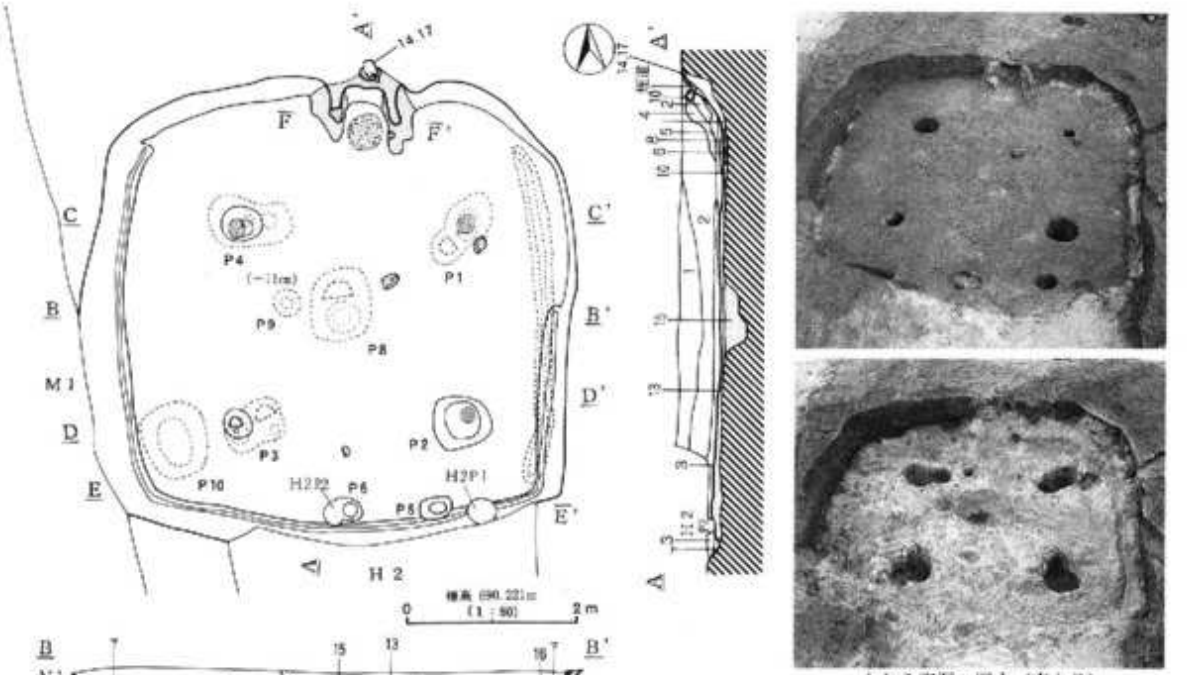
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 杯	(15.2) - (4.3)	内 ヘラミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ・体部下端ヘラケズリ	内 10YR1.7/1 (黒) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	~1mm大砂粒まれに含む。細長石・細石英含む。	口縁部1/4 回転実測	I区1層
2	土師器 杯	11.6 8.6 4.8	内 ヘラミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ・底部ヘラケズリ	内 7.5YR4/4 (褐) 外 5YR5/8 (明赤褐)	~1mm大砂粒まれに含む。細長石・細石英含む。	底部完存 完全実測	カマド
3	土師器 甕	- 6.2 (5.2)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部糸切り(静止)→体部下半ヘラケズリ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 2.5YR7/4 (にぶい橙)	まれに赤色粒子含む。細長石・細石英粒子含む。	底部完形 完全実測	No.2 カマド I区2層
4	土師器 甕	(7.8) (3.3)	内 ヘラナデ 外 体・底部ヘラケズリ	内 7.5YR6/3 (にぶい褐) 外 5YR5/4 (にぶい赤褐)	細長石粒多量に含む。	底部1/4 回転実測	I区サブトレンチ
5	土師器 甕	(22.2) - (4.6)	内 口縁横ナデ 外 口縁横ナデ→底部ヘラケズリ	内 2.5YR5/6 (明赤褐) 外 2.5YR5/6 (明赤褐)	細長石・細石英粒子含む。	口縁部1/16 回転実測	カマド I区2層 IV区3層
6	土師器 甕	(20.9) (4.1) (28.2)	内 口縁横ナデ ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ	内 7.5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR4/2 (灰褐)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/2 回転実測	No.1 カマド IV区1層 IV区3層 IV区床
7	土師器 甕	(20.7) (20.5)	内 ヘラナデ 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ	内 2.5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 2.5YR6/6 (橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/2 回転実測	カマド No.2 II区
8	土師器 甕	- (16.8)	内 ナデ 外 口縁ナデ 体部ヘラケズリ	内 2.5YR3/2 (暗赤褐) 外 2.5YR3/1 (暗赤灰)	細長石・細石英粒子含む。	胴部1/2 回転実測	No.1 カマド I区サブトレンチ I区壁方 I区2層

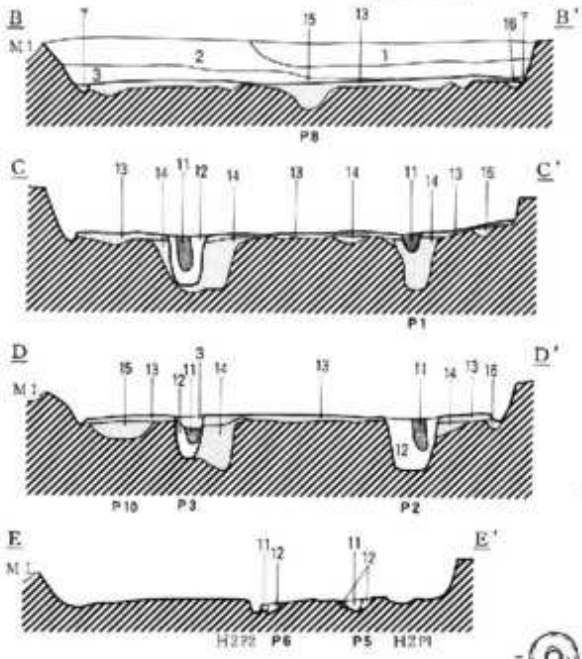
番号	種類	長さ	幅	厚さ	重	備考	出土位置
9	砥石	39.0	39.5	10.0	20.2	砂岩、部分的に研面あり。	II区2層
10	台石	191.0	156.0	35.0	1530.0	安山岩	No.3
11	石製模造品	48.0	15.0	6.0	4.0	滑石、剣形。	検出

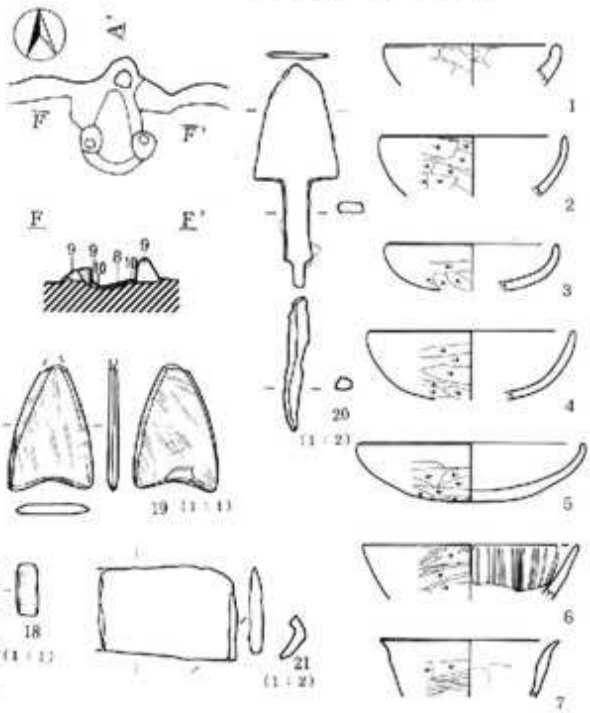
第2表 INP X H3号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 手捏 杯	(10.1) - (2.4)	内 ナデ 外 ヘラナデ ナデ	内 5YR5/4 (にぶい赤褐) 外 5YR5/4 (にぶい赤褐)	細長石、細石英含む。	口縁1/8 回転実測	IV区2層
2	土師器 杯	(11.0) - (3.6)	内 ナデ 外 ヘラケズリ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR5/3 (にぶい褐)	~1mm大砂粒含む。	口縁部1/8 回転実測	IV区サブトレンチ
3	土師器 杯	(10.0) - (2.8)	内 ナデ 外 体部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	まれに3mm大砂粒含む。~1mm大細石英、長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	I区東方
4	土師器 杯	(12.2) (4.1)	内 ヘラナデ→ナデ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ	内 5YR6/8 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	~1mm大長石、砂粒まれに含む。	口縁部1/4 回転実測	IV区1層
5	土師器 杯	(13.4) 3.5	内 ナデ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ	内 5YR6/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	~1mm大長石、砂粒まれに含む。緻密。	口縁1/6 回転実測	I区
6	土師器 杯	(12.8) (3.3)	内 ナデ→暗文 外 ヘラケズリ→部分的に ミガキ	内 7.5YR6/6 (橙) 外 7.5YR6/6 (橙)	まれに3mm大砂粒、~1mm大赤色粒子含む。緻密	口縁1/6 回転実測	IV区2層
7	土師器 杯	(10.6) - (3.4)	内 ヘラナデ 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ→ミガキ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 7.5YR6/4 (にぶい橙)	まれに1mm大砂粒、細石英・長石粒子含む。	口縁1/6 回転実測	II区トレンチ
8	土師器 杯	(15.8) - (5.1)	内 ナデ→暗文(放射状) 外 口縁ヨコナデ 体部下半ヘラケズリ→ミガキ	内 7.5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	まれに3mm大砂粒、~1mm大赤色粒子含む。緻密	口縁部・底部1/5 回転実測	I区 2区1層、II区トレンチ IV区検出
9	土師器 甕	- 3.9 (1.9)	内 ナデ 外 ヘラケズリ→ミガキ	内 10YR7/4 (にぶい黄橙) 外 10YR7/4 (にぶい黄橙) 一部に赤褐色の発色あり。	石英、長石を含む。~3mm大砂粒、長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	II区壁方
10	土師器 小型甕	- 6.0 (2.6)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ→ミガキ	内 10YR6/4 (灰黄褐) 外 10YR5/3 (にぶい黄褐)	~1mm大長石含む。	底部ほぼ完形 完全実測	IV区壁方
11	土師器 甕	(5.0) (2.6)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	内 7.5YR7/4 (にぶい橙) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/2 回転実測	検出
12	土師器 甕	- (6.5) (7.9)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	内 5YR5/6 (明赤褐) 外 5YR4/3 (にぶい赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/4 回転実測	II区トレンチ III区1層
13	土師器 甕	(19.2) - (4.2)	内 口縁ヨコナデ 体部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→体部ヘラケズリ	内 7.5YR4/3 (褐) 外 7.5YR4/3 (褐)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/6 回転実測	カマド
14	土師器 甕	(23.0) (20.4)	内 ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→体部ヘラケズリ	内 5YR5/6 (明赤褐) 外 5YR5/6 (明赤褐)	細長石・細石英粒子含む。緻密。	口縁部1/3 回転実測	I区 No.3 カマド
15	土師器 甕	(24.0) (28.8)	内 ヘラナデ 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ→体部ヘラケズリ	内 5YR6/6 (橙) 外 5YR6/6 (橙)	細長石・細石英含む。緻密。	口縁部1/2 回転実測	I区 III区1層 III区2層 IV区:床 IV区サブトレンチ カマド IV区壁方 検出
16	土師器 甕	(23.4) - (19.4)	内 ヘラナデ→口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ→体部ヘラケズリ	内 5YR2/1 (黒褐) 外 5YR6/4 (にぶい橙)	~0.5mm大の長石、石英、赤色粒子含む。	口縁3/4 回転実測	I区 検出 カマド
17	土師器 甕	22.8 (28.0)	内 ヘラナデ→口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ→体部ヘラケズリ	内 7.5YR4/3 (褐) 外 7.5YR7/4 (にぶい橙)	~1mm大の長石・石英粒子・赤色粒子を多く含む。	口縁ほぼ完形 輪積痕残る 完全実測	No.2 カマド 検出

番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
18	臼玉	7.0	7.0	3.0	0.22	孔径2.5mm、滑石。	検出
19	磨製石鏃	18.5	13.2	1.5	0.5	粘板岩、先端欠損。	
20	鉄鏃	(65.0)	25.0	3.0	8.1	鉄製品。	IV区1層
21	鉄鎌	29.0	41.0	4.0	10.0	鉄製品。	検出



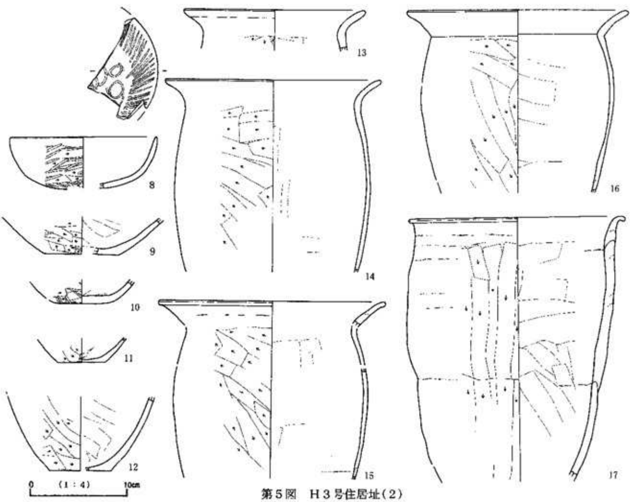




H3土層説明

1. 黒褐色土層（10YR2/2）
   砂、小石を含む。
2. 黒褐色土層（10YR3/3）
   砂を多量に含む。
3. 黒褐色土層（10YR2/2）
   砂、小石を含む。
4. 灰黄褐色土層（10YR4/2）
   粘土を多く含む。（カマド袖構築）
5. 黒褐色土層（10YR2/3）
   砂、小石を多量に含む。
6. 褐色土層（7.5YR4/3）
   炭主体、焼土粒子を含む。
7. 暗褐色土層（10YR3/3）
   （貼床）
8. 赤褐色土層（10YR4/6）
   焼土。
9. 灰褐色土層（7.5YR4/2）
   粘土。
10. 黒褐色土層（7.5YR3/2）
    焼土、炭化物粒子を含む。粘質土。
    （カマド堆方）
11. 黒褐色土層（10YR2/2）
    （貼床）
12. 黒褐色土層（10YR2/3）
    砂土体に黒色土を含む。
13. 黒褐色土層（7.5YR3/2）
    粘土、焼土塊ブロックを多量に含む。（貼床）
14. 暗褐色土層（10YR3/3）
    砂に黒褐色土ブロック混在。
15. 黒褐色土層（10YR2/2）
    砂を含む。（床下ピット）
16. 黒褐色土層（10YR2/3）
    （床下貼床）

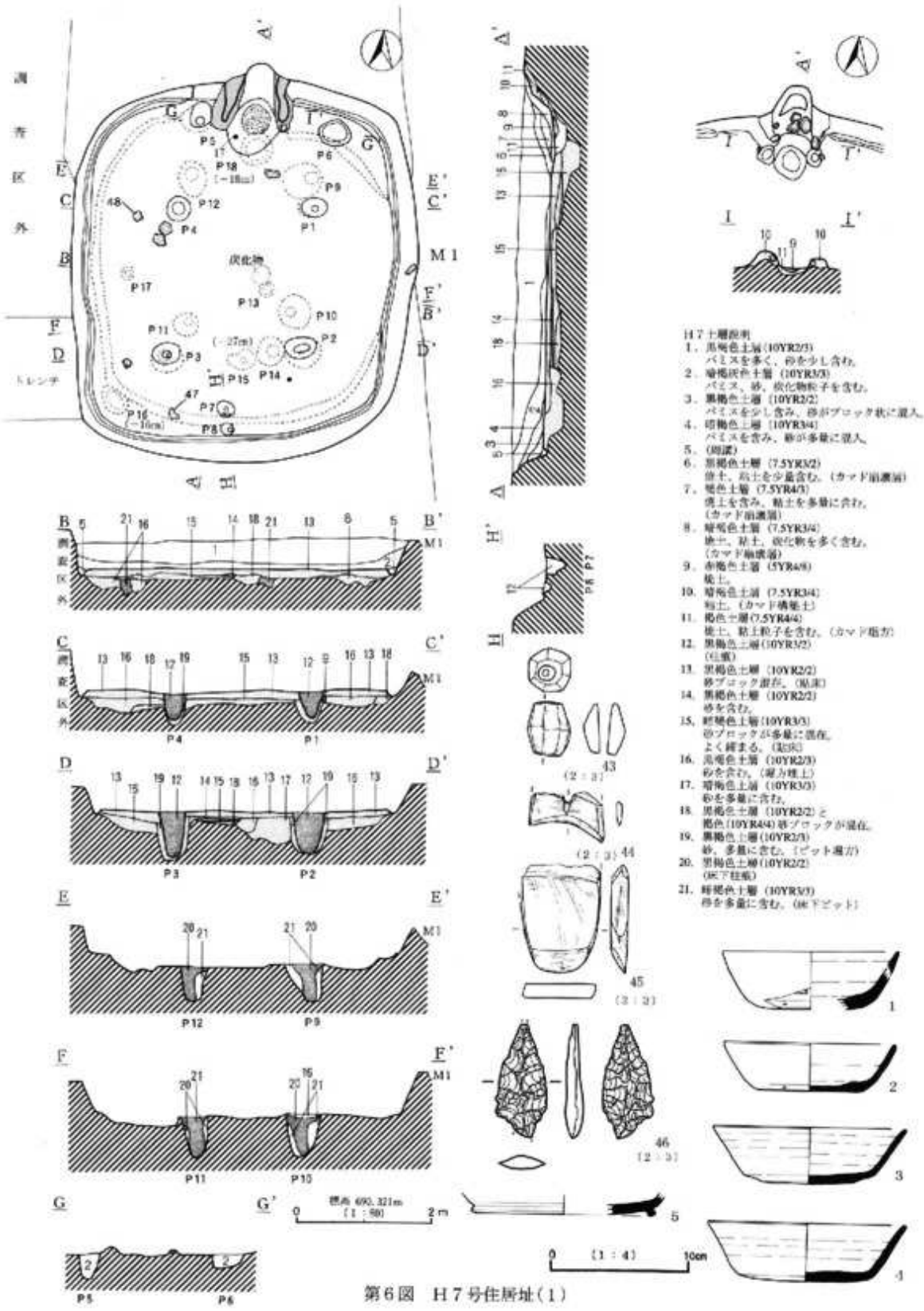
第4図　H3号住居址（1）



第5図　H3号住居址(2)

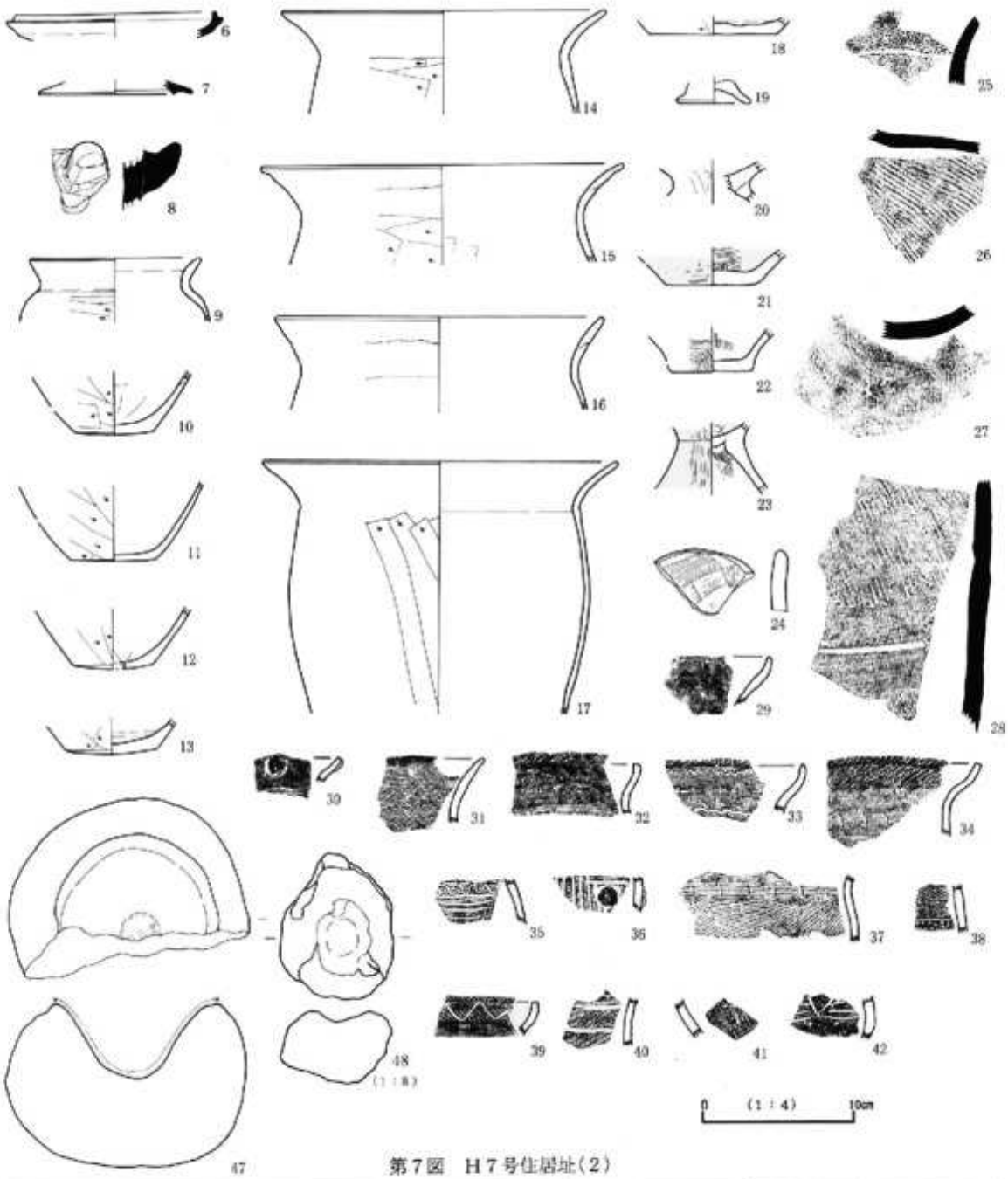
第3表　INP X　H7号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 杯	(13.1) (7.8) (4.3)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	内　2.5Y7/1 (灰白) 外　2.5Y6/1 (黄灰)	細長石・細石英粒子含む。 緻密	底部1/2 回転実測 外面剥落あり。	I区サブトレンチ II区1層 III区2層
2	須恵器 杯	(12.8) (7.8) 3.6	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ→体部下端・底部ヘラケズリ	内　2.5Y6/1 (黄灰) 外　2.5Y6/1 (黄灰)	～1mm大砂粒、細長石・細石英粒子含む。	口縁1/4 回転実測	IV区1層 IV区2層
3	須恵器 杯	14.4 6.9 4.2	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ→底部回転ヘラ切後ナデ	内　7.5YR7/2 (明褐灰) 外　7.5YR7/2 (明褐灰)	～1mm大砂粒まれに含む。 細長石・細石英粒子含む。	底部完形 完全実測	I区北方
4	須恵器 杯	(14.8) (9.8) 1.4	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ→底部切り離し後ヘラケズリ	内　2.5Y6/1 (黄灰) 外　2.5Y6/1 (黄灰)	～1mm大砂粒まれに含む。 細長石粒子多く含む。	口縁1/3 回転実測	I区
5	須恵器 有台杯	(12.8) - (1.8)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台	内　2.5Y5/1 (黄灰) 外　2.5Y5/1 (黄灰)	細長石・細石英粒子含む。	底部1/4　正位実測 内面に[illegible]	I区サブトレンチ
6	須恵器 杯	(13.6) - (1.7)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ　自然釉付着	内　2.5Y6/2 (灰黄) 外　2.5Y6/1 (黄灰)	細長石粒子含む。	口縁1/12 回転実測	II区1層
7	須恵器 蓋	(9.0) (0.9)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ	内　N4/ (灰) 外　N4/ (灰)	細長石・細石英粒子含む。	1/12 回転実測	II区北方
8	須恵器 把手 (甑)	-	内　ナデ 外　ナデ	内　2.5YR7/1 (灰白) 外　2.5YR7/1 (灰白)	～2mm大砂粒まれに含む。 細長石・細石英粒子含む。	破片実測	I区北方
9	土師器 小型甕	(11.6) (4.3)	内　ヨコナデ 外　口縁ヨコナデ→体部ヘラケズリ	内　10YR8/4 (浅黄橙) 外　10YR7/3 (にぶい黄橙)	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/4 回転実測	IV区2層
10	土師器 甕	- 5.3 (3.2)	内　ヘラナデ→ナデ 外　ヘラケズリ	内　7.5YR4/3 (褐) 外　7.5YR4/3 (褐)	細長石・細石英粒子含む。	底部3/4 完全実測	I区北方
11	土師器 甕	- 5.8 (5.2)	内　ナデ 外　ヘラケズリ	内　7.5YR4/6 (褐) 外　7.5YR4/6 (褐)	細長石・細石英粒子含む。	底部7/8 完全実測	P6
12	土師器 甕	- (5.4) (4.1)	内　ヘラナデ→ナデ 外　ヘラケズリ	内　7.5YR6/4 (にぶい橙) 外　7.5YR6/4 (にぶい橙)	まれに2mm大砂粒、 細長石・細石英含む。	底部1/4 回転実測	カマド



H7土層説明
1. 黒褐色土層(10YR2/3)
パミスを多く、砂を少し含む。
2. 暗褐灰色土層 (10YR3/3)
パミス、砂、炭化物粒子を含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2)
パミスを少し含み、砂がブロック状に混入。
4. 暗褐色土層 (10YR3/4)
パミスを含み、砂が多量に混入。
5. (周濠)
6. 黒褐色土層 (7.5YR3/2)
焼土、粘土を少量含む。(カマド崩壊層)
7. 褐色土層 (7.5YR4/3)
焼土を含み、粘土を多量に含む。
(カマド崩壊層)
8. 暗褐色土層 (7.5YR3/4)
焼土、粘土、炭化物を多く含む。
(カマド崩壊層)
9. 赤褐色土層 (5YR4/6)
焼土。
10. 暗褐色土層 (7.5YR3/4)
粘土。(カマド構築土)
11. 褐色土層(7.5YR4/4)
焼土、粘土粒子を含む。(カマド粘方)
12. 黒褐色土層(10YR3/2)
(柱痕)
13. 黒褐色土層 (10YR2/2)
砂ブロック混在。(貼床)
14. 黒褐色土層 (10YR2/2)
砂を含む。
15. 暗褐色土層(10YR3/3)
砂ブロックが多量に混在。
よく締まる。(貼床)
16. 黒褐色土層 (10YR2/3)
砂を含む。(凝み埋土)
17. 暗褐色土層 (10YR3/3)
砂を多量に含む。
18. 黒褐色土層 (10YR2/2)と
褐色(10YR4/4)砂ブロックが混在。
19. 黒褐色土層(10YR2/3)
砂、多量に含む。(ピット凝方)
20. 黒褐色土層(10YR2/2)
(床下柱痕)
21. 暗褐色土層 (10YR3/3)
砂を多量に含む。(床下ピット)

第6図　H7号住居址(1)

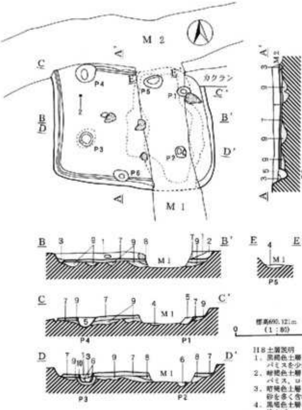


第7図　H7号住居址(2)

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
13	土師器 甕	(6.1) (2.3)	内　ロクロナデ 外　ヘラケズリ	内　10YR7/4（にぶい赤褐） 外　10YR6/2（灰黄褐）	まれに2mm大砂粒。 雑長石・細石英含む。	底部1/2 回転実測	I区
14	土師器 甕	(22.0) (7.0)	内　ヨコナデ　ナデ 外　口縁ヨコナデ→体部ヘラケズリ	内　7.5YR5/3（にぶい黄褐） 外　7.5YR5/3（にぶい黄褐）	雑長石・細石英粒子含む。	口縁1/2 回転実測	カマド
15	土師器 甕	(24.6) (6.7)	内　体部ヘラナデ　ナデ→口縁ヨコナデ 外　口縁ヨコナデ→体部ヘラケズリ	内　5YR5/4（にぶい赤褐） 外　5YR5/4（にぶい赤褐）	雑長石・細石英粒子含む。	口縁1/2 回転実測	I区　I区サブトレンチ I区屋方　II区1層 IV区1層　IV区2層
16	土師器 甕	(22.3) (6.3)	内　口縁ヨコナデ 外　口縁ヨコナデ→体部ヘラケズリ	内　7.5YR6/6（橙） 外　7.5YR6/6（橙）	雑長石・細石英粒子含む。	口縁部1/3 回転実測	I区サブトレンチ II区屋方 IV区1層
17	土師器 甕	(24.1) (17.1)	内　ヨコナデ　ナデ 外　口縁ヨコナデ→体部ヘラケズリ	内　7.5YR7/4（にぶい橙） 外　7.5YR7/4（にぶい橙）	雑長石・細石英粒子含む。	口縁3/4 回転実測	No.1　I区 カマド 検出

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
18	土師器 甕	- (8.6) (1.2)	内 ロクロナデ 外 ヘラケズリ	内 10YR6/2 (灰黄褐) 外 10YR7/4 (にぶい黄橙)	～1mm大の長石、石英含む。	底部5/12 回転実測	II区 IV区1層
19	弥生 台付甕	- 5.1 (1.4)	内 ナデ 外 ナデ	内 10YR7/4 (にぶい黄橙) 外 7.5YR7/6 (橙)	長石・雲母・石英粒子含む。	脚部1/2 完全実測	IV区1層
20	土師器 台付甕	-	内 ナデ 外 ヘラナデ	内 10YR5/3 (にぶい黄褐) 外 10YR4/2 (灰黄褐)	～2mm大砂粒をまれに含む。 長石・細石英粒子含む。	脚部1/2 回転実測	I区
21	弥生 鉢	- 6.3 (2.4)	内 ヘラミガキ 赤色塗彩 外 ヘラミガキ 赤色塗彩 剥落著しい	内 10YR4/8 (赤) 外 2.5YR4/8 (赤褐) 底 7.5YR6/6 (橙)	長石・細砂粒子含む。	底部完形 完全実測	撹乱
22	弥生 壺	- 5.5 (2.8)	内 ヘラナデ(板目) ナデ 外 ミガキ	内 10YR7/3 (にぶい黄橙) 外 10YR7/4 (にぶい黄橙)	細砂粒・長石・ 細石英粒子含む。緻密。	底部完形 完全実測	I区撹乱
23	弥生 高坏	-	内 杯部ミガキ 赤色塗彩 脚部ヘラナデ(輪積) ナデ 外 ミガキ 赤色塗彩	内 2.5YR4/8 (赤褐) 外 2.5YR4/8 (赤褐)	長石・雲母・赤色粒子含む。	脚部完存 回転実測	I区
24	土師器 [illegible]	(12.2) 1.9	内 ヘラナデ(輪積) ナデ 外 ミガキ	内 10YR6/3 (にぶい黄橙) 外 10YR6/3 (にぶい黄橙)	長石、雲母粒子含む。	破片	II区サブトレンチ

番号	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重(g)	備考	出土位置
43	切子玉	15.0	12.0	12.0	2.8	水晶。	II区1層
44	打製石鏃	(14.5)	21.0	1.5	0.5	[illegible]	IV区1層
45	[illegible]	30.0	22.0	4.9	6.3	[illegible]	IV区北方
46	[illegible]	(31.8)	14.3	5.2	1.5	[illegible]	II区[illegible]
47	石皿	124.0	164.0	111.0	2730	安山岩	No.2
48	凹石	198.0	154.0	10.0	1910	溶岩	No.3



H 8 土層説明
1. 黒褐色土層(10YR2/3) パミスを少量含む。
2. 暗褐色土層(10YR3/3) パミス、ローム を含む。
3. 暗褐色土層(10YR3/3) 砂を多く含む。(周溝)
4. 黒褐色土層(7.5YR3/2) 焼土ブロックを含む。
5. 黒褐色土層(10YR2/2) (柱痕)
6. 黒褐色土層(10YR2/3) 砂を多く含む。
7. 黒褐色土層(10YR2/3) 砂、小石ブロック混在。(貼床)
8. 黒褐色土層(10YR2/2) 砂ブロックを含む。
9. 黒褐色土層(10YR3/2) 砂、小石を含む。
10. 暗褐色土層(10YR3/3) 砂主体。

完掘（南より）

堀方（南より）

1 (1：4)

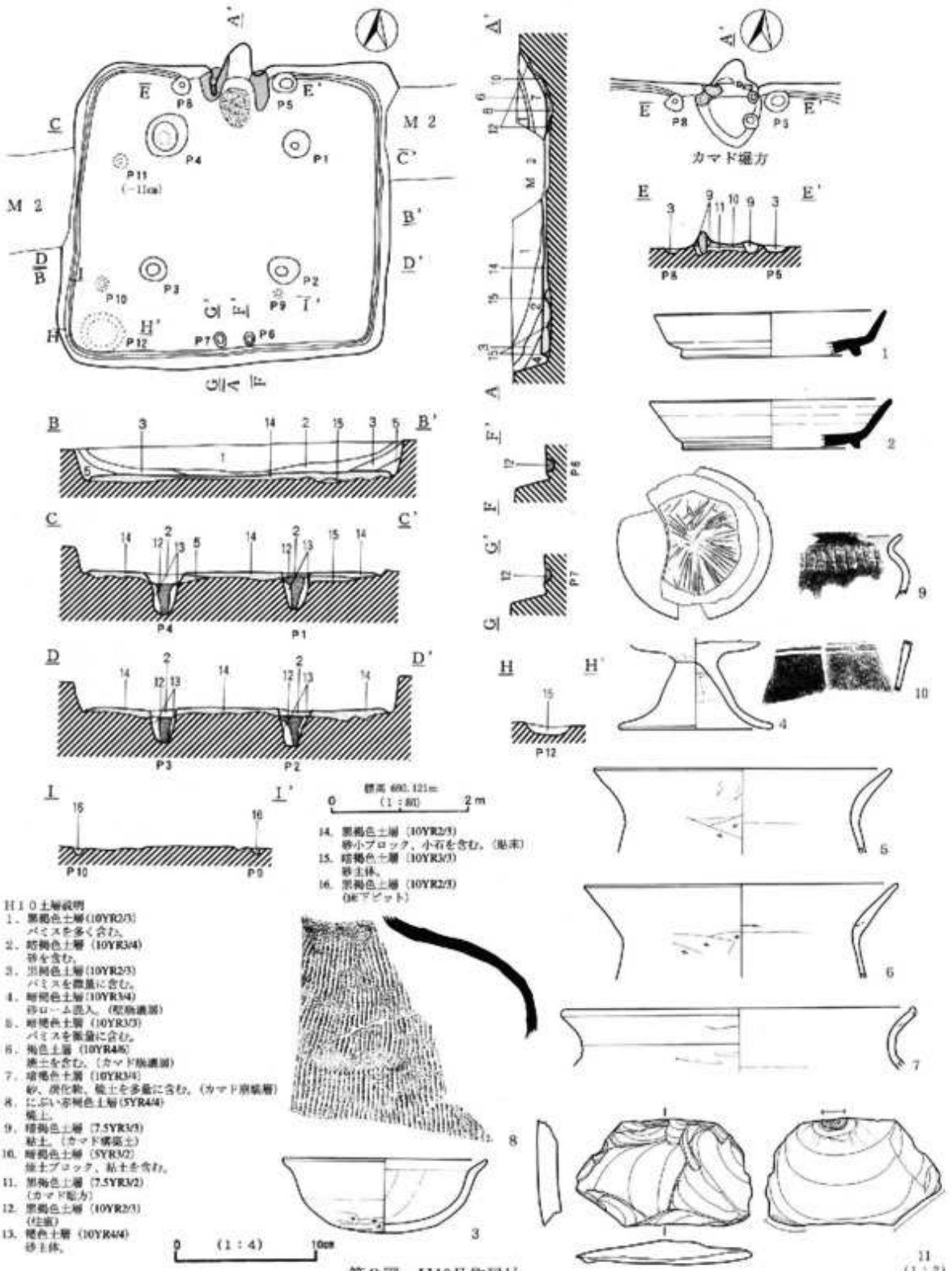
2 (1：2)

第8図 H8号住居址

第4表 INP X H8号住居址出土遺物一覧表

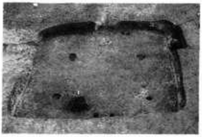
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 坏	- (8.2) (1.8)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切後,外周右回転ヘラケズリ	内 7.5YR5/2 (灰褐) 外 10YR6/1 (褐灰)	まれに1mm大の砂粒。 雲母・細石英含む。	底部1/12 回転実測 火だすきあり	II区

番号	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重(g)	備考	出土位置
2	釘	83.0	4.0	5.0	6.8	鉄製品	IV区



H10土層説明
1. 黒褐色土層(10YR2/3)
パミスを多く含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/4)
砂を含む。
3. 黒褐色土層(10YR2/3)
パミスを微量に含む。
4. 暗褐色土層(10YR3/4)
砂ローム混入。(竪穴壁面)
5. 暗褐色土層 (10YR3/3)
パミスを微量に含む。
6. 褐色土層 (10YR4/6)
焼土を含む。(カマド袖構築)
7. 暗褐色土層 (10YR3/4)
砂、炭化粒、焼土を多量に含む。(カマド崩壊層)
8. にぶい赤褐色土層(5YR4/4)
焼土。
9. 暗褐色土層 (7.5YR3/3)
粘土。(カマド構築土)
10. 暗褐色土層 (5YR3/2)
焼土ブロック、粘土を含む。
11. 黒褐色土層 (7.5YR3/2)
(カマド転方)
12. 黒褐色土層 (10YR2/3)
(住居)
13. 褐色土層 (10YR4/4)
砂主体。
14. 黒褐色土層 (10YR2/3)
砂小ブロック、小石を含む。(貼床)
15. 暗褐色土層 (10YR3/3)
砂主体。
16. 黒褐色土層 (10YR2/3)
(HEピット)

第9図　H10号住居址


完掘（南より）

カマド（南より）

堀方（南より）

第5表　INP X　H 10号住居址出土遺物一覧表

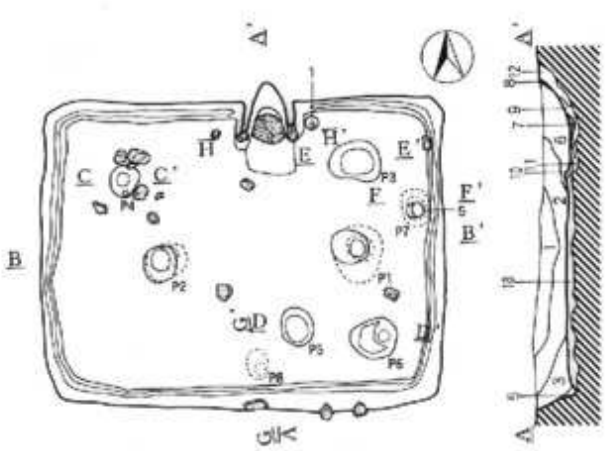
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 有台杯	(17.0) (12.6) (3.4)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台	内　5Y5/1（灰） 外　5Y5/1（灰）	長石・石英粒子含む。	口縁5/12　回転実測 重ね焼痕　外面口縁 自然釉付着	I区1層
2	須恵器 有台杯	(17.8) (13.0) 3.6	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台	内　2.5Y4/1（黄灰） 外　2.5Y5/2（暗灰黄）	まれに3mm大赤色粒子。 石英・長石粒子含む。	口縁1/6 回転実測	I区1層
3	土師器 杯	(15.6) (10.6) 5.4	内　ナデ　口縁ヨコナデ 外　口縁部〜体部ナデ→底部手持ヘラケズリ	内　7.5YR4/4（褐） 外　5YR4/4（にぶい赤褐）	長石・石英粒子含む。	口縁5/12 回転実測 混入品	IV区
4	土師器 高杯	- 11.3 (6.5)	内　杯部ヘラミガキ（暗文?）脚部ヘラケズリ　ナデ 脚部ヨコナデ 外　ヘラケズリ→ナデ　裾部ヨコナデ	内　杯部2.5YR6/6（明赤褐） 脚部5YR2/1（黒褐） 外　2.5YR6/6（橙）	長石・石英粒子含む。	脚部完存　完全実測 H12（古墳中期）と接合 混入品	I区1層 II区1層 H12 II区2層
5	土師器 甕	(21.8) - (6.2)	内　ナデ 外　口縁ヨコナデ→体部ヘラケズリ	内　7.5YR7/4（にぶい橙） 外　5YR7/4（橙）	長石・石英粒子含む。	口縁1/3 回転実測	I区トレンチ II区1層
6	土師器 甕	(23.0) - (6.5)	内　ナデ 外　口縁ヨコナデ→体部ヘラケズリ	内　5YR6/8（橙） 外　5YR6/8（橙）	長石・石英粒子含む。	口縁1/3 回転実測	IV区
7	土師器 甕	(25.5) - (4.6)	内　口縁ヨコナデ 外　口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	内　7.5YR6/4（にぶい橙） 外　7.5YR6/4（にぶい橙）	まれに1〜2mm大赤色粒子。 長石・石英含む。	口縁1/20 回転実測 [illegible]	III区1層

番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
11	[illegible]	39.5	64.3	9.3	219	頁岩。[illegible]	

第6表　INP X　H 38号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 甕	- - (9.0)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ　ヘラ描平行沈文　櫛描波状文	内　10YR7/1（灰白） 外　10YR5/1（褐灰） 断　10YR7/1（灰白）	細石英・細長石粒子含む。 1mm大砂粒。7・10mm大小石 含む。	胴部完形 完全実測	No.1
2	土師器 甕	(21.8) - (18.1)	内　口縁ヨコナデ　ヘラナデ 外　口縁ヨコナデ　ヘラケズリ	内　2.5YR5/4（にぶい赤褐） 外　5YR5/2（灰褐）	0.5mm大雲石英粒子・雲長石 粒子含む。	口縁〜体部1/3 回転実測	II区2層 トレンチ I区
3	土師器 壺	(18.6) - (9.6)	内　口縁部ミガキ　胴部ヘラナデ　ナデ 外　口縁部ミガキ　胴部ヘラケズリ→ミガキ	内　7.5YR7/4（にぶい橙） 外　10YR7/4（にぶい黄橙）	雲石英・雲長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	IV区4層
4	土師器 台	- 11.8 (7.2)	内　ヘラケズリ→ナデ 外　ミガキ　脚部ヘラケズリ	内　7.5YR6/4（にぶい橙） 外　2.5YR6/6（橙）	雲石英・雲長石粒子。1mm大 砂粒含む。	脚部2/3 完全実測	I区
5	土師器 甕	- - (20.6)	内　ヘラナデ 外　ヘラケズリ	内　5YR6/6（橙） 外　2.5YR5/4（にぶい赤褐）	0.5mm大石英・長石粒子。 1〜3mm大1cm大小石含む。	胴部完形 完全実測	No.2
6	弥生 壺	(22.0) - (9.7)	内　ヘラナデ（縦目）→ミガキ 外　口縁ヨコナデ　ヘラナデ（縦目）　ヘラ描斜状文（縦）	内　5YR4/2（灰褐） 外　5YR4/2（灰褐）	細長石・細石英粒子含む。	口縁1/4 回転実測	II区2層
7	弥生 鉢	- 5.7 (2.8)	内　ミガキ　赤色塗彩 外　ミガキ　赤色塗彩　底部ミガキ　[illegible]	内　10R4/6（赤） 外　10R5/6（赤） 底　5YR6/6（橙）	雲石英・雲長石粒子含む。	底部完形 完全実測	覆土
8	弥生 鉢	- (6.4) (2.7)	内　ミガキ　赤色塗彩 外　ミガキ　赤色塗彩　高部ミガキ	内　2.5YR5/6（明赤褐） 外　2.5YR5/6（明赤褐）	雲石英・雲長石粒子含む。 1mm大砂粒含む。	底部1/3 回転実測	II区2層
9	弥生 土板	4.4 4.9 0.5	内　ミガキ 外　ヘラケズリ→ミガキ	内　7.5YR5/2（灰褐） 外　7.5YR6/4（にぶい橙）	細石英・細長石粒子含む。	壺転用土板	II区2層
12	弥生 壺	(12.2) - (4.7)	内　ミガキ 外　口唇部縄文　口縁部櫛描波状文 頸部櫛描簾状文（5本1組、1連）頸部櫛描波状文	内　7.5YR5/1（褐灰） 外　5YR7/4（にぶい橙）	2mm以下の長石・細石英粒子 含む。	口縁2/11	II区2層
13	弥生 甕	(9.5) - (5.3)	内　ミガキ 外　口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 胴部　櫛描斜走文	内　7.5YR7/4（にぶい橙） 外　7.5YR8/4（浅黄橙）	雲石英・雲長石粒子含む。	口縁1/5	III区トレンチ
14	弥生 壺	(13.8) - (3.9)	内　ミガキ 外　ミガキ　口唇部　刻み目	内　10YR7/3（にぶい黄橙） 外　2.5YR7/6（橙）	1mm以下の褐色粒子。長石 ・細石英粒子含む。	口縁1/4	覆土

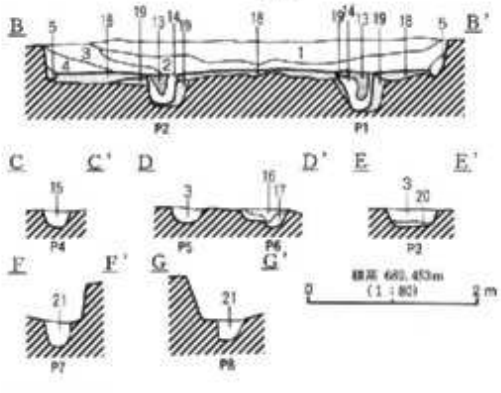
番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
40	磨製石鏃未製品	20.0	14.9	1.5	0.5	緑色片岩。[illegible]、器体研磨。	I区



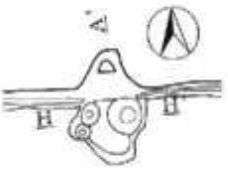
完掘（南より）

遺物出土状況（南より）

5. 遺物出土状況（西より）

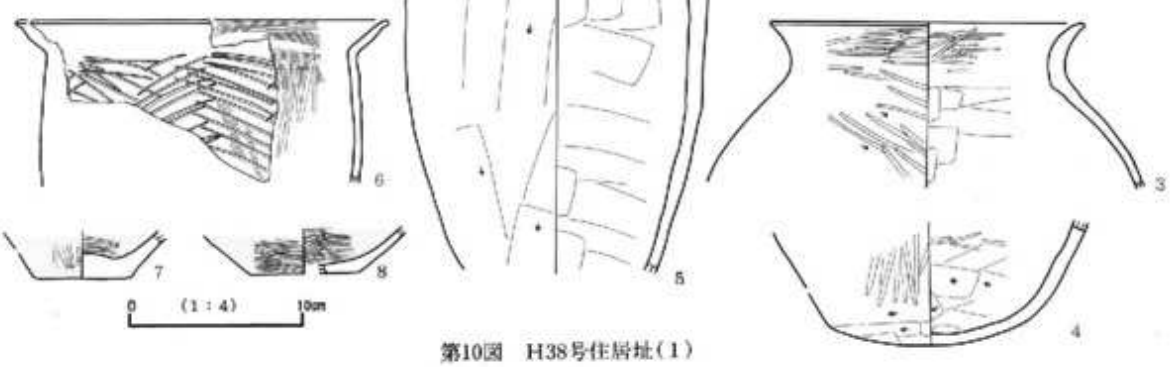


堀方（南より）



H38土層説明

1. 黒褐色土層(10YR2/3)
   パミス、小石を多く含む。
2. 暗褐色土層(10YR3/3)
   パミス、砂を含む。
3. 黒褐色土層（10YR2/2)
   パミスを少量含む。
4. 暗褐色土層（10YR3/4)
   砂ブロックが混入。
5. 暗褐色土層（10YR3/3)
   砂ブロックを含む。（周溝）
6. 黒褐色土層(10YR2/3)
   焼土、粘土ブロックを含む。（カマド崩壊層）
7. 褐色土層(7.5YR4/6)
   焼土。
8. 黒褐色土層（10YR2/2)
   粘土ブロックを含み、粘性、締まりあり。
   （カマド構築土）
9. 褐色土層(10YR4/4)
   炭化物粒子を含む、粘性あり。（カマド袖方）
10. 黒褐色土層（10YR2/3)
    灰を多く含み、焼土炭化物粒子を含む。
    （カマド燃方）
11. 暗褐色土層（10YR3/4)
    砂を多く含む。（カマド煙方）
12. 暗褐色土層(10YR3/4)
    焼土、炭化物粒子を含む。（カマド煙方）
13. 黒褐色土層(10YR2/2)
    砂ブロックを多く含む。（柱痕）
14. 暗褐色土層（10YR3/4)
    砂が多量に混入。
15. 黒褐色土層(10YR2/3)
    砂が多量に混入。（P5）
16. 黒褐色土層(10YR2/3)
    砂を微量に含む。
17. 暗褐色土層(10YR3/3)
    砂ブロックを含む。
18. 黒褐色土層(10YR2/3)
    パミス、砂を少量含む。（貼床）
19. 褐色土層(10YR4/4)
    砂が多量に混入。（ピット埋方）
20. 黒褐色土層(7.5YR3/1)
    粘土。
21. 暗褐色土層(10YR3/4)
    やや砂質。
    （P7、P8、12号住ピットか?）



第10図　H38号住居址（1）

第11図　H38号住居址(2)

1．奈良　H2・H3・H7・H8・H10・H38・H53・H54・H61・H63・H65・H68・H72・H74・H76・H78・H85・H91・H98・H100・H102

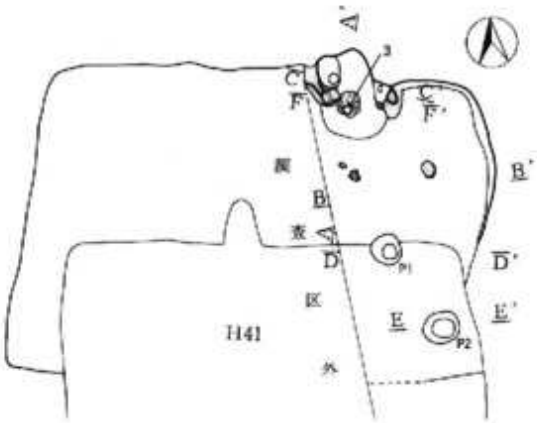
奈良時代の竪穴住居址は21棟を数える。H68は1の須恵器坏から奈良にしたが、白玉・長胴甕からは古墳時代の可能性もある。遺物の多い住居址を2003.森泉かよ子『西一本柳遺跡Ⅷ』佐久市埋蔵文化財調査報告書第109集の分類にしたがい4分類してみる。

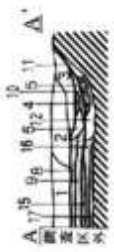
1．H3・H38・H53・H61・H74　土師器甕が武蔵甕で口縁が「く」字形を呈し、強く外反または外傾。土師器坏に畿内系暗文が施される。須恵器坏は回転ヘラ切り離し、須恵器有台坏を伴う。

2．H7・H10・H65・H72　土師器甕の武蔵甕口縁の外傾度がわずかに弱まる。須恵器坏類にシャープさがない。

3．H51・H63・H76・H85　土師器甕の武蔵甕口縁の外傾度がさらに弱まる。土師器坏は黒色処理される。須恵器に回転糸切り離しが加わる。

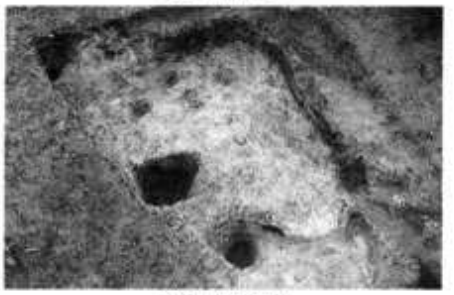
4．H2・H78・H98・H100　土師器甕にやや「コ」字形を呈すものが含まれる。土師器坏は平底で、内面黒色処理される。須恵器坏は底部回転糸切りが主体となる。



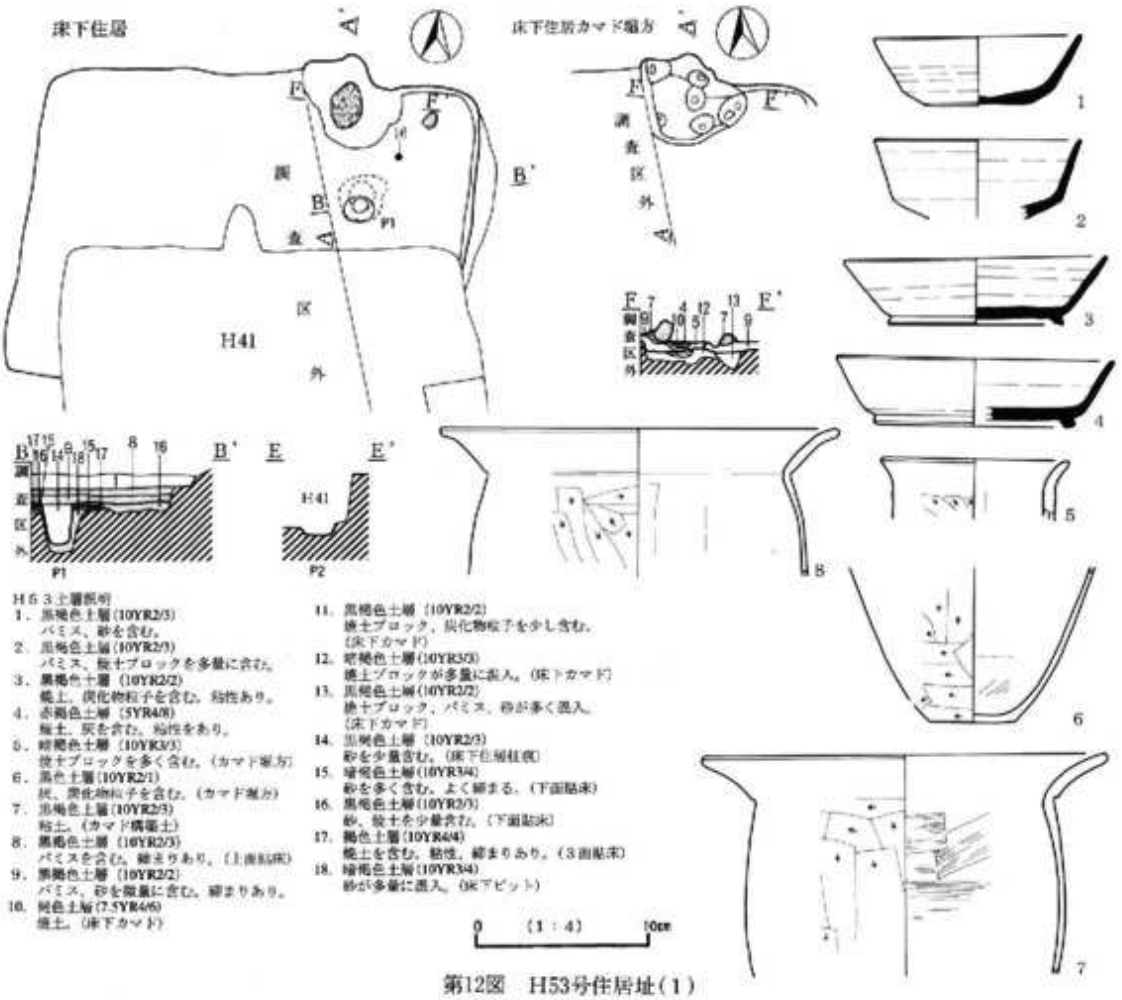


鉄出土(東より)

完掘(南より)



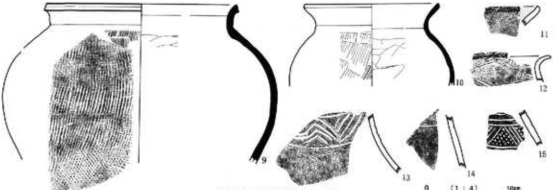
堀方(南より)



H53土層説明
1. 黒褐色土層(10YR2/3)
パミス、砂を含む。
2. 黒褐色土層(10YR2/3)
パミス、粘土ブロックを多量に含む。
3. 黒褐色土層(10YR2/2)
焼土、炭化物粒子を含む。粘性あり。
4. 赤褐色土層(5YR4/8)
焼土、炭を含む。粘性をあり。
5. 暗褐色土層(10YR3/3)
焼土ブロックを多く含む。(カマド堀方)
6. 黒色土層(10YR2/1)
炭、炭化物粒子を含む。(カマド堀方)
7. 黒褐色土層(10YR2/3)
粘土。(カマド構築土)
8. 黒褐色土層(10YR2/3)
パミスを含む。締まりあり。(上面貼床)
9. 黒褐色土層(10YR2/2)
パミス、砂を微量に含む。締まりあり。
10. 褐色土層(7.5YR4/6)
焼土。(床下カマド)
11. 黒褐色土層(10YR2/2)
焼土ブロック、炭化物粒子を少し含む。
(床下カマド)
12. 暗褐色土層(10YR3/3)
焼土ブロックが多量に混入。(床下カマド)
13. 黒褐色土層(10YR2/2)
焼土ブロック、パミス、砂が多く混入。
(床下カマド)
14. 黒褐色土層(10YR2/3)
砂を少量含む。(床下住居柱痕)
15. 暗褐色土層(10YR3/4)
砂を多く含む。よく締まる。(下面貼床)
16. 黒褐色土層(10YR2/3)
砂、粘土を少量含む。(下面貼床)
17. 褐色土層(10YR4/4)
焼土を含む。粘性、締まりあり。(3面貼床)
18. 暗褐色土層(10YR3/4)
砂が多量に混入。(床下ピット)

0 (1:4) 10cm

第12図　H53号住居址(1)



第13図　H53号住居址(2)

第7表　INP X　H 53号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 杯	(12.0) (6.6) 4.1	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転ヘラキリ	内 2.5Y5/1(黄灰) 外 2.5Y6/1(黄灰)	細石英・細長石粒子多く含む。	底部1/2 回転実測	T2 I区
2	須恵器 高杯	(12.1) (10.0) (4.6)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転ヘラキリ	内 2.5Y6/1(黄灰) 外 2.5Y6/1(黄灰)	細石英・細長石粒子，～1mm大砂粒含む。	底部1/6 回転実測	I区1層
3	須恵器 有台杯	15.7 10.4 3.9	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台	内 7.5YR6/4(橙) 外 2.5Y6/1(黄灰)	細石英・細長石粒子，～5mm大白色粒子含む。	底部完存 完全実測	カマド No.1
4	須恵器 有台杯	(16.6) (12.0) (4.0)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部右回転ヘラケズリ→高台	内 10YR7/2(にぶい橙) 外 10YR7/1(灰白)	細石英・細長石粒子，まれに～1mm大砂粒含む。	底部1/2 回転実測 みこみ墨痕	堀方 検出
5	土師器 小型甕	(11.2) - (3.6)	内 ヘラナデ　口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ　体部ヘラケズリ	内 7.5YR4/3(褐色) 外 7.5YR4/2(灰褐)	細石英・細長石粒子，～1mm大砂粒含む。	口縁1/5 回転実測	カマド堀方
6	土師器 甕	- 5.1 (9.2)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	内 10YR4/4(褐) 外 5YR3/3(暗赤褐)	細石英・細長石粒子，～1mm大砂粒含む。	底部3/4 完全実測	堀方
7	土師器 甕	(24.0) - (13.2)	内 ヘラナデ　口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ　体部ヘラケズリ	内 7.5YR5/3(にぶい褐) 外 7.5YR6/3(にぶい褐)	細石英・細長石粒子，～1mm大砂粒含む。	口縁1/4 回転実測	H43検出 検出・カマド I区1層
8	土師器 甕	(23.6) - (8.7)	内 ヘラナデ　口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ　体部ヘラケズリ	内 2.5YR4/4(にぶい赤褐) 外 5YR5/6(明赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/5 回転実測	カマド 検出
9	須恵器 甕	(23.2) - (19.6)	内 あて具痕　ナデ　口縁ヨコナデ 外 体部タタキメ　ナデ　口縁ヨコナデ	内 2.5Y5/2(暗灰黄) 外 2.5Y5/1(黄灰)	細石英・細長石粒子，1～2mm大砂粒含む。	口縁1/8 回転実測	I区1層
10	須恵器 甕	(16.6) - (10.0)	内 ナデ　口縁ヨコナデ 外 体部タタキメ　ナデ　口縁ヨコナデ	内 N3/(暗灰) 外 N3/(暗灰) 断 5YR4/2(灰褐)	細石英・細長石粒子，～3mm大砂粒含む。	口縁1/8 回転実測	カマド

番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	重	備考	出土位置
16	鉄鏃	30.5	29.0	3.0	2.7	鉄製品。茎欠損	No.2

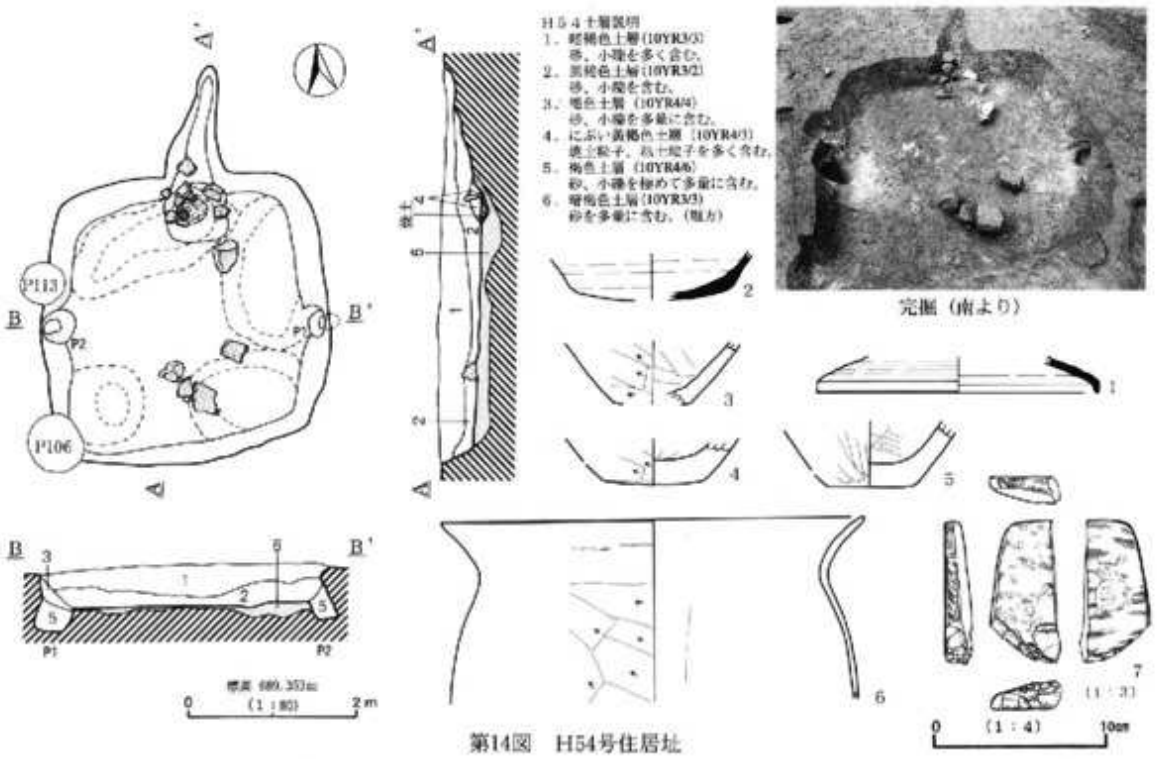
第8表　INP X　H 54号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 蓋	(16.0) - (2.1)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	内 5Y4/1(灰) 外 7.5Y4/1(灰)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	I層
2	須恵器 杯	- (9.6) (2.7)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転ヘラ切り	内 5Y3/1(オリーブ黒) 外 2.5Y4/2(暗灰黄)	0.5mm大長石粒子多く，細石英粒子含む。	底部1/5 回転実測	I区1層
3	土師器 甕	- (4.6) (3.7)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	内 5YR3/2(暗赤褐) 外 5YR5/3(にぶい赤褐)	細石英・細長石粒子，1mm大砂粒含む。	底部3/8 回転実測	I区1層
4	土師器 甕	- 6.0 (2.7)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	内 7.5YR6/4(にぶい橙) 外 7.5YR7/4(にぶい橙)	細石英・細長石粒子，1～3mm大砂粒含む。	底部完存 完全実測	II区堀方
5	土師器 甕	- 5.0 (3.9)	内 ヘラナデ 外 ヘラナデ	内 7.5YR3/1(黒褐) 外 7.5YR6/6(橙)	細石英・細長石粒子，～1mm大砂粒含む。	底部3/4 回転実測	II区2層
6	土師器 甕	(25.1) - (10.0)	内 ヘラナデ　口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ　体部ヘラケズリ	内 7.5YR3/1(黒褐) 外 7.5YR6/6(橙)	細石英・細長石粒子，～1mm大砂粒含む。	口縁1/6 回転実測	II区1層

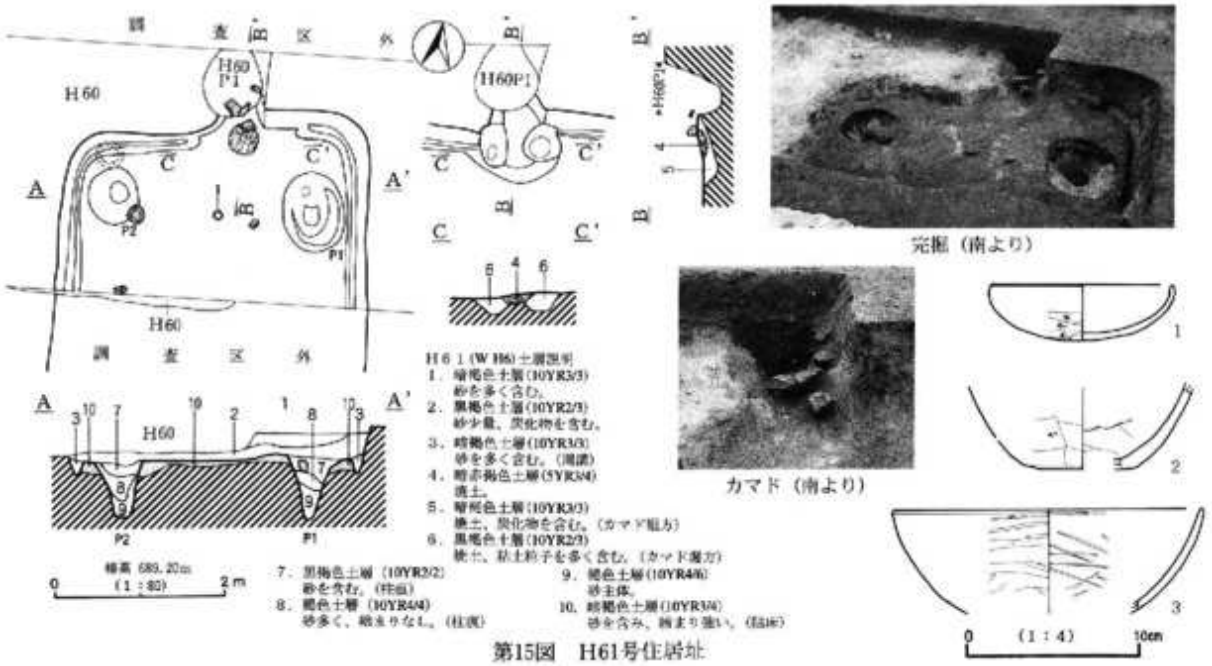
番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	重	備考	出土位置
7	扁平片刃石斧	(63.0)	(31.0)	12.0	28.0	粘板岩。刃部刃こぼれ・使用痕，器体研磨加工。	IV区1層

第9表　INP X　H 61号住居址出土遺物一覧表

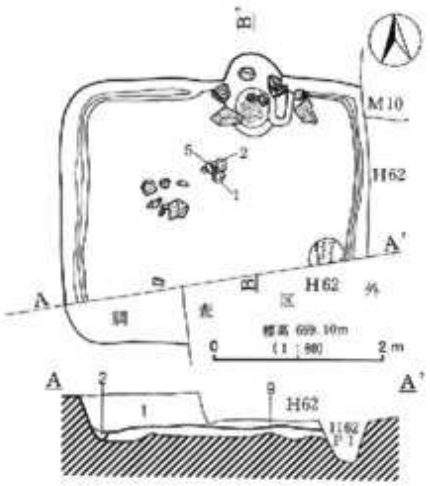
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 杯	10.6 11.0 3.3	内 ヨコナデ 外 底部手持ヘラケズリ→口縁ナデ	内 5YR6/6(橙) 外 5YR6/8(橙)	細石英・細長石粒子，0.5mm大砂粒含む。	完形 完全実測	No.1
2	土師器 甕	- 6.6 (3.2)	内 ナデ 外 ヘラケズリ	内 7.5YR7/4(にぶい橙) 外 10YR7/3(にぶい黄橙)	0.5mm大石英，1mm大長石粒子含む。	底部7/8 完全実測	周辺
3	土師器 鉢	(18.4) - (5.1)	内 ナデ　ミガキ 外 ヘラケズリ　ミガキ	内 2.5YR4/6(赤褐) 外 2.5YR4/6(赤褐)	細石英・細長石粒子，ごくまれに2mm大赤色粒子含む。	口縁3/16 回転実測	II区 H60



第14図　H54号住居址

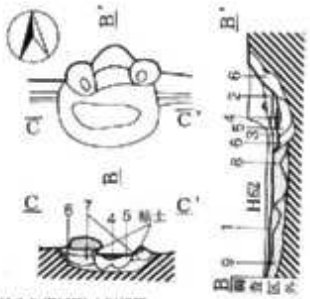


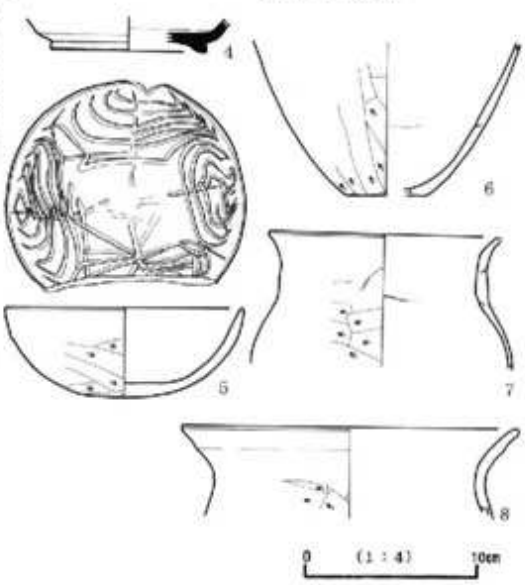
第15図　H61号住居址



完掘（南より）

カマド（南より）





H63（W H8）土層説明
1．暗褐色土層（10YR3/3）
砂、炭化物粒子多含む。
2．灰黄褐色土層（10YR4/2）
砂土、灰を多く含む。
3．褐褐色土層（10YR3/3）
砂土、灰を多く含む。
4．暗赤褐色土層（2.5YR3/6）
焼土。
5．暗褐色土層（10YR3/3）
砂、焼土粒子を含む。（カマド脇方）
6．にぶい黄褐色土層（10YR4/3）
砂を多く含む。（カマド脇方）
7．黒褐色土層（10YR2/3）
砂を含む。（カマド脇方）
8．暗赤褐色土層（10YR2/3）
砂少量、焼土、炭化物粒子を含む。（貼床）
9．褐色土層（10YR4/4）
砂土体、暗褐色土を含む。

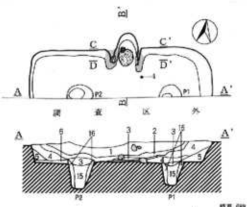
第16図　H63号住居址

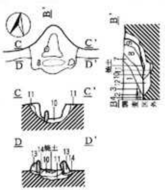
第10表　INP X　H63号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 杯	12.4 7.1 3.2	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転ヘラ切り ナデ	内 10Y5/1(灰) 外 10Y5/1(灰)	雲石英・雲母石粒子、1～2mm大砂粒まれに含む。	口縁3/4 完全実測	No.3
2	須恵器 杯	12.3 7.3 3.9	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転ヘラ切り ナデ	内 10Y5/1(灰) 外 10Y5/1(灰)	雲石英・雲母石粒子、1～2mm大砂粒まれに含む。	口縁3/4 完全実測	No.1
3	須恵器 杯	(12.8) (6.4) 4.1	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り	内 〔10YR7/2(にぶい黄橙)〕 外 10YR7/2(にぶい黄橙)	雲石英・雲母石粒子、1～2mm大砂粒まれに含む。	底部1/4 回転実測 次たすき外	
4	黒色処理 有台杯	- (9.2) (2.1)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→高台	内 5Y5/1(灰) 外 5Y5/1(灰)	雲石英・雲母石粒子、1～2mm大砂粒まれに含む。	底部1/2 回転実測	I区覆方
5	土師器 杯	14.2 13.4 5.3	内 ナデ 底文 外 底部手持ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	内 5YR7/6(にぶい橙) 外 5YR6/6(にぶい橙)	0.5mm大石英・長石粒子、1mm大砂粒含む。	口縁3/4 完全実測	No.2
6	土師器 甕	- (4.0) (9.2)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	内 2.5YR5/6(明赤褐) 外 2.5YR5/6(にぶい赤褐)	雲石英・雲母石粒子含む。	底部1/5 回転実測	カマド
7	土師器 甕	(13.8) - (7.9)	内 口縁ヨコナデ 体部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ	内 2.5YR2/0(暗赤褐) 外 2.5YR5/6(にぶい赤褐)	雲石英・雲長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	
8	土師器 甕	(29.0) - (5.4)	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ	内 2.5YR5/8(明赤褐) 外 2.5YR6/8(にぶい橙)	雲石英・雲長石粒子含む。	口縁1/12 回転実測	

第13表　INP X　H72号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 杯	13.5 9.7 4.0	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	内 5Y7/1(灰白) 外 5Y7/1(灰白)	雲石英・雲母石粒子、1～3mm大砂粒含む。	2/3 完全実測	No.1
2	須恵器 杯	(15.6) (8.0) (3.1)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ底部回転ヘラ切り 底部ヘラ記号あり	内 5Y6/1(灰) 外 5Y6/1(灰)	雲石英、0.5mm大雲石粒子含む。	1/6 回転実測	カマド
3	土師器 杯	(12.6) (6.6) (1.8)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ 底部ヘラケズリ	内 10YR1.7/1(黒) 外 7.5YR6/6(橙)	雲石英・雲長石粒子含む。	1/6 回転実測	
4	土師器 杯	13.6 - (4.5)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 〔10R4/6(赤橙)〕 外 2.5R4/6(赤)	雲石英・雲長石粒子含む。	口縁1/5 回転実測	
5	須恵器 壺	- - (13.2)	内 アテダコン・ナデ 外 平行タタキメ	内 5YR6/2(灰オリーブ) 外 N1.5(黒)	雲石英・雲長石粒子含む。まれに1mm大砂粒含む。	底部1/3 回転実測	

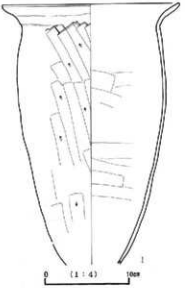


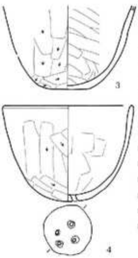


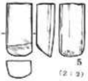
完掘カマド(東より 南東より)

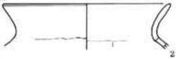
標高 699.00m
(1:80)
0　2m

H65(WH11)土層説明
1. 黒褐色土層(10YR2/3)
2. 黒褐色土層(10YR2/2)
砂を少量含む。
3. 黒褐色土層(10YR2/3)
2層より砂少ない。
4. 暗褐色土層(10YR3/4)
砂を含む。
5. 褐色土層(10YR4/4)
砂、焼土粒子を多く含む。
6. 暗褐色土層(10YR3/4)
砂を多く含む。
7. 暗褐色土層 (10YR3/3)
砂、炭化物、焼土粒子を含む。
8. 黒褐色土層 (10YR2/3)
砂、炭化物、焼土粒子、粘土を含む。
9. 暗赤褐色土層(5YR3/4)
焼土を多量に含む。
10. 黒褐色土層(10YR2/3)
砂少量、粘土を含む。
焼面は抜ける。(カマド痕か)
11. 暗褐色土層 (10YR3/4)
砂主体。
12. 暗褐色土層(10YR3/3)
焼土、炭化物を含む。
13. 灰黄褐色土層(10YR4/2)
粘土。(カマド構築土)
14. 暗褐色土層 (10YR3/3)
焼土、炭化物粒子を含む。
15. 褐色土層(10YR4/6)
(柱痕)
16. 黄褐色土層(10YR5/6)
砂主体









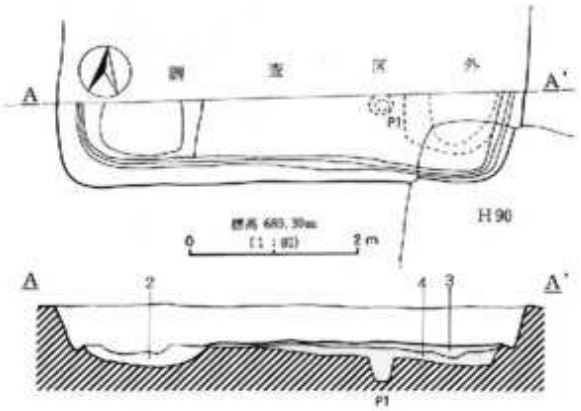
第17図　H65号住居址

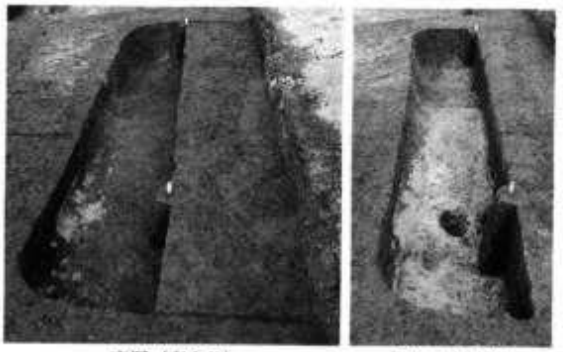
第11表　INP X　H65号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整			色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 甕	21.7 - (32.0)	内 口縁ヨコナデ ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ ヘラケズリ			内 5YR6/8(橙) 外 2.5YR6/4(にぶい橙)	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒含む。	口縁～体部下半 3/4 完全実測	カマド周辺
2	土師器 甕	(20.0) - (5.6)	内 口縁ヨコナデ ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ			内 7.5YR6/4(にぶい橙) 外 7.5YR6/4(にぶい橙)	細石英・細長石粒子、1・2mm大赤色・白色砂粒子含む。	口縁 1/4 回転実測	
3	土師器 甕	- 5.4 (10.2)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ 底部ヘラナデ			内 7.5YR6/3(にぶい褐) 外 7.5YR6/4(にぶい橙)	細石英・細長石粒子、3mm大小石含む。	底部完存 完全実測	カマド周辺
4	土師器 甑	16.0 - 11.7	内 ヘラナデ 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ ヘラケズリ 底部 穿孔4ヶ			内 7.5YR6/4(にぶい橙) 外 7.5YR7/4(にぶい橙)	細石英・細長石粒子、3・7mm大赤色粒子含む。	ほぼ完形 完全実測 口縁 1/3 欠損 焼成前穿孔	No.1
番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考			出土位置
5	小型扁平片刃石斧	24.0	12.0	8.0	4.7	蛇紋岩。完形。刃部縦方向擦状痕。器体面工研磨。流通品か？			覆土

第12表　INP X　H68号住居址出土遺物一覧表

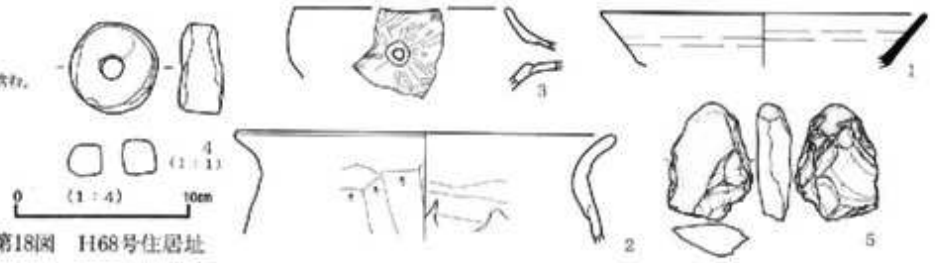
番号	器種	法量	成形・調整			色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 有台杯	(19.0) - (3.2)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ			内 7.5YR5/1(褐灰) 外 7.5YR5/1(褐灰)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/6 回転実測	上層
2	土師器 甕	(22.0) - (5.4)	内 口縁ヨコナデ ナデ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ			内 5YR6/4(にぶい橙) 外 5YR6/4(にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。1mm大砂粒含む。	口縁 1/8 回転実測	下層
3	弥生 広口土器	-	内 ナデ 外 ヘラケズリ→ミガキ			内 5YR6/4(にぶい橙) 外 5YR6/4(にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	破片実測	上層
番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考			出土位置
4	臼玉	13.5	13.0	5.5	1.63	滑石。			床
5	石斧未製品	69.0	50.0	20.0	88.7	蛇紋岩。刃部縁辺直接加工。器体直接加工。素材楕円礫			下層



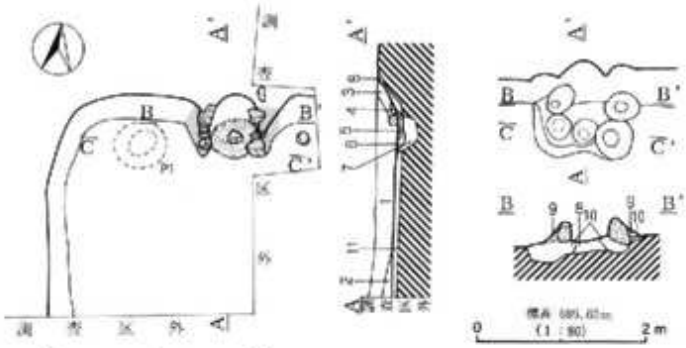


完掘（東より）　　掘方（東より）

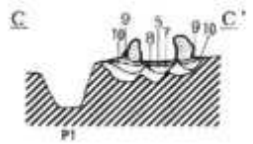
H68（W H14）土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/3）
砂、パミス、炭化物を含む。
2．暗褐色土層（10YR3/3）
砂多く、炭化物粒子、パミスを含む。
3．暗褐色土層（10YR3/4）
砂質。（粘凍）
4．暗褐色土層（10YR3/3）
砂が多い。



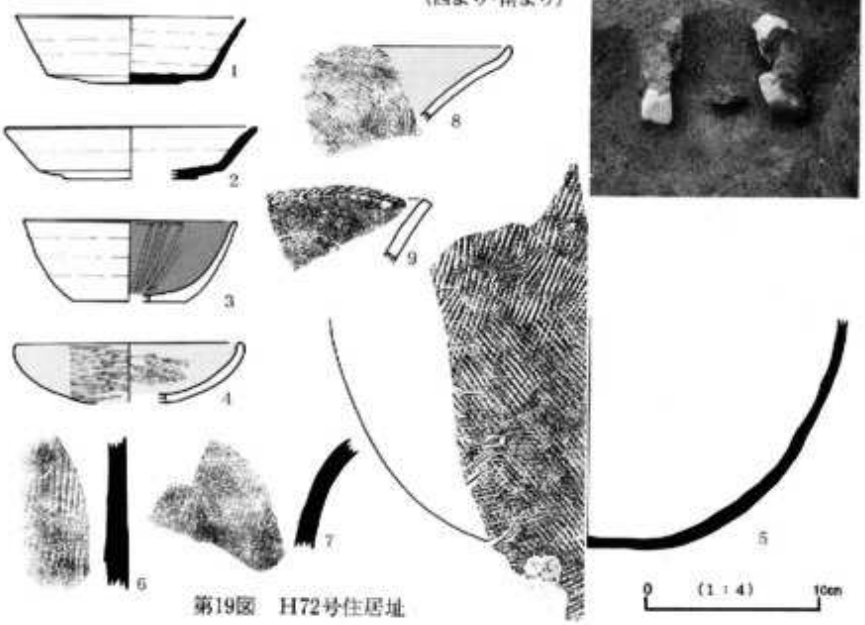
第18図　H68号住居址



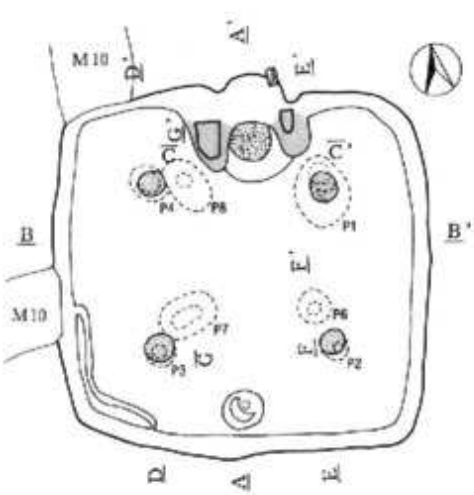
上から完掘カマド
（西より・南より）

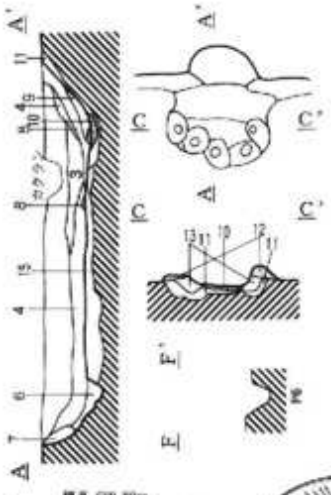


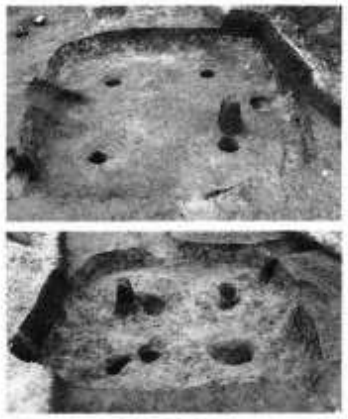
H72（W H18）土層説明
1．暗褐色土層（10YR3/3）
砂、小石、炭化物粒子を少し含む。
2．黒褐色土層（10YR2/3）
砂、小石、炭化物粒子を少し含む。
3．暗赤褐色土層（5YR3/2）
粘土。（組織質）
4．極暗赤褐色土層（5YR2/3）
粘土、炭を多く含む。
5．赤褐色土層（2.5YR4/8）
粘土。
6．極暗赤褐色土層（5YR2/3）
粘土を含み、焼ける。
7．暗褐色土層（7.5YR3/4）
粘土、粘土、砂混在。
8．にぶい黄褐色土層（10YR4/3）
砂を多く含む。
9．黒褐色土層（10YR2/3）
粘土。
10．黒褐色土層（10YR2/2）
粘土、粘土粒子を含む。
11．にぶい黄褐色土層（10YR4/3）
砂を多く、上面縁まる。（粘凍）



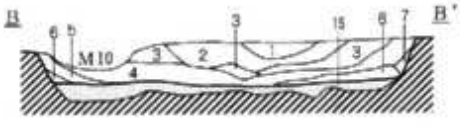
第19図　H72号住居址



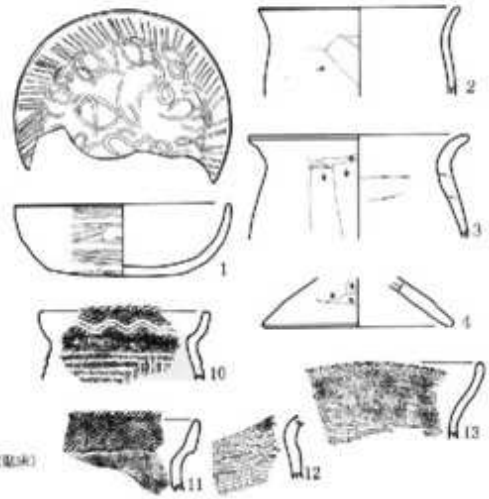




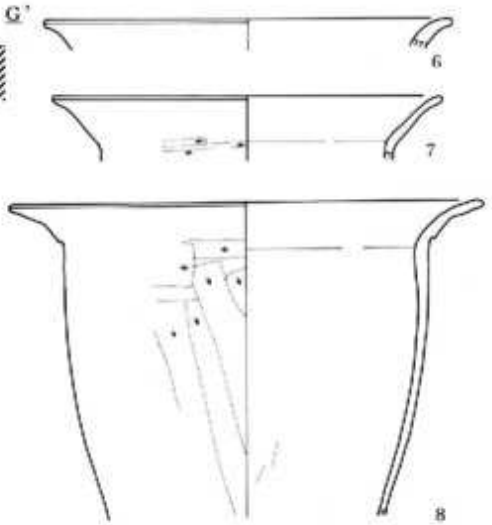
完掘（東より）

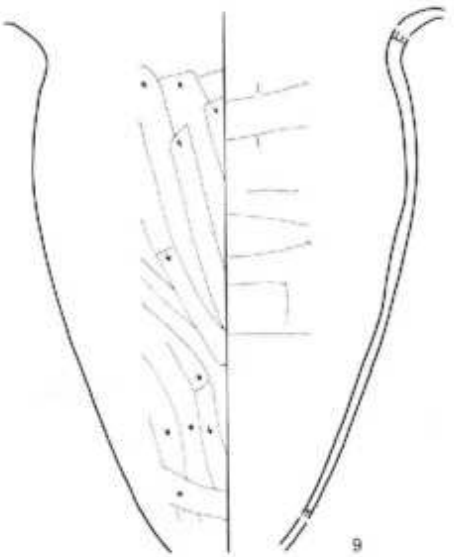


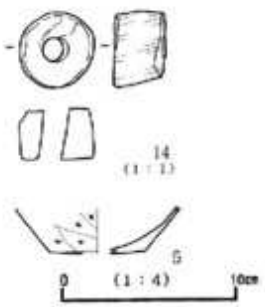
1. 暗褐色土層（10YR3/4）
   砂多く、炭化物を含む。
5. 黒褐色土層(10YR2/3)
   砂を少量含む。
6. 黒褐色土層(10YR3/2)
   砂を少量含む。
7. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）
   砂主体。
8. 赤灰色土層（2.5YR4/1）
   粘土多量、焼土粒子を含む。
9. 黒褐色土層(7.5YR3/2)
   粘土多量、焼土粒子を含む。
10. 赤褐色土層(2.5YR4/8)
    焼土。
11. 褐色土層（10YR4/4）
    砂、多量に含む。
12. 暗赤褐色土層（5YR2/3）
    粘土。（カマド）
13. にぶい赤褐色土層(5YR5/4)
    粘土粒子を含む。
14. 暗褐色土層(10YR3/4)
    砂を多く含む。(柱痕)
15. 暗褐色土層（10YR3/4）
    砂、パミス、暗褐色土直径土層。（貼床）
16. 暗褐色土層（10YR3/3）
    砂、パミスを含む。
17. 褐色土層(10YR4/4)
    砂を多く含む。



H74（W H20）土層説明
1. 黒褐色土層(10YR2/3)
   砂、パミスを少量含む。
2. 暗褐色土層(10YR3/3)
   砂、パミス、炭化物を含む。
3. 黒褐色土層（10YR2/3）
   砂、パミス、炭化物を含む。







第20図　H74号住居址

第14表 INP X H74号住居址出土遺物一覧表

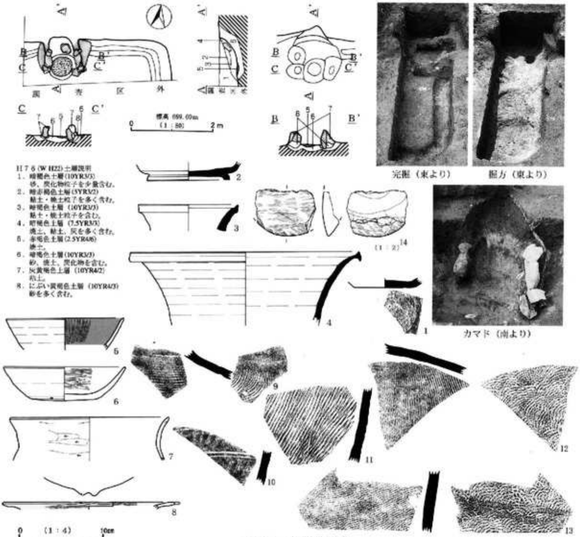
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	土師器 坏	12.8 8.0 4.3	内 ナデ 暗文(畿内系) 外 手持ヘラケズリ→ミガキ	内 5YR6/6(橙) 外 5YR6/4(にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。緻密。	口縁2/3 完全実測	Ⅳ区
2	土師器 甕	(12.0) - (5.3)	内 ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→体部ヘラケズリ	内 5YR3/3(にぶい赤褐) 外 5YR6/4(にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/2 回転実測	Ⅲ区
3	土師器 甕	(13.2) (6.1)	内 ヨコナデ ナデ 外 口縁ヨコナデ→体部ヘラケズリ	内 7.5YR7/3(にぶい橙) 外 7.5YR6/4(にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。1mm大砂粒含む。	口縁1/5 回転実測	Ⅳ区
4	土師器 台付甕	- (11.4) (2.9)	内 脚部ヨコナデ 外 ヘラケズリ 脚部ヨコナデ	内 2.5YR5/6(明赤褐) 外 2.5YR5/6(明赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部3/8 回転実測	掘方 カマド
5	土師器 甕	(5.6) (2.7)	内 ヘラナデ ナデ 外 ヘラケズリ	内 2.5YR3/2(暗赤褐) 外 2.5YR3/2(暗赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/6 完全実測	カマド
6	土師器 甕	(21.3) - (1.8)	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ	内 10YR7/4(にぶい黄橙) 外 5YR6/6(橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	Ⅱ区
7	土師器 甕	(23.1) (3.6)	内 口縁ヨコナデ 外 口縁ヨコナデ→体部ヘラケズリ	内 5YR6/6(橙) 外 5YR7/4(にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/5 回転実測	Ⅳ区
8	土師器 甕	(28.2) (18.7)	内 口縁ヨコナデ 体部ヘラナデ 外 口縁ヨコナデ→体部ヘラケズリ	内 5YR4/3(にぶい赤褐) 外 5YR5/4(にぶい赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	胴部1/5 回転実測	Ⅲ区 カマド
9	土師器 甕	- (32.0)	内 体部ヘラナデ 口縁ヨコナデ 外 体部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	内 10YR6/3(にぶい黄橙) 外 7.5YR7/2(明褐灰)	細石英・細長石粒子含む。まれに1mm大砂粒含む。	胴部1/3 回転実測	Ⅰ区 カマド カマド掘方
10	弥生 壺	(10.2) - (4.0)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 口唇部縄文 口縁部縄文→ヘラ描波状文 頸部縄文→「コ」の字重ね文	内 7.5YR6/4(にぶい橙) 外 7.5YR5/4(にぶい褐)	細石英・細長石粒子含む。	1/4	Ⅳ区

番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
14	臼玉	11.0	11.0	7.5	1.55	滑石。孔径3.5mm	掘方

第22表 INP X H103号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 蓋	(17.0) - (3.0)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→天井部右回転ヘラケズリ	内 N5/(灰) 外 5YR5/3(にぶい赤褐)	細石英、~1mm大長石粒子含む。	口縁1/3 回転実測 火だすき	
2	須恵器 杯	- (6.4) (0.9)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部右回転糸切り	内 7.5YR6/1(褐灰) 外 7.5YR5/2(灰褐)	細石英、~1mm大長石粒子含む。1mm大砂粒含む。	底部1/2 回転実測	
3	須恵器 有台坏	(15.9) (10.2) (6.4)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→高台	内 5Y4/1(灰) 外 2.5Y4/1(黄灰)	細石英、~1mm大長石粒子含む。1mm大砂粒含む。	口縁1/4 回転実測	
4	土師器 椀	(14.6) - (4.4)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ→底部ヘラケズリ→高台	内 10YR1.7/1(黒) 外 10YR7/6(明黄褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁3/8 回転実測 高台欠損	
5	土師器 杯	(6.8) (1.2)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ→底部回転糸切り後ヘラケズリ	内 10YR1.7/1(黒) 外 10YR6/3(にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/2 回転実測	
6	土師器 甕	(20.4) - (5.7)	内 口縁ヨコナデ 体部ナデ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ	内 5YR5/2(灰褐) 外 5YR5/3(にぶい赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/5 回転実測	
7	土師器 甕	(13.8) - (4.9)	内 ナデ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ	内 2.5YR5/4(にぶい赤褐) 外 2.5YR5/4(にぶい赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁5/12 回転実測	
8	土師器 甕	- (5.1) (2.4)	内 ナデ 外 ヘラケズリ	内 5YR5/4(にぶい赤褐) 外 2.5YR4/4(にぶい赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部2/3 回転実測	
9	土師器 甕	(10.2) (5.8)	内 ナデ 外 体部ヘラケズリ	内 7.5YR6/4(にぶい橙) 外 7.5YR4/1(褐灰)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	
10	土師器 鉢	(10.4) (13.6) (4.9)	内 ミガキ 外 底部手持ヘラケズリ→ミガキ	内 10YR7/3(にぶい黄橙) 外 10YR7/3(にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/12 回転実測	撹乱
11	弥生 台付甕	- (6.2) (5.0)	内 体部ナデ 脚部ミガキ 外 ナデ→ミガキ	内 7.5YR6/4(にぶい橙) 外 5YR6/4(にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部3/8 回転実測	掘方
12	弥生 台付甕	(7.6) (4.6)	内 杯部ミガキ 脚部ミガキ 外 杯部ミガキ 脚部ミガキ	内 10YR6/3(にぶい黄橙) 外 7.5YR7/3(にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/4 回転実測	検出
13	弥生 甕	(21.3) - (4.4)	内 ミガキ 外 口縁ヨコナデ(縦目) ナデ 口唇部縄文 頸部櫛描文?	内 7.5YR6/6(橙) 外 10YR7/3(にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/8 回転実測	上層
14	弥生 台付鉢	-	内 杯部ミガキ 赤色塗彩 脚部ナデ 外 ミガキ 赤色塗彩	内 7.5YR4/6(褐) 脚 10YR7/3(にぶい黄橙) 外 7.5YR4/6(褐)	細石英・細長石粒子含む。	脚部完存 完全実測	
15	弥生 鉢	(5.2) (2.3)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 底部ミガキ	内 2.5YR4/6(赤褐) 外 2.5YR5/6(明赤褐) 底 5YR6/3(にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/4 回転実測	検出
16	弥生 鉢	(7.8) (2.5)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩 底部ナデ	内 7.5YR4/6(褐) 外 7.5YR4/6(褐) 底 7.5YR7/4(にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/4 回転実測	撹乱
17	弥生 浅鉢	(15.2) - (3.8)	内 ミガキ 赤色塗彩 外 ミガキ 赤色塗彩	内 10R4/6(赤) 外 10R4/6(赤)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/8 回転実測	

番号	種別	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
18	大型打製石斧	89.0	61.0	30.0	280.0	硬質頁岩。刃部剥離、器体研磨、基部欠損、刃部両面に使用による磨耗と光沢。	掘方
19	磨製石鏃	11.0	20.0	3.0	0.8	粘板岩。上部欠損。周縁辺研磨。器体研磨・穿孔。	検出
20	紡錘車	205.0	52.0	7.0	58.8	鉄製。	No.1

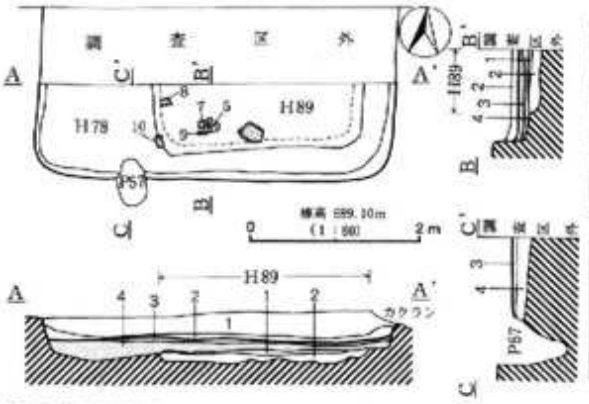


第21図　H76号住居址

第15表　INP X　H 76 号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 杯	- (7.5) (1.6)	内　ロクロナデ 外　底部回転糸切り	内　5Y5/1(灰) 外　5Y6/1(灰)	細石英・細長石砂子含む。	底部 1/5 回転実測	カマド
2	黒色土器 有台杯	- (10.0) (2.3)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ　底部回転ヘラケズリ→高台	内　N5/(灰) 外　N5/(灰)	細石英・細長石粒子含む。 1・2mm 大黒色粒子含む。	底部 1/4 回転実測	カマド
3	須恵器 壺	(12.2) - (3.2)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ　内外自然釉付着	内　5YR3/1(オリーブ黒) 外　5Y7/2(灰白) 断　7.5YR6/1(褐灰)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/3 回転実測	
4	須恵器 甕	(29.0) - (9.0)	内　ロクロナデ　自然釉付着 外　ロクロナデ	内　5Y4/1(灰) 外　5Y3/1(オリーブ黒) 断　7.5Y6/1(褐灰)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/4 回転実測	カマド
5	土師器 杯	(14.4) - (3.9)	内　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ	内　10YR1.7/1(黒) 外　10YR7/4(にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/6 回転実測	
6	土師器 杯	(15.0) (7.2) 4.2	内　ミガキ 外　ロクロナデ　体部下端底部手持ヘラケズリ	内　5YR5/4(にぶい赤褐) 外　2.5YR6/6(橙)	細石英・細長石粒子含む。 まれに 2mm 大砂粒含む。	2/3 回転実測	カマド
7	土師器 甕	(19.5) - (5.3)	内　ヨコナデ 外　ヘラケズリ　口縁ヨコナデ	内　5YR5/4(にぶい赤褐) 外　5YR5/3(にぶい赤褐)	細石英・細長石砂子含む。	口縁 1/6 回転実測	カマド
8	弥生 高杯・鉢	(21.2) - (6.9)	内　ミガキ　赤色塗彩 外　ミガキ　赤色塗彩　突起あり	内　5YR3/6(暗赤褐) 外　5YR3/6(暗赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁 1/4 回転実測	カマド

番号	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
14	両刃石斧片	29.0	27.0	11.0	12.7	変質輝緑岩、刃部線状痕・研磨、器体欠損、刃部剥片。	床



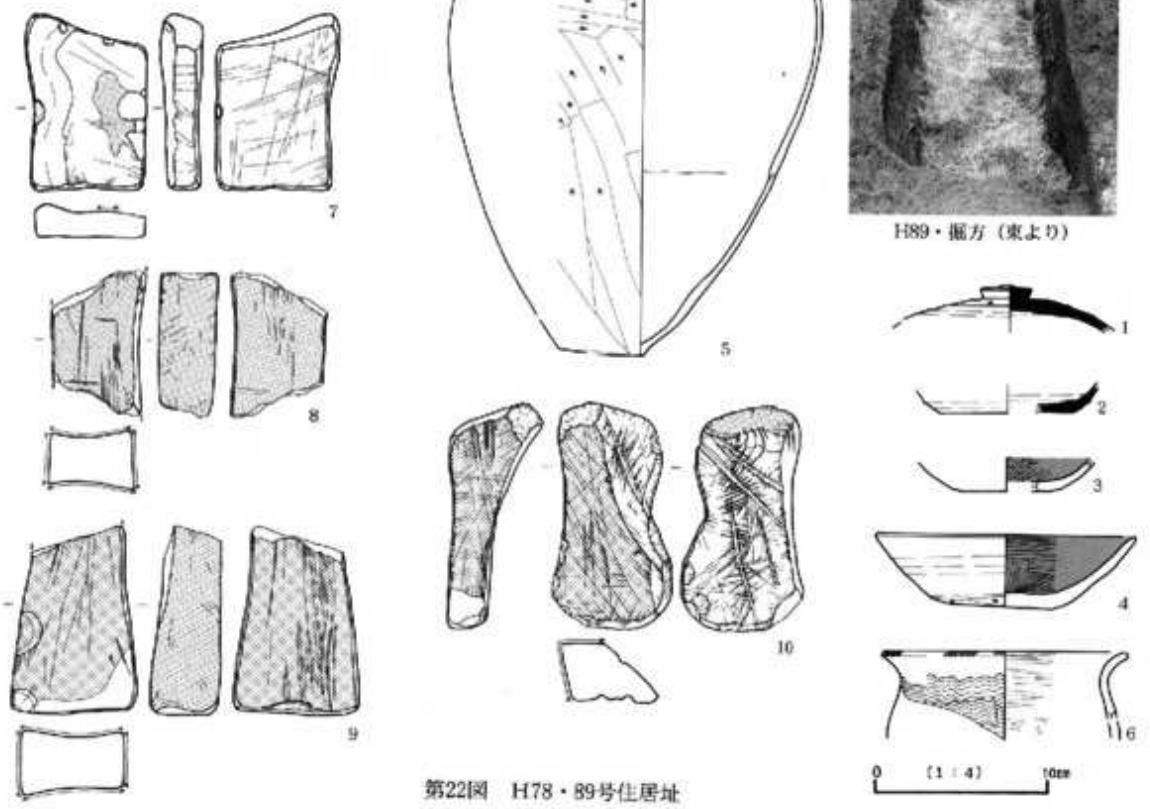
H78・完掘（東より）

H78掘方・H89完掘（東より）

H89・掘方（東より）

H78（W H24）土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/3）
パミスを含む。
2．黒褐色土層（10YR2/2）
砂、パミスを含む。
3．黒褐色土層（10YR2/3）
砂を含む。（結床）
4．暗褐色土層（10YR3/3）
砂を多量に含む。（掘方）

H89（W H35）土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）
砂、パミスを多く含む。
よく締まる。（結床）
2．黒褐色土層（10YR2/3）
砂を多量に含む。



第22図　H78・89号住居址

第16表　INP X　H78号住居址出土遺物一覧表

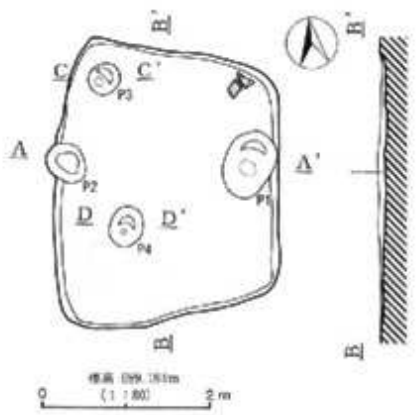
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	現存・備考	出土位置
1	須恵器 蓋	-	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ→天井部ヘラケズリ→つまみ	内　2.5YR5/1（赤灰） 外　2.5YR5/1（赤灰）	細石英、細長石粒子、まれに1mm大砂粒含む。	天井部完存 完全実測	II区1層
2	須恵器 杯	- (8.0) (1.8)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ→底部回転糸切り	内　2.5GY5/1（オリーブ灰） 外　2.5GY5/1（オリーブ灰）	細石英、細長石粒子、まれに1mm大砂粒含む。	底部1/4 回転実測 大ダスキ内外	II区1層
3	土師器 杯	- (6.2) (2.0)	内　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ→底部右回転糸切り	内　10YR1.7/1（黒） 外　7.5YR5/4（にぶい橙）	細石英、細長石粒子含む。	底部1/3 回転実測	検出
4	土師器 杯	15.5 6.4 4.3	内　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ→底部糸切り　手持ヘラケズリ	内　7.5YR1.7/1（黒） 外　7.5YR6/8（橙）	細石英、細長石粒子含む。	口縁3/4 完全実測	I区2層
5	土師器 甕	(21.6) 4.9 28.4	内　口縁ヨコナデ　体部ヘラナデ　ナデ 外　口縁ヨコナデ　体～底部ヘラケズリ	内　5YR5/4（にぶい赤褐） 外　5YR5/4（にぶい赤褐）	細石英、細長石粒子含む。	口縁3/16 完全実測	I区1層、I区坦方 II区坦方 床、坦方、No.1

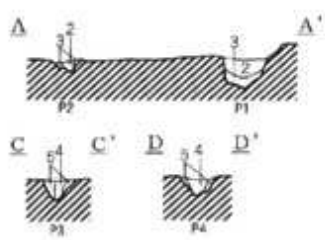
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
6	弥生 甕	(14.6) - (5.2)	内 ミガキ 外 口縁ヨコナデ 口縁縄文 体部櫛描波状文	内 7.5YR6/3(にぶい橙) 外 7.5YR4/3(茶褐)	雑石英、雑長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	II区東方

番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
7	砥石	104.0	73.0	25.0	250.0	砂岩	No.3
8	砥石	(86.0)	57.0	35.0	233.0	凝灰岩	No.2
9	砥石	111.0	74.0	34.0	494.0	凝灰岩	No.4
10	砥石	133.0	71.0	56.0	350.0	砂岩、頁砥石、磨製石斧の刃部を作り出すのに適当。	No.1

第17表 INP X H85号住居址出土遺物一覧表

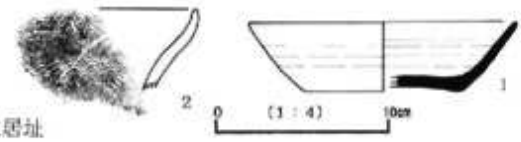
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 杯	(15.0) (8.4) (4.1)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り	内 2.5Y6/2(灰黄) 外 2.5Y7/2(灰黄)	0.5mm大長石・石英粒子含む。	底部3/10 回転実測 京大ダスキ内外	検出



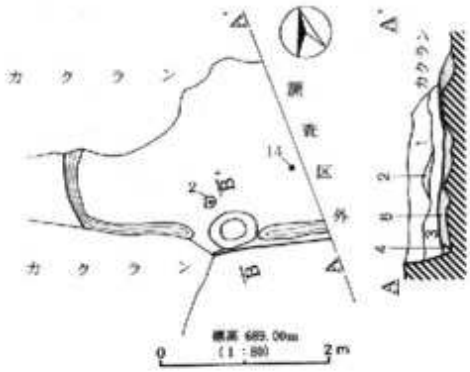


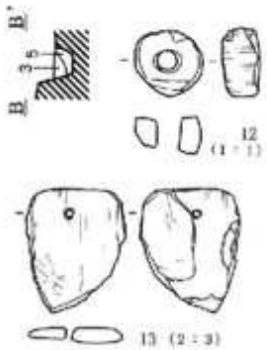
H85(W H31)土層説明
1. 黒褐色土層(10YR3/2)
砂、小礫を含む。
2. 暗褐色土層(10YR3/3)
砂、小礫を多く含む。
3. 褐色土層(10YR4/4)
砂、小礫を多量に含む。
4. 黒褐色土層(10YR3/2)
砂、小礫を含む。
5. 暗褐色土層(10YR3/3)
砂、小礫を多く含む。

完掘(南より)



第23図 H85号住居址

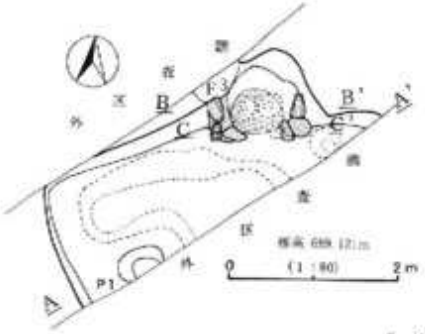


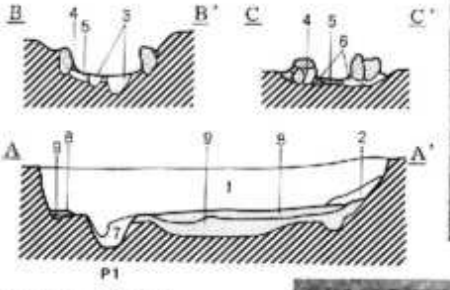


完掘(西より)

H91(W H37)土層説明
1. 黒褐色土層(10YR2/3)
パミス、砂、小石を含む。
2. 黒褐色土層(10YR2/3)
砂を多く含み、パミスを含む。
3. 黒褐色土層(10YR2/2)
パミス、砂を含む。
4. 褐色土層(10YR4/4)
(陶滑)
5. 暗褐色土層(10YR3/3)
砂を含む。
6. 黒褐色土層(10YR2/3)
砂ブロックを多く含む。
一部焼まる。(貼床)

第24図 H91号住居址

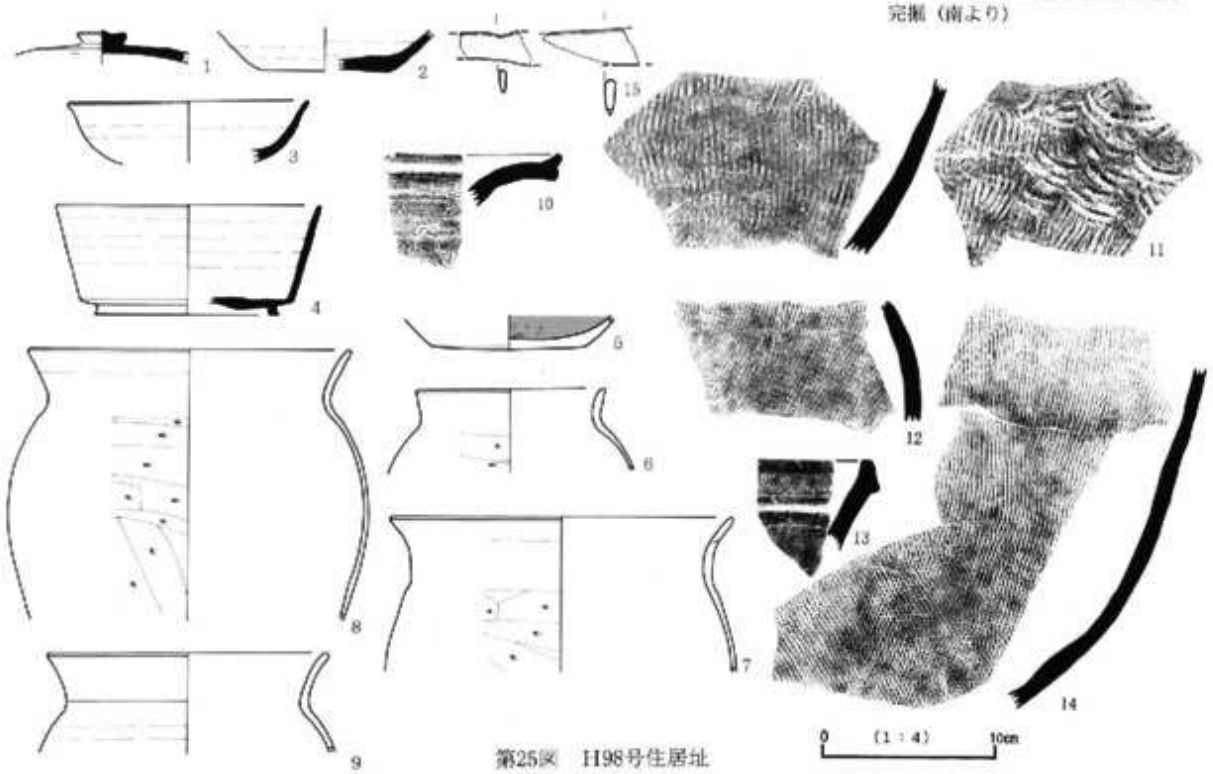




カマド（南より）

完掘（南より）

H98（S H6）土層説明
1．褐色土層（10YR4/6）
砂、少礫を多く含む。
2．黒褐色土層（10YR3/2）
砂、少礫を含む。
3．暗褐色土層（10YR3/4）
焼土粒、粘土ブロックを含む。
4．にぶい黄褐色土層（10YR4/3）
粘土ブロックが混入。（カマド構築土）
5．にぶい黄褐色土層（10YR5/4）
灰、焼土主体。
6．褐色土層（10YR4/4）
砂、少礫を多量に含む。
7．褐色土層（10YR4/4）
砂、少礫を多量に含む。
8．黒褐色土層（10YR3/1）
黒褐色土主体にコーム粒子、砂混在。（貼床）
9．褐色土層（10YR4/4）
砂を多量に含む。（屋方）



第25図　H98号住居址

第18表　INP X　H 91 号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器杯	- 7.4 (1.0)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ・底部回転糸切り	内　7.5Y6/3（にぶい黄） 外　5Y6/1（灰）	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒、3mm大の石含む。	底部2/3 完全実測	3層
2	須恵器杯	14．2 7．2 3．9	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ　底部右回転糸切り	内　2.5Y7/2（灰黄） 外　2.5Y7/2（灰黄）	細石英・細長石粒子、1mm大砂粒、3mm大の石含む。	口縁部かに欠損 完全実測	No.1

番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	g	備考	出土位置
12	口玉	13.0	10.0	10.5	0.65	滑石。	屋方
13	石製紡錘品	28.0	22.0	3.0	3.0	砂質、滑石、裏面から正面に穿孔1つ。	屋方
14	鉄鉄	(94.0)	6.0	4.0	9.1	鉄製品	No.2

第19表　INP X　H 98 号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器蓋	-	内　ロクロナデ 外　天井部右回転ヘラケズリ→つまみ	内　5YR5/2（灰褐） 外　10YR4/1（褐灰）	細石英 0.5mm 大・長石粒子含む。	つまみ定印 完全実測	屋方
2	須恵器杯	(7.0) (2.6)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ→底部ヘラケズリ	内　5Y8/1（灰白） 外　7.5YR7/2（明褐灰）	細石英 0.5mm 大長石粒子含む。 1mm 大砂粒含む。	底部3/10 回転実測 火だすき	

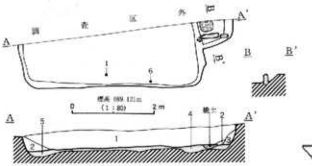
番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
3	須恵器 杯	(14.2) - (3.6)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	内 5Y6/1(灰) 外 10YR4/1(褐灰)	細石英0.5cm大長石粒子含む。 1mm大砂粒含む。	口縁1/6 回転実測	
4	須恵器 有台杯	(15.6) (10.8) (6.5)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り→右回転ヘラケズリ→高台	内 N4/(灰) 外 N4/(灰)	細石英・細長石粒子多く含む。	底部1/2 回転実測 火だすき	床
5	土師器 杯	- (9.0) (2.0)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ→底部ヘラケズリ	内 5YR1.7/1(黒) 外 5YR5/4(にぶい赤褐)	細石英・1mm長石粒子含む。	底部1/3 回転実測	堀方
6	土師器 甕	(11.2) - (4.9)	内 口縁ヨコナデ 体部ナデ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ	内 5YR5/2(灰褐) 外 5YR5/2(灰褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/5 回転実測	床 カマド
7	土師器 甕	(20.2) - (8.2)	内 口縁ヨコナデ ナデ 外 体部ヘラケズリ 口縁ヨコナデ	内 5YR4/2(灰褐) 外 10YR6/6(橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/3 回転実測	カマド
8	土師器 甕	(19.0) - (16.0)	内 口縁ヨコナデ ナデ 外 口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ	内 5YR5/4(にぶい赤褐) 外 5YR6/6(橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/6 回転実測	カマド
9	土師器 甕	(16.0) - (5.9)	内 口縁ヨコナデ ロクロナデ 外 口縁ヨコナデ ロクロナデ	内 5YR5/2(灰褐) 外 5YR6/6(橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/12 回転実測	カマド堀方

番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	重	備考	出土位置
15	刀子	53.0	10.0	3.0	2.8	鉄製品。	

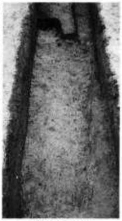
第20表 INP X H100号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器 杯	13.8 6.4 3.9	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部右回転糸切り	内 5Y5/2(灰オリーブ) 外 5Y5/2(灰オリーブ)	細石英・細長石粒子、1～2mm大砂粒含む。	口縁7/8 完全実測 火だすき	No.1
2	須恵器 有台杯	- (8.6) (3.6)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り→高台	内 7.5YR6/4(にぶい橙) 外 7.5YR6/3(にぶい褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部9/10 回転実測 底部ヘラ記号	カマド
3	須恵器 有台杯	(14.2) - (3.6)	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転糸切り→高台	内 10YR6/4(にぶい黄橙) 外 7.5YR6/4(にぶい橙)	細石英・細長石粒子、1mm大赤色粒子含む。	底部1/2 回転実測 底部ヘラ記号	カマド
4	土師器 高杯	(9.5) - (6.7)	内 ヨコナデ→暗文 外 ヨコナデ→暗文	内 5YR4/4(にぶい赤褐) 外 5YR5/4(にぶい赤褐)	細石英・細長石粒子含む。	坏部3/8 回転実測 搬入品	
5	土師器 鉢	(25.4) - (6.1)	内 ミガキ 黒色処理 外 ロクロナデ	内 7.5YR1.7/1(黒) 外 7.5YR6/4(にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁3/8 回転実測	カマド
6	土師器 小型甕	(9.8) - (6.5)	内 ナデ 外 口～肩部ヨコナデ→体部下半ヘラケズリ	内 7.5YR6/4(にぶい橙) 外 7.5YR6/4(にぶい橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁1/4 回転実測	No.2
7	土師器 甕	- (5.4) (3.8)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	内 5YR5/4(にぶい赤褐) 外 7.5YR6/3(にぶい褐)	細石英・細長石粒子含む。	底部1/5 回転実測	カマド

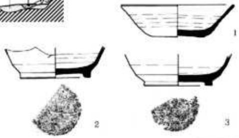
番号	種類	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	重	備考	出土位置
8	打製石斧	61.0	53.0	7.0	28.9	安山岩、刃部欠損、刃部縁辺部両面加工有状、基体加工有状。	

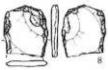


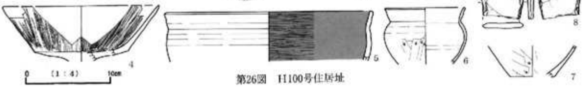
カマド（西より）


堀方（西より）

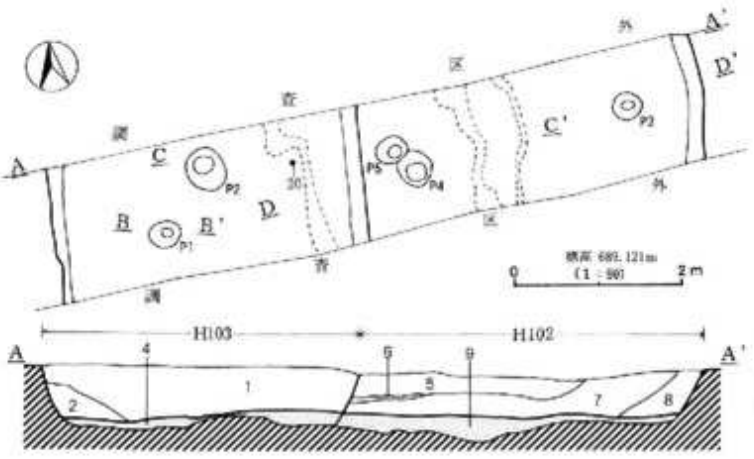
H100(SH8)土層説明
1. 暗褐色土層(10YR3/4) 砂、少礫を多く含む。
2. 暗褐色土層(10YR3/3) 砂、少礫を多く含む。
3. 暗褐色土層(10YR3/3) にぶい黄褐色粘土ブロック(10YR5/3)を含む。
4. 黒褐色土層(10YR3/2) (堀方)
5. 褐色土層(10YR4/4) 砂を多量に含む。

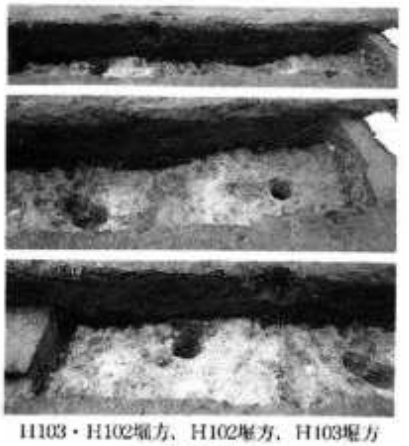




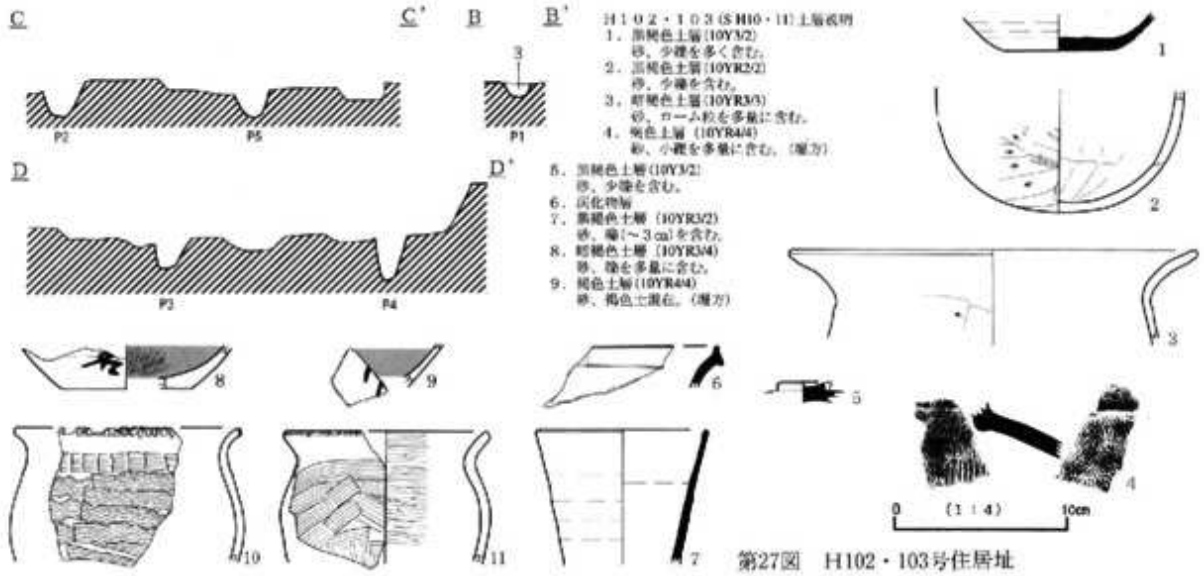


第26図 H100号住居址





H103・H102堀方、H102堀方、H103堀方
(南より)



第27図　H102・103号住居址

第21表　INP X　H 102 号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	色調	胎土	残存・備考	出土位置
1	須恵器杯	・ (6.2) (2.2)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ→底部品回転糸切り	内　2.5YR5/1(黄灰) 外　2.5YR6/2(灰黄)	細石英・0.5mm大長石粒子、1mm大砂粒含む。	底部3/4 回転実測 大だすき外	床
2	土師器壺	・ ・ (7.2)	内　ナデ 外　ヘラケズリ→ミガキ	内　5YR6/6(橙) 外　7.5YR6/6(橙)	雑長石・雑石英粒子含む。	底部定存 完全実測	床
3	土師器壺	(24.1) ・ (5.6)	内　口縁ヨコナデ 外　口縁ヨコナデ　体部ヘラケズリ	内　7.5YR6/8(橙) 外　5YR5/4(にぶい赤褐)	雑長石・雑石英粒子含む。	口縁1/5 回転実測	上層
5	須恵器蓋	・	内　ナデ 外　ナデ・つまみ	内　5Y6/1(灰) 外　5Y5/1(灰)	細長石・細石英粒子含む。	完全実測	検出
6	須恵器壺	・	内　ロクロナデ　自然釉付着 外　ロクロナデ	内　7.5Y2/1(黒) 外　7.5Y2/1(黒)	細石英・細長石含む。	破片実測	検出
7	須恵器蓋	(10.2) ・ (3.0)	内　ロクロナデ 外　ロクロナデ	内　5YR5/1(灰) 外　10YR5/1(褐灰)	細石英・細長石含む。	口縁3/16 回転実測	H 103 検出 上層
8	土師器杯	・ (7.8) (2.5)	内　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ→底部回転糸切り後ヘラケズリ	内　7.5YR1.7/1(黒) 外　7.5YR7/6(橙)	雑石英・雑長石粒子含む。	底部1/3 回転実測 単書 1号	検出
9	土師器杯	・	内　ミガキ　黒色処理 外　ロクロナデ	内　7.5YR1.7/1(黒) 外　10YR7/3(にぶい黄橙)	雑石英・雑長石粒子含む。	破片実測 単書	検出
10	弥生壺	(13.4) ・ (8.0)	内　ナデ→ミガキ 外　口唇部縄文→刻み目 頸部横縄文　体部横縄波状文	内　10YR7/4(にぶい黄橙) 外　10YR5/3(にぶい黄橙)	細石英・細長石粒子含む。	口縁3/16 回転実測	検出
11	弥生壺	(12.2) ・ (7.8)	内　ミガキ 外　口唇部縄文　体部横縄波状文	内　10YR1.7/1(黒) 外　10YR5/2(灰黄褐)	細石英・細長石粒子含む。	口縁5/16 回転実測	検出

芝宮遺跡群

下曽根遺跡Ⅸ
調査報告書

SHIMOSONE

長野県佐久市小田井
下曽根遺跡Ⅸ発掘調査報告書

下曽根遺跡Ⅸ 全景（南から）

佐　　久　　市
佐久市教育委員会

芝宮遺跡群　下曽根遺跡Ⅸ

所 在 地　佐久市小田井131－6　外3筆
調査委託者　佐久市（高速交通課）
開発事業名　特定交通安全施設等整備事業（道路）　市道4－1号線（西屋敷線）
調 査 期 間　平成16年８月13日～８月27日（現場）
調 査 面 積　116㎡
調査担当者　上原　学

例　言・凡　例

1．本書は佐久市高速交通課による特定交通安全施設等整備事業に伴う芝宮遺跡群下曽根遺跡Ⅸの発掘調査報告書である。（遺跡は旧佐久市詳細分布報告書では曽根城跡となっていたが、デジタル化に伴い新たに作成された遺跡分布で曽根城跡は同一台地上に展開する芝宮遺跡群に含まれた。

2．事業主体者　　佐久市大字中込3056
　　佐久市高速交通課

3．調査主体者　　佐久市大字中込3056
　　佐久市教育委員会　教育長

4．遺跡名　　芝宮遺跡群　下曽根遺跡Ⅸ

5．作成・執筆は上原が行った。

6．本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

7．遺構の略称は以下の通りである。
　Ｈ－竪穴住居址　　Ｍ－溝跡　　Ｄ－土坑　　Ｐ－ピット

8．スクリーントーンの表示は以下のとおりである。
　遺　構　　地山断面　　焼土・赤色塗彩　　床下埋土
　遺　物　　須恵器断面　　灰釉　　黒色処理

9．挿図の縮尺は以下のとおりである。
　遺　構　　竪穴住居址－１／80　　溝跡－１／80　　土坑－１／80
　遺　物　　土師器・須恵器・灰釉陶器・羽口・鉄製品－１／４

10．遺物の写真図版番号と実測図番号は一致する。

11．遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。

12．土層・遺物の色調は「新版　標準土色帖」による。

13．調査グリッドは小グリッド４×４m、大グリッド40×40mである。

立地と経過

下曽根遺跡Ⅸは佐久市北部に位置し、浅間の麓から放射状に延びる標高754～763mを測る細長い田切り地形北端に展開する。遺跡の南北東三方は周囲の台地と「田切り」（谷）によって分断され中世館跡が存在していたと考えられている地域で、旧佐久市遺跡詳細分布調査報告書では曽根城跡とされていた。付近の発掘調査からは同時期と考えられる溝跡が確認されている。また、遺跡一帯は古墳時代から中世に至る複合遺跡でもあり、西側の上芝宮遺跡、下曽根遺跡、北の曽根城遺跡、前田遺跡、鋳師屋遺跡、南の前藤部遺跡など数多くの調査が行われ、多数の遺構・遺物が発見されている。

今回、佐久市による特定交通安全施設等整備事業が計画され、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。その結果、古代の住居址が発見されたため、佐久市高速交通課から依頼を受けた佐久市教育委員会が主体となり、遺跡の記録保存を目的として発掘調査を実施した。

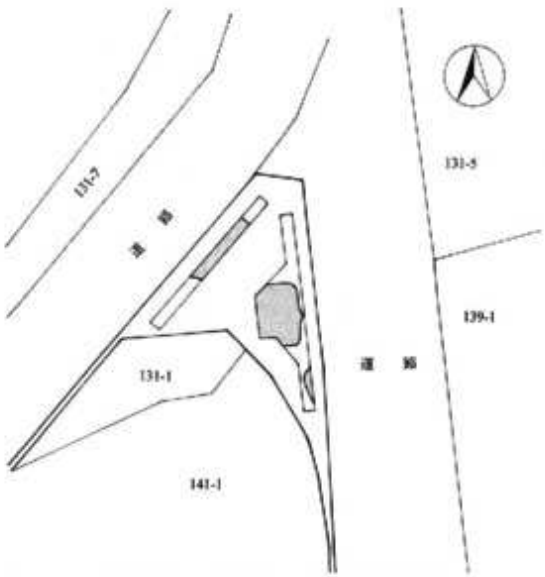
調査区位置図（1:100,000）

調査の概要

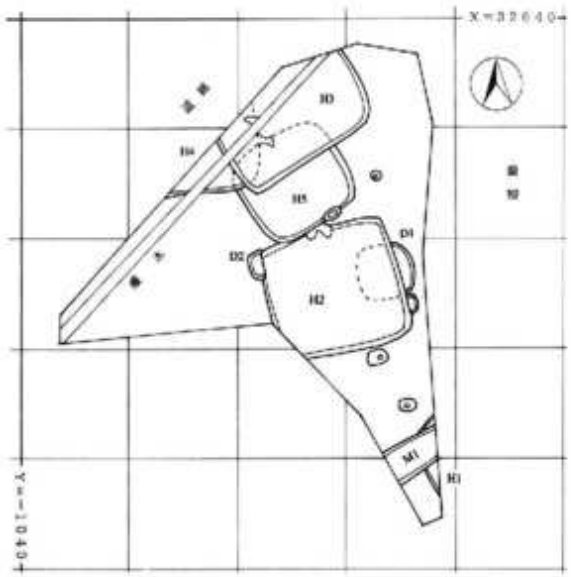
調査区は佐久市北部の三方を田切りに分断された台地上に位置する。今回道路改良工事に伴い、事前に行った試掘調査の結果を基に遺構の記録保存を目的として発掘調査を実施した。調査は116㎡という限られた範囲であったが古墳～平安時代の住居址・土坑・溝跡・ピットが確認できた。住居址・土坑の一部については出土遺物の特徴、切り合い関係からおおよその時期の位置づけが可能であったが、溝跡・ピットは遺物の出土が認められないことから時期の確定はできなかった。遺物は土器（土師器・須恵器・灰釉陶器）、鉄製品（刀子・鎌）、羽口が出土した。H１号住居址出土遺物中には使い込まれた羽口が含まれることから集落内に小鍛治（鉄製品製作）が存在していた可能性を伺い知ることができた。

調査遺構　竪穴住居址　５軒（古墳時代１軒　奈良時代１軒　平安時代２軒　不明１軒）
土　　坑　２基
溝　　跡　１条
ピ　ッ　ト

出土遺物　出土量　テンバコ４箱（58×36×20）
土師器（坏・碗・高坏・甕）
須恵器（坏・甕）
灰釉陶器（皿・碗・壺）
鉄製品（刀子・鎌）
羽口



下曽根遺跡Ⅸ試掘トレンチ配置図（1:500）

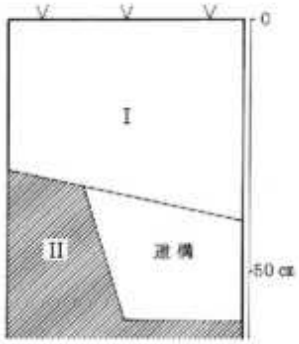


下曽根遺跡Ⅸ遺構配置図（1:250）

基本層序

芝宮遺跡群下曽根遺跡Ⅸは佐久市北部の田切り地形の台地上に所在する。遺跡一帯の層序は、基本的には浅間山の噴火に伴い、厚く幾層にも堆積した軽石流（ローム）上に現在の表土が覆いかぶさった形となる。

基本層序は上層から耕作土、黄褐色ロームとなり、遺構確認は表土直下の黄褐色ローム上面で行った。



Ⅰ層　表土

Ⅱ層　ローム層

基本層序模式図

遺構と遺物

竪穴住居址（H）

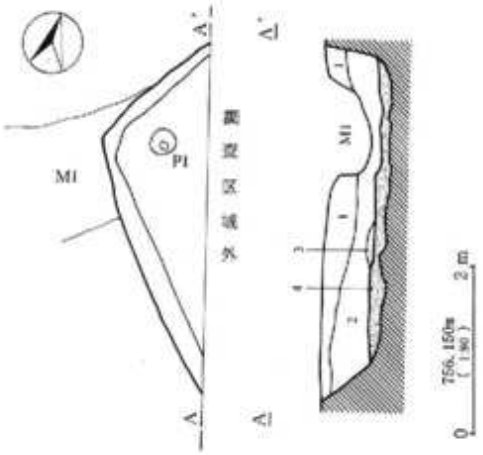
H１号住居址

遺構は調査区南に位置し、M１号溝跡に切られる。東側は調査区域外となるが現在道路によって台地が掘削されていることからすでに破壊されていると考えられる。確認できた規模は北壁1.6m、西壁3.2m、床面までの深さは56cmを測る。平面形態は確認状況から方形または長方形と思われる。床面はやや堅くピットは１個認められたが主柱穴かは断定できない。カマドは確認できなかった。掘方は10～16cmの厚みで褐色土が埋め込まれ、上面硬質である。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器甕、鉄製品が出土した。図示したのは５点であるがいずれも破片である。１・２は土師器坏で１は底部丸底、２は底部回転糸切り後無調整で内面黒色処理を施し両者には時期差が認められる。甕は口縁「く」の字状の小型甕片、須恵器甕は胴部破片で外面平行叩き、内面当て具痕を施す。鉄製品は鏃と思われ基部及び先端部は欠損し、断面は方形である。長さ11.2cm、径0.62～0.84cm、重量12.5gを測る。

遺物には古墳時代及び平安時代の特徴を有する二時期の遺物が混在する。古墳時代の遺物が流れ込みと考えると平安時代の住居址となるが断定はできない。

１層．暗褐色土（10YR3/4）　ローム、軽石多い。黒色土含む。
２層．暗褐色土（10YR3/3）　ローム、軽石多く含む。
３層．黒褐色土（10YR2/3）　粒子細かい。
４層．褐色土　（10YR4/4）　ローム、軽石含む。上面硬質。（掘方）



H1号住居址実測図

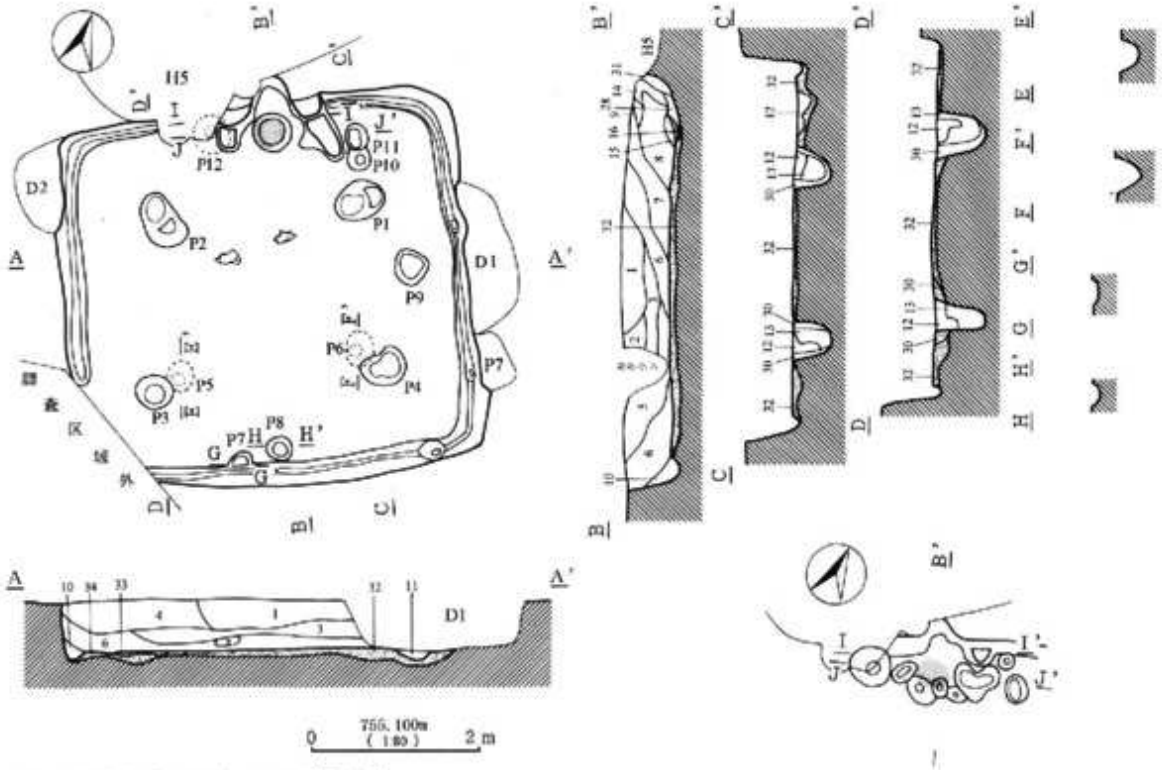
H1号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	手法・文様	残存率・部位	特徴	色調（外面）
1	土師器	坏	－	－	－	口縁部ナデ　外面ヘラケズリ	口縁破片	良	5YR6/6 橙色
2	土師器	坏	－	－	－	内面黒色処理　底部回転糸切り	底部破片	良	5YR6/6 橙色
3	土師器	甕	－	－	－	内外面横ナデ	口縁部片	良	5YR5/4 鈍い赤褐色
4	鉄製品	鏃	－	－	－	外面平行叩き　内面同心円当て具痕	胴部破片	良好	10YR6/1 灰褐色

H１号住居址遺物観察表

H２号住居址

遺構は調査区の中央に位置し、北壁及びカマドの一部をH５に、東壁中央をD１に、西壁北側をD２号土坑に切られる。南西コーナーは調査区域外となる。確認規模は南北4.4m、東西4.8m、床面までの深さは65cmを測る。平面形態は方形である。床面は堅く壁際に幅15cm内外の周溝が巡る。ピットは床面上で主柱穴４本と小ピットが確認できた。主柱穴はそれぞれ寄り添って２つのピットが認められ、片側の上面は張り床が存在することから住居の建て替えを行った可能性が考えられる。カマドは北壁中央にあり、粘土で構築された袖が残存していた。火床には円形に焼土の堆積及び地面への焼け込みが確認できた。掘方は５～10cm程度の厚みで黒褐色土が埋め込まれ硬質である。

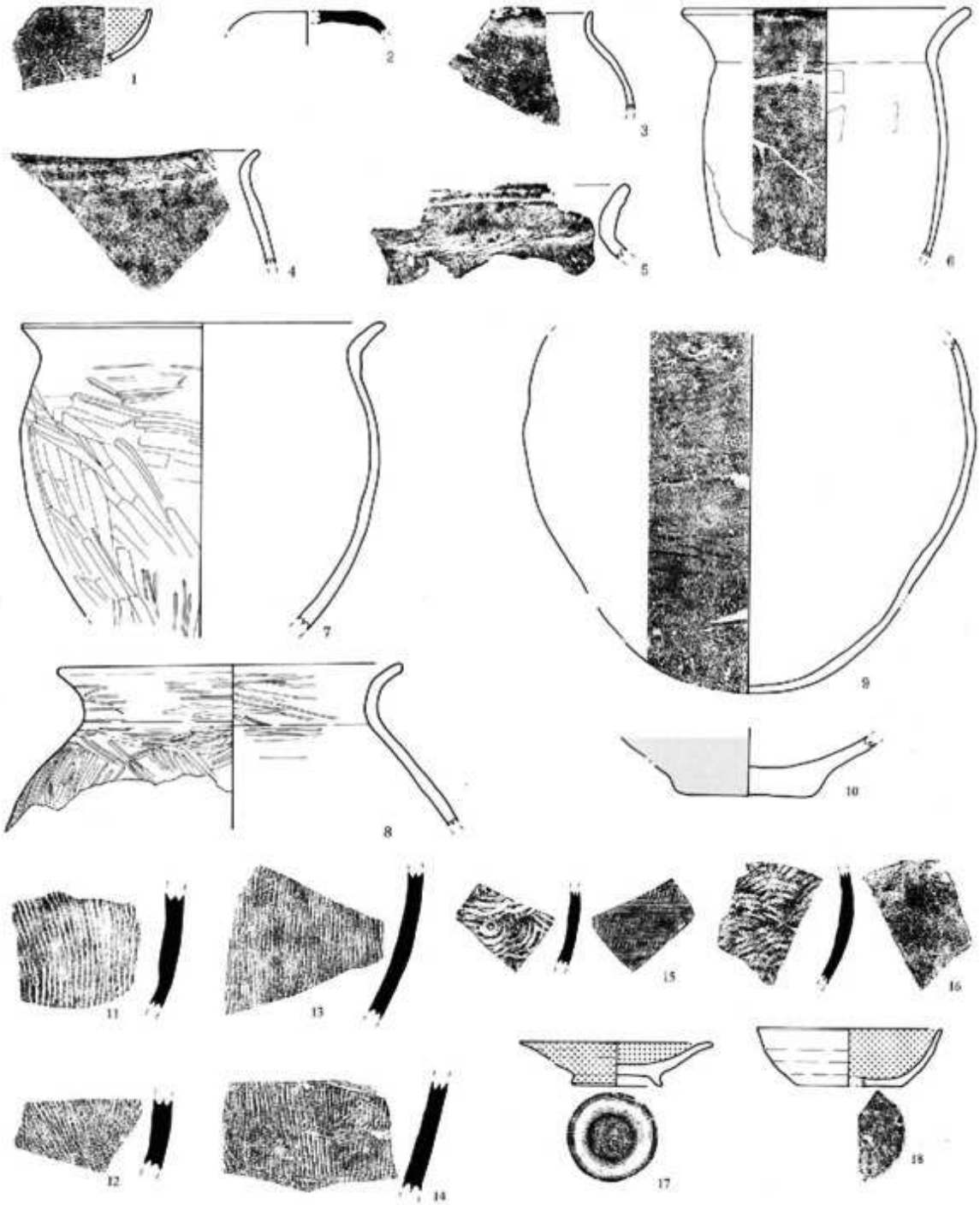


1 層．黒褐色土（10YR2/3） ローム、軽石少量。
2 層．暗褐色土（10YR3/3） ローム多く含む。
3 層．暗褐色土（10YR3/3） ローム多く、黒色土ブロック含む。
4 層．暗褐色土（10YR3/3） ローム粒、ブロック多く含む。
5 層．鈍い黄褐色土（10YR4/3） ローム多く、10cm 大ブロック含む。
6 層．暗褐色土（10YR3/4） 粒子粗く、ローム多く含む。
7 層．暗褐色土（10YR3/3） 粒子粗く、ローム粒、黒色ブロック含む。
8 層．鈍い黄褐色土（10YR4/3） 粒子粗かく、しまりなし。
9 層．黄褐色土（10YR5/6） 焼土層。カマド天井部。
10 層．黒褐色土（10YR2/3） ローム含む。しまりなし。
11 層．黒褐色土（10YR2/3） ローム粒、軽石含む。
12 層．黒褐色土（10YR2/3） しまりなし。
13 層．褐色土 （10YR4/4） ローム多く、しまりなし。
14 層．暗褐色土（10YR4/4） 粘土、焼土、炭化物含む。
15 層．灰赤色土（10YR4/2） 粘土層。熱を受けている。
16 層．明赤褐色土（2.5YR5/6） 焼土層。
17 層．灰黄褐色土（10YR6/2） 白色粘土。一部火を受けて赤い。
18 層．黒褐色土（10YR2/3） ローム粒。しまりなし。
19 層．明褐色土（10YR3/4） ローム多く、粘土、焼土少量含む。
20 層．暗褐色土（10YR3/3） 粘土、焼土、炭化物含む。
21 層．褐色土 （10YR4/6） ローム主体。
22 層．灰黄褐色土（10YR6/2） 白色粘土。しまりなし。
23 層．鈍い黄褐色土（10YR5/3） 新土塊。
24 層．褐色土 （5YR4/4） 粘土粒含む。
25 層．褐色土 （7.5YR4/4） 粘土含む。
26 層．褐色土 （10YR4/4） 焼土粒含む。
27 層．暗褐色土（10YR3/3） ローム、粘土含む。しまりなし。
28 層．暗赤褐色土（5YR3/4） 熱を受け赤みを帯びる。
29 層．暗赤褐色土（2.5YR5/8） 地山の焼け込み。
30 層．鈍い黄褐色土（10YR6/4） ローム主体。しまりあり。
31 層．暗褐色土（10YR3/3） ローム、粘土、焼土含む。
32 層．褐色土 （10YR4/6） ローム主体。上面硬質。
33 層．暗褐色土（10YR3/3） ローム含む。上面硬質。
34 層．黒褐色土（10YR2/3） ロームブロック多く含む。

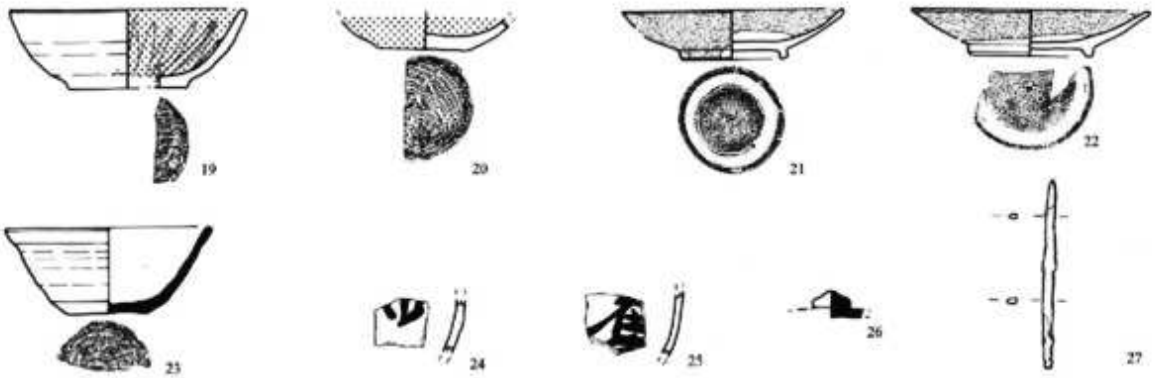
H2号住居址実測図

遺物は土師器坏・皿・甕、須恵器坏・蓋・甕、灰釉陶器、鉄製品、石器が出土した。図示したのは27点である。1～14は床直上及び覆土の下層から出土した遺物で1は底部丸底の土師器坏、2は須恵器蓋坏の蓋と思われる。3は土師器の壺、6～10は土師器甕で長胴・球胴が認められる。10の外面は赤色塗彩が施される。17～26は検出及び覆土上層から出土した遺物である。17は内外面黒色処理を施した土師器碗の皿、18～20は内面黒色処理の坏で、19は放射状暗文を施す。21・22は灰釉陶器の皿で大原2号窯式と思われる。21の内面ミコミ部は擦られて滑らかであることから転用硯として使用された可能性もある。23は須恵器の坏である。鉄製品は刀子で長さ11.1cm、最大厚0.38cm、最大幅0.89cm、重量39gを測る。この他、すり石・凹石が認められた。これらの土器は覆土下層及びカマド・床面上から出

上した古墳時代後期と検出面及び覆土上層から出土した平安時代９世紀後半以降の土器群に大別できる。本住居址は奈良時代のＨ５号住居址に切られることから床面付近から出土した古墳時代後期の遺物を伴う住居址と考えられ、平安時代の土器群は、調査中に切り合い関係の判明したＤ１号土坑又は他の遺構に伴う遺物としたい。



H2号住居址遺物実測図（1）



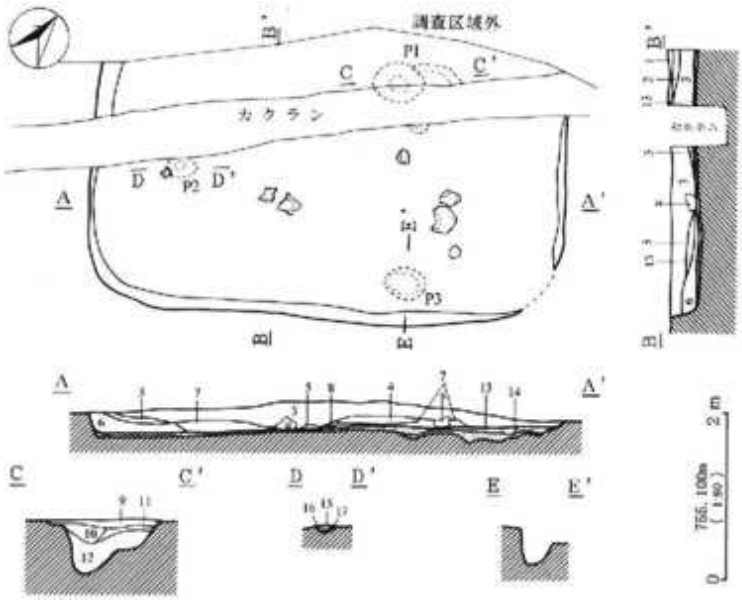
H2号住居址遺物実測図 (2)

番号	図種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調(外面)
1	土師器	坏	−	−	−	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面黒色処理	口縁破片	良	7.5YR6/4 鈍い橙色
2	須恵器	蓋	−	−	−	天井部ヘラ調整	天井部破片	良	2.5YR5/4 黄灰色
3	土師器	甕	−	−	−	口縁外面ナデ後横ミガキ 外面ヘラケズリ後ナデ 内面ミガキ	口縁破片	良	5YR6/6 橙色
4	土師器	甕	−	−	−	口縁内外面ミガキ 外面ヘラケズリ後ミガキ 内面ハケ目状ナデ	口縁破片	良	7.5YR8/3 浅黄橙色
5	土師器	甕	−	−	−	口縁内外面横ナデ 外面口縁工具による攻撃 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁破片	良	7.5YR8/3 浅黄橙色
6	土師器	甕	19.6	−	−	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁～胴部破片	良	5YR6/4 鈍い橙色
7	土師器	甕	25.1	−	−	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ後ミガキ 内面ヘラナデ後ミガキ	80	良	5YR7/4 鈍い橙色
8	土師器	甕	23.4	−	−	口縁内外面横ナデ後横ミガキ 外面ヘラケズリ後ミガキ 内面ヘラナデ	30	良	2.5YR6/6 橙色
9	土師器	甕	−	丸底	−	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	30	良	5YR6/6 橙色
10	土師器	甕	−	9.8	−	外面赤色塗彩 内面ヘラナデ	底部	良	10R4/8 赤色
11	須恵器	甕	−	−	−	外面平行叩き痕	胴部破片	良好	N4/0 灰色
12	須恵器	甕	−	−	−	外面平行叩き痕 内面当て具痕	胴部破片	良好	N4/0 灰色
13	須恵器	甕	−	−	−	外面平行叩き 14と同一個体の可能性あり	胴部破片	良好	10R5/1 灰色
14	須恵器	甕	−	−	−	外面平行叩き 13と同一個体の可能性あり	胴部破片	良好	10R5/1 灰色
15	須恵器	甕	−	−	−	外面叩き後横ハケ目状痕 内面同心円当て具痕	胴部破片	良好	5GY4/1 オリーブ灰色
16	須恵器	甕	−	−	−	外面自然軸付着 内面同心円当て具痕	胴部破片	良好	N5/0 灰色
17	土師器	鉢	[13.2]	6.3	3	内外面黒色処理後ミガキ 底部回転糸切り後高台貼り付け	60	良	7.5YR1.7/1 黒色
18	土師器	坏	[12.8]	7.1	4	内面黒色処理 外面ロクロナデ 墨書あり 底部回転糸切り	30	良	2.5YR7/6 橙色
19	土師器	坏	[14.0]	7.2	4.6	内面黒色処理 脚軸状暗文 外面ロクロナデ 底部回転糸切り	30	良	5YR6/8 橙色
20	土師器	坏	−	5.6	−	内外面黒色 外面ロクロナデ 底部回転糸切り	底部破片	良	2.5Y3/1 暗赤灰色
21	灰釉陶器	皿	[13.1]	6.4	2.9	ロクロナデ 漬け掛け 底部回転ヘラケズリ後高台貼り付け 大原2号窯式 内面ミコミ部滑らかな用擦かす	50	良好	7.5Y7/1 灰白色
22	灰釉陶器	皿	[14.0]	7.5	2.8	ロクロナデ 漬け掛け 底部回転ヘラケズリ後高台貼り付け 大原2号窯式	30	良好	7.5Y7/2 灰白色
23	須恵器	坏	[12.7]	6.2	5	ロクロナデ 底部回転糸切り	30	良好	10YR5/4 鈍い黄褐色
24	土師器	坏	−	−	−	墨書土器 文字不明	体部破片	良	5YR6/4 鈍い橙色
25	土師器	坏	−	−	−	墨書土器 文字不明	体部破片	良	7.5YR6/4 鈍い橙色
26	須恵器	蓋	−	−	−	つまみ貼り付け	つまみ	良好	10GY4/1 暗緑灰色

H２号住居址遺物観察表

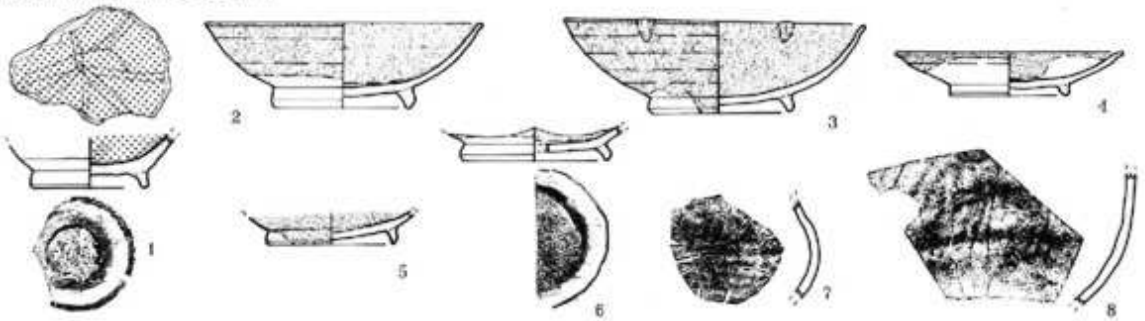
Ｈ３号住居址

遺構は調査区北に位置し、Ｈ４・５号住居址を切り、一部灌水に破壊されている。北側は調査区域外となる。調査規模は南壁5.4m、南北3.4m、床面までの深さは20cm を測る。平面形態は調査状況からやや隅丸の方形又は長方形と考えられる。床面は堅く、壁際の周溝は確認できなかったが、土層断面から僅かに落ち込みが認められた。床面上で主柱穴と思われるピット及びカマドは認められなかった。掘方において大小３個のピットが確認できたが主柱穴であるかは不明である。住居址内からは複数の使い込まれた羽口が出土し、底面還元状態の硬質面を持ち、灰が堆積した炉址と思われる窪みが認められた。さらに床直上には表面平坦な鉄鍛造に利用された鉄床らしき石が存在することから、住居址内で小鍛冶が行われたものと推察できた。また、攪乱断面で確認した大きめのピットは鉄床と思われる石に比較的近いことから、水を張った施設である可能性も考えられる。遺物は土師器の碗・轆轤痕、灰釉陶器の皿・碗、羽口が出土した。図示したのは12点である。１は土師器碗で内面黒色処理及び放射状の暗文を施す。２～９は灰釉陶器で２・３は碗、４～６は皿である。５のみ光ヶ丘１号窯式の可能性がある他は、大原２号窯式と思われる。７は小壺、８・９は甕破片である。11・12は使い込まれた羽口の破損品である。12の羽口は先端・基部伴に高熱により還元状態となり、基部にはアスファルト状の付着物が認められることから、熱に耐えうるものを結合し、使用していたと考えられる。この他、すり石が認められた。本住居址は土師器碗、灰釉陶器の形状から平安時代、10世紀前半としたい。



1 層．暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒、軽石。
2 層．黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒、軽石、炭化物、焼土粒。
3 層．暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒、軽石、炭化物。
4 層．暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒、軽石やや多い。炭化物含む。
5 層．黒褐色土（10YR2/3）　粒子細かい。炭含む。
6 層．暗褐色土（10YR3/4）　ローム、軽石多く、炭化物含む。
7 層．暗褐色土（10YR3/4）　ローム、軽石、焼土含む。
8 層．褐色土　（7.5YR4/4）　灰層。焼土、炭化物含む。
9 層．暗褐色土（10YR3/3）　粘土、ロームブロック含む。上面硬質。（はり床）
10 層．黒褐色土（10YR2/3）　ローム多く、軽石含む。
11 層．褐色土　（10YR4/6）　ローム土体。
12 層．黒褐色土（10YR2/3）　ローム、軽石含む。
13 層．暗褐色土（10YR3/3）　暗褐色土、ローム軽石の混合。
14 層．鈍い黄褐色土（10YR4/3）ローム土体。軽石、暗褐色土含む。
15 層．暗灰黄色土（2.5YR5/2）灰層。
16 層．鈍い赤褐色土（5YR5/4）灰層。
17 層．赤褐色土（2.5YR4/6）　地山の掘り込み。

H3号住居址実測図



H3号住居址遺物実測図（1）

H3号住居址遺物実測図 (2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調(外面)
1	土師器	坏	−	7	−	内面黒色処理放射状暗文 回転糸切り後高台貼り付け	底部～体部破片	良	10YR5/4 鈍い黄褐色
2	灰釉陶器	鞴	16.2	8	5	ロクロナデ 漬け掛け 施釉良い 底部回転糸切り後高台貼り付け 大原2号窯式	50	良好	2.5Y7/1 灰白色
3	灰釉陶器	鞴	17.7	8.7	5.4	ロクロナデ 漬け掛け 内面全面施釉 底部回転ヘラケズリ後高台貼り付け 鳴花鉄 大原2号窯式	45	良好	10Y8/1 灰白色
4	灰釉陶器	皿	[13.6]	7.1	2.7	ロクロナデ 灰釉付着 底部回転ヘラケズリ後高台貼り付け 内面ミコミ部濃らか転用硬かす 大原2号窯式 高台痕跡	40	良好	10YR6/1 褐灰色
5	灰釉陶器	皿	−	7.7	−	ロクロナデ 施釉 底部回転ヘラケズリ後高台貼り付け 光ヶ丘1号窯式か	底部～体部破片	良好	10YR7/1 灰白色
6	灰釉陶器	皿	−	[8.4]	−	ロクロナデ 漬け掛け 底部回転ヘラケズリ後高台貼り付け 大原2号窯式	底部～体部破片	良好	2.5Y7/2 灰黄褐色
7	灰釉陶器	小瓶	−	−	−	ロクロナデ 外面灰釉	胴部破片	良好	2.5YR7/2 灰黄色
8	灰釉陶器	甕	−	−	−	ロクロナデ 外面灰釉	胴部破片	良好	2.5GY8/1 灰白色
9	灰釉陶器	甕	−	−	−	ロクロナデ 外面灰釉	胴部破片	良好	5Y6/3 オリーブ黄色
10	須恵器？	甕	−	−	−	ロクロナデ 外面灰釉	胴部破片	良好	10YR5/1 褐灰色
11	羽口		最大径8.4	器高9	内径3.1	先端・基部還元 基部アスファルト状付着物			2.5YR5/1 赤灰色
12	羽口		最大径7.1	残存高6.1	内径2	溝端破損			7.5YR7/2 明褐灰色

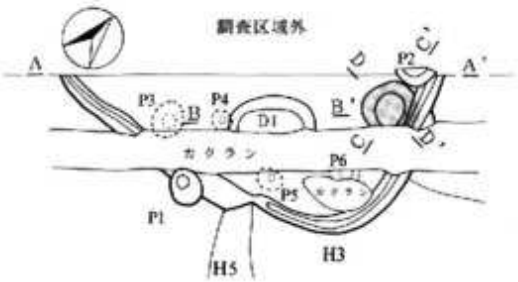
H３号住居址遺物観察表

Ｈ４号住居址

遺構は調査区北に位置し、Ｈ３号住居址に切られ、Ｈ５号住居址を切る。北側は調査区域外となり、一部は灌水に破壊されている。調査規模は南壁4.0m、東壁2.2m、検出面から床面までの深さは45cm を測る。平面形態は調査状況から方形又は長方形と考えられる。床面は平坦で堅く、壁際に幅15cm、深さ10cm 内外の周溝が巡らされている。床面上からは南側を灌水に破壊された窪み状の土坑１基、南壁際のピット１個を確認したが、性格は不明である。カマドは東壁に構築されているがＨ３号住居址に破壊され火床のみ残存していた。火床からは円形に堆積した焼土及び地山への焼け込みが認められた。掘方は中央付近で５～10cm の厚みを測り、黄褐色土が埋め込まれていた。南壁付近において新たに小ピット５個を発見した。性格は不明である。

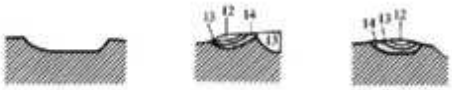
遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕・壺、鉄製品が出土した。図示したのは13点である。１～３は土師器坏で内面黒色処理を施し、１・３は放射状の暗文が認められる。４・５は口縁［コ］の字状の土師器甕（武蔵甕）である。６・７は小型の土師器轆轤甕、８～12は須恵器甕で８～10は外面平行叩き、11は櫛描波状文を施す。12は壺の底部と思われる。13はやや大型の刀子で長さ23.3cm、最大幅1.66cm、最大厚0.64cm、重量39ｇを測り、基部が僅かに欠損する。

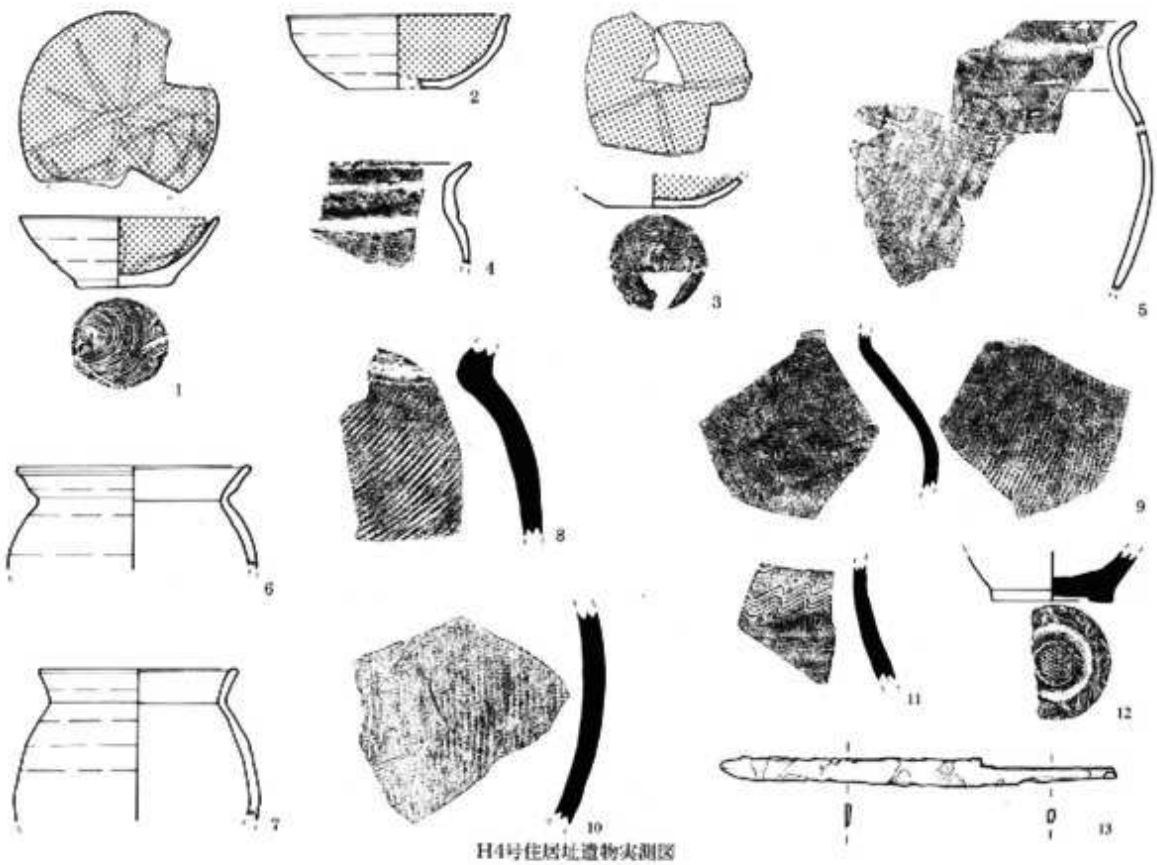
本住居址は土師器坏の形状、武蔵甕の存在から９世紀前半、平安時代としたい。



1層．褐色土　(10YR4/4)　軽石、ローム多い。炭化物含む。
2層．褐色土　(10YR4/4)　軽石、ローム少量。炭化物含む。
3層．鈍い黄褐色土（10YR4/3）ローム少量。炭化物含む。
4層．暗褐色土（10YR3/3）　軽石、ローム少量。炭化物含む。黒色土含む。
5層．褐色土　(10YR4/4)　軽石、ローム少量１＜５。炭化物含む。
6層．暗褐色土（10YR3/3）　軽石、ロームやや多く含む。
7層．褐色土　(10YR4/6)　しまり強固。（はり床）
8層．鈍い黄褐色土（10YR5/4）暗褐色土含む。しまりなし。固構。
9層．暗褐色土（10YR3/3）　ロームブロック、しまりなし。
10層．鈍い黄褐色土（10YR5/4）ローム主体。しまりなし。
11層．鈍い黄褐色土（10YR5/4）黄褐色土、黒色土、軽石含む。
12層．赤灰色土（2.5YR5/1）　灰層。（火床）
13層．赤褐色土（2.5YR4/8）　焼土層。（火床）
14層．黒褐色土（10YR2/3）　焼土、灰含む。
15層．鈍い赤褐色土（5YR4/3）焼土、炭化物含む。

H4号住居址実測図





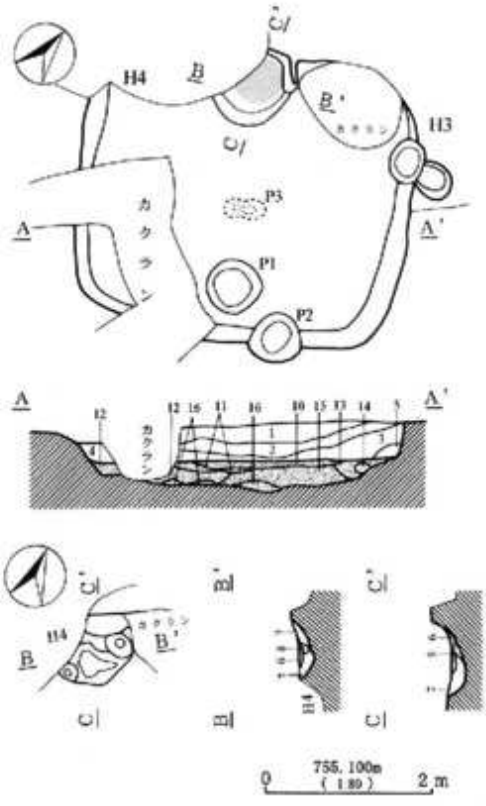
H4号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調（外面）
1	土師器	杯	11.2	5.6	4.3	内面黒色処理　放射状暗文　底部回転糸切り	75	良	7.5YR6/4 鈍い橙色
2	土師器	杯	[13.1]	[5.2]	4.4	内面黒色処理　底部回転糸切り	30	良	7.5YR7/6 橙色
3	土師器	杯	－	5.8	－	内面黒色処理　十字暗文　底部回転糸切り	40	良	5YR6/8 橙色
4	土師器	甕	－	－	－	口縁「コ」の字　横ナデ　外面ヘラケズリ	口縁破片	良	7.5YR6/4 鈍い橙色
5	土師器	甕	－	－	－	口縁「コ」の字　横ナデ　外面ヘラケズリ　内面ヘラナデ	口縁～頸部破片	良	5YR5/6 橙色
6	土師器	鉢or甕	[13.6]	－	－	内外面ロクロナデ	口縁～頸部破片	良	10YR7/4 鈍い黄橙色
7	土師器	鉢or甕	[11.8]	－	－	内外面ロクロナデ	口縁～頸部破片	良	10YR7/4 鈍い黄橙色
8	須恵器	甕	－	－	－	外面平行叩き	頸部破片	良好	10YR5/1 褐灰色
9	須恵器	甕	－	－	－	外面平行叩き　内面当て具痕	頸部破片	良好	10YR5/1 褐灰色
10	須恵器	甕	－	－	－	外面平行叩き	頸部破片	良好	5Y5/1 灰色
11	須恵器	甕	－	－	－	外面櫛描波状文	頸部破片	良好	7.5Y4/1 灰色
12	須恵器	壺	－	7	－	高台貼り付け	底部破片	良	10Y5/2 灰黄褐色

H４号住居址遺物観察表

Ｈ５号住居址

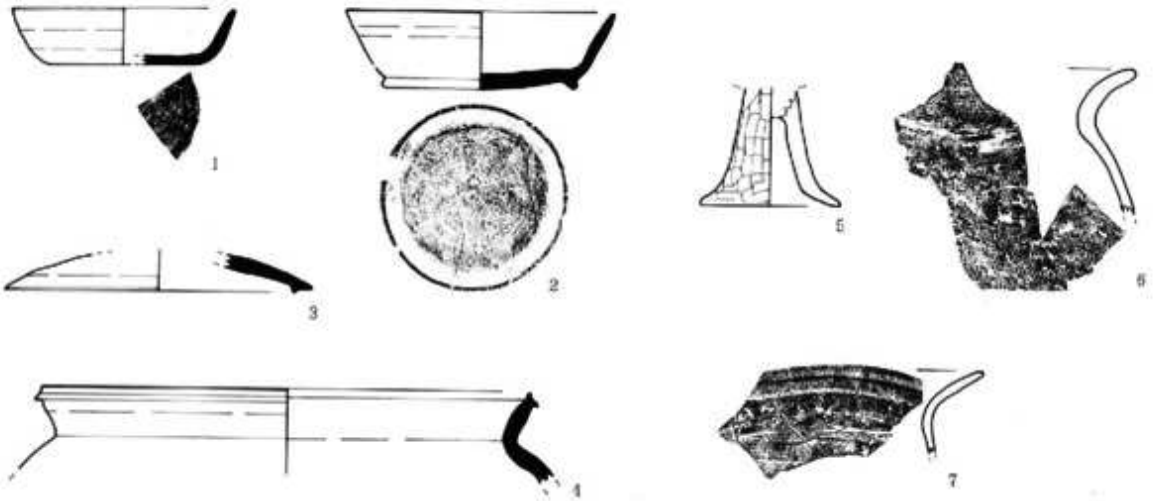
遺構はＨ３・４号住居址に切られ、Ｈ２号住居址を切り、床面、壁は攪乱による破壊が著しい。北側３分の１はＨ３に切られているが、遺構の深さがあることから形状を伺い知ることができた。規模は南北3.4m、東西3.8m、床面までの深さは50cmを測り、平面形態はやや隅丸の方形である。床面は堅くピットは壁際を含め４個確認できたが主柱穴であるかは断定できない。カマドは北壁中央に構築されＨ４号住居址に西側３分の１を破壊され、確認できたのは火床及び東側袖の一部である。袖は粘土で構築され、火床は円形で焼土の堆積及び地山への焼け込みが確認できた。掘方は30cm 内外と厚く暗褐色土、褐色土など様々な土が埋め込まれていた。



1層．暗褐色土（10YR3/3）　ローム、軽石含む。
2層．暗褐色土（10YR3/4）　ロームと暗褐色土の混合。
3層．暗褐色土（10YR3/3）　ローム、軽石含む。
4層．黒褐色土（10YR2/3）　ローム、軽石含む。
5層．鈍い黄褐色土（10YR4/3）ローム多い。粒子細かい。
6層．赤褐色土（2.5YR4/6）　焼土層。（火床）
7層．暗褐色土（10YR3/4）　暗褐色土とロームの混合。
8層．黒褐色土（10YR2/3）　しまりなし。
9層．褐色土　（10YR4/6）　ローム主体。しまりなし。
10層．暗褐色土（10YR3/3）　ローム、黒色土、暗褐色土の混合。上面硬質。
11層．鈍い黄褐色土（10YR5/4）ローム主体。しまりなし。
12層．暗褐色土（10YR3/3）　ローム、黒色土、暗褐色土の混合。
13層．暗褐色土（10YR3/3）　ロームブロック。
14層．黒褐色土（10YR2/3）　黒色土ブロック。
15層．褐色土　（10YR4/4）　ローム多い。黒色土、暗褐色土含む。
16層．褐色土　（10YR4/6）　ローム主体。しまりなし。

H5号住居址実測図

遺物は土師器の坏・高坏・甕，須恵器の坏・甕・蓋が出土した。図示したのは７点である。１は底部回転ヘラケズリの須恵器坏，２は回転ヘラケズリ後高台貼り付けの高台付坏，３は返りを伴う須恵器蓋の破片。４は広口の須恵器甕である。５は土師器高坏の脚部，６は球胴気味，７は器厚が薄く口縁緩やかな「く」の字状を示す土師器甕である。この他，すり石が認められた。本住居址は，土師器甕の口縁形状，須恵器坏の底部調整，須恵器蓋の返りの存在から奈良時代８世紀第１四半期としたい。



H5号住居址遺物実測図

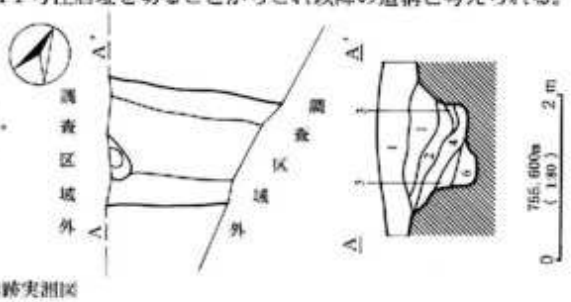
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・備考	焼成	色調（外面）
1	須恵器	坏	[12.2]	[8.8]	3.4	内外面ロクロナデ　底部回転ヘラケズリ	口縁～底部破片	良好	2.5Y8/1 灰白色
2	須恵器	高台付坏	[15.8]	11.5	4.0	内外面ロクロナデ　底部回転ヘラケズリ後高台貼り付け	1/2	良好	5.5Y8/1 灰白色
3	須恵器	蓋	[18.2]	－	－	ロクロ成ナデ　返りあり　天井部ヘラケズリ	破片	良好	5Y6/1 灰色
4	須恵器	甕	29.2	－	－	ロクロ成ナデ	口縁破片	良好	5YR4/2 灰褐色
5	土師器	高坏	－	[8.6]	－	外面ヘラケズリ　脚部横ナデ　内面ヘラナデ	脚部破片	良	7.5YR7/4 鈍い橙色
6	土師器	甕	－	－	－	口縁横ナデ　外面ヘラケズリ後ナデ　内面ヘラナデ	口縁～胴部破片	良	7.5YR6/6 橙色
7	土師器	甕	－	－	－	口縁横ナデ	口縁破片	良	7.5YR7/4 鈍い橙色

H５号住居址遺物観察表

溝　跡（M）

Ｍ１号溝跡

遺構は調査区南端に位置し，Ｈ１号住居址を切り，東及び西側は調査区域外となる。規模は長さ２m，幅1.5m，深さ90cmを測る。時期は平安時代の住居址と推測されるＨ１号住居址を切ることからこれ以降の遺構と考えられる。付近は中世の城跡とされる地域であることから城跡に関する遺構の可能性もある。



１層．褐色土　（10YR4/6）　ｻｰﾄﾑ多い。やや砂質。やや粒子粗い。
２層．褐色土　（10YR4/4）　ｻｰﾄﾑ多い。やや砂質。粒子細かい。
３層．褐色土　（10YR4/6）　砂質。
４層．褐色土　（10YR4/6）　ｻｰﾄﾑ、砂混合土。
５層．褐色土　（10YR4/6）　黄褐色ｻｰﾄﾑ多い。
６層．褐色土　（10YR4/6）　ｻｰﾄﾑ、砂混合土。４層に類似。

M1号溝跡実測図

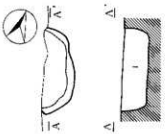
土　坑（D）

Ｄ１号土坑

遺構はＨ２号住居址を切るが、当初切り合い関係が不明であったため西側３分の２は、Ｈ２号住居址断面での確認となった。

規模は推定で南北1.8m、東西1.7m、深さ45cm 内外と思われ、平面形態は不整方形と考えられる。覆土内には焼土炭化物が多く含まれていた。

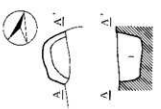
遺物はＨ２号住居址確認面上で出土した土師器坏・皿、灰釉陶器を伴う可能性が考えられる。



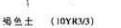
Ｄ２号土坑

遺構はＨ２号住居址と切り合い関係にあるが新旧は不明である。調査規模は南北1.2m、東西70cm、深さ50cmを測り、平面形態は残存状況から方形又は長方形と考えられる。

遺物は土師器片及び底面から骨片が出土した。土壙墓と思われる。時期は不明である。



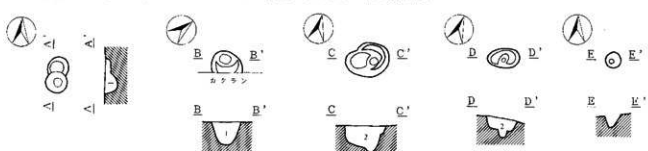
1 層．暗褐色土　（10YR3/3）
焼土、灰含む。しまりなし。



D1・2号土坑実測図

ピット（P）

調査区内からは７個のピットが確認できた。掘立柱建物址の一部である可能性も考えられるが、調査範囲が限られ、周囲に展開するピットが認められないことから単独ピットとして取り扱った。



ピット実測図

調査区全景（西から）

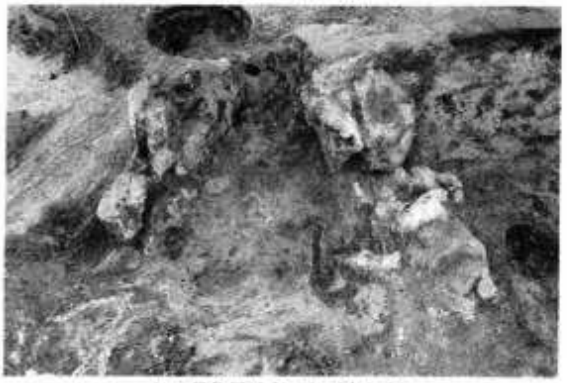
調査区全景（南から）

H１号住居址全景（北から）

H１号住居址掘方（北から）

H２号住居址全景（南から）

H２号住居址カマド（南西から）天井部残存状況



H２号住居址カマド（南から）

H２号住居址掘方（南から）

H３号住居址全景（東から）

H３号住居址羽口出土状況

H３号住居址掘方（東から）

H４号住居址全景（南西から）

H４号住居址カマド火床（南から）

H４号住居址掘方（南西から）

H５号住居址全景（西から）

H５号住居址カマド（南から）

H５号住居址掘方（西から）

Ｍ１号溝跡全景（南から）

Ｄ１号土坑全景（西から）

Ｄ２号土坑全景（南から）

表土除去作業（南西から）

調査風景（東から）

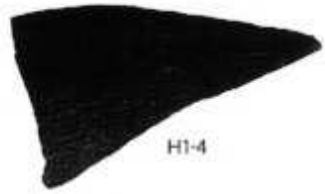
調査風景（北から）

埋め戻し作業（北から）

H1-1

H1-2

H1-3



H1-4

H2-1

H2-2

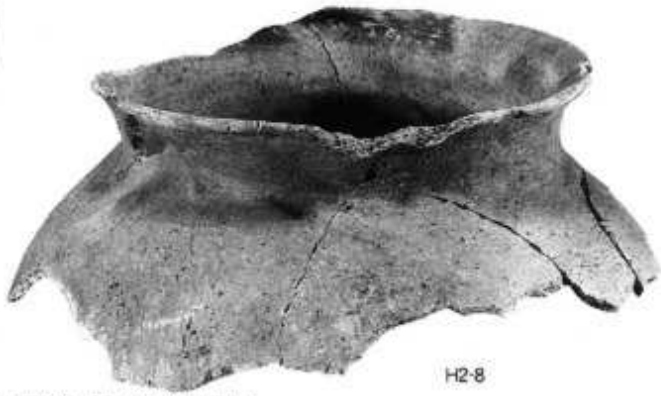
H2-3

H2-4

H2-5

H2-7

H2-6



H2-8

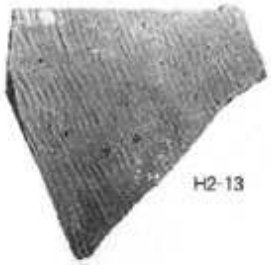
下曽根遺跡Ⅸ　H1・2号住居址遺物

H2-9

H2-10

H2-11

H2-12



H2-13

H2-14

H2-15

H2-16

H2-17

H2-18

下曽根遺跡Ⅸ　H2号住居址遺物（1）

H2-19

H2-20

H2-21

H2-22

H2-23

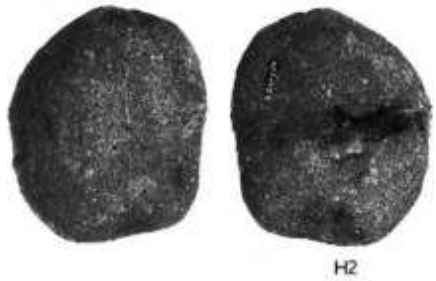
H2

H2-24

H2-25

H2-26

H2



H2

下曽根遺跡Ⅸ　H2号住居址遺物 (2)

H3-1

H3-2

H3-3

H3-4

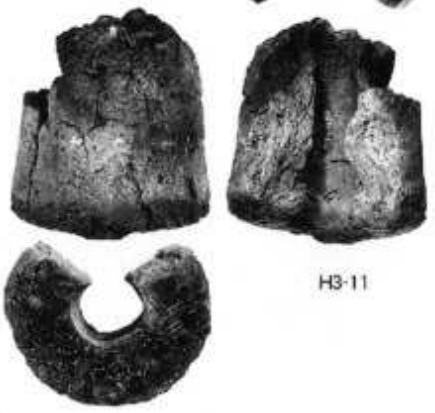
H3-6

H3-7

H3-8

H3-9

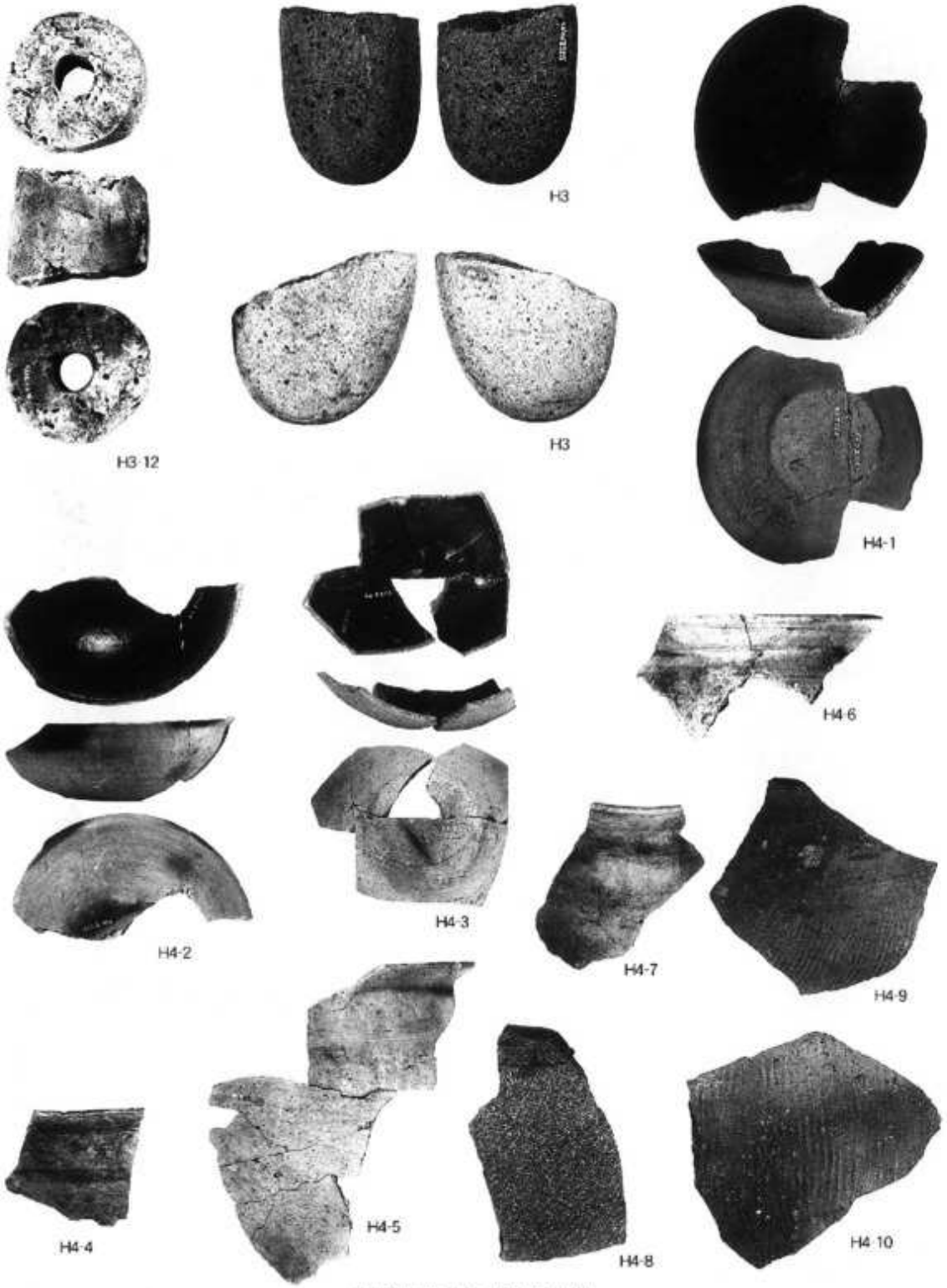
H3-10



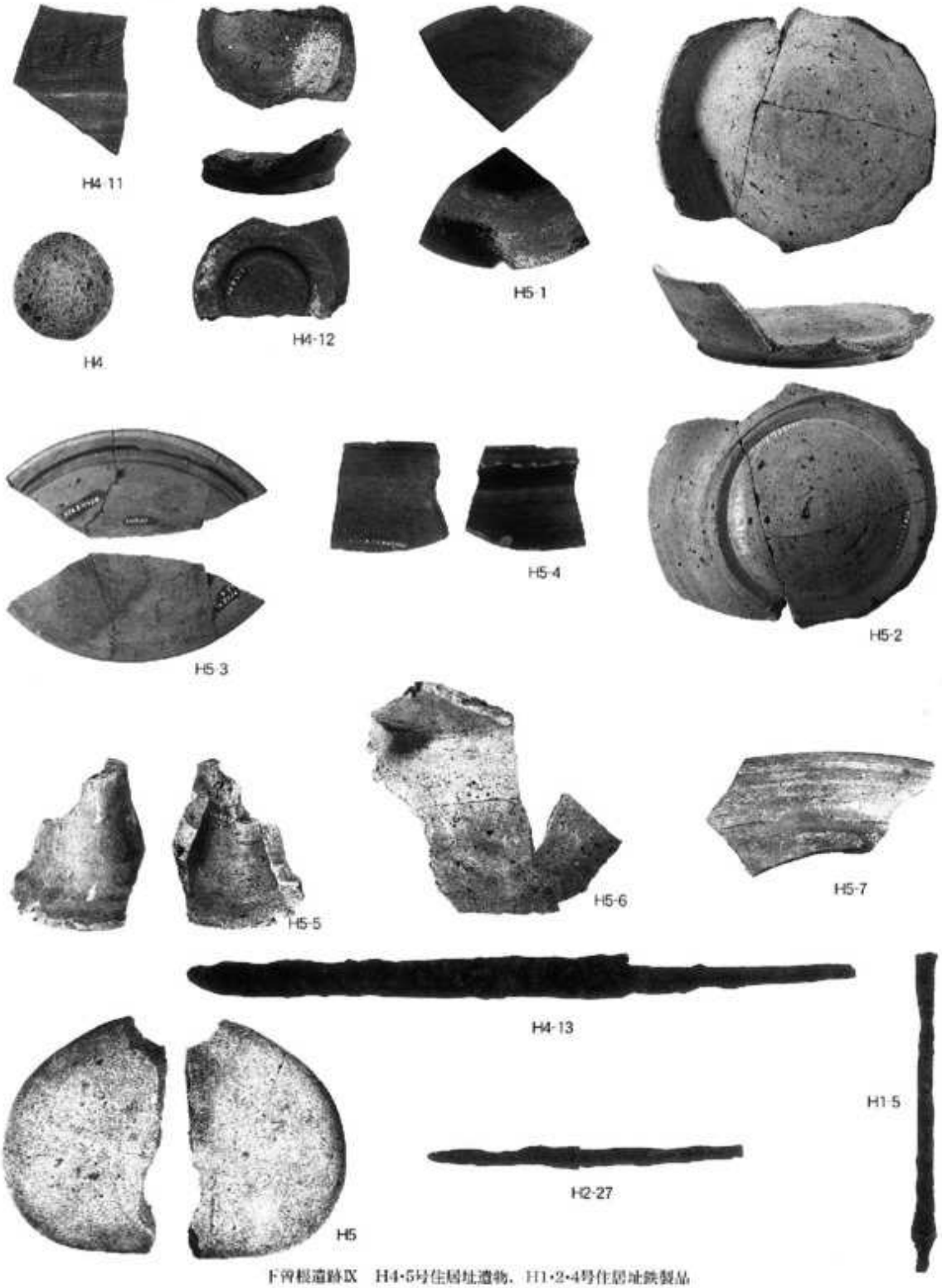
H3-11

H3-5

下曽根遺跡IX　H3号住居址遺物



下曽根遺跡Ⅸ　H3・4号住居址遺物



下神根遺跡IX　H4・5号住居址遺物，H1・2・4号住居址鉄製品

中原遺跡群

梨の木遺跡Ⅴ
調査報告書

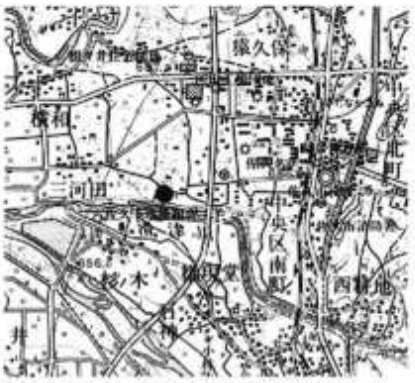
NASHINOKI

長野県佐久市中込・三河田
梨の木遺跡Ⅴ発掘調査報告書

株式会社　アメック
長野県佐久市教育委員会

中原遺跡群　梨の木遺跡Ⅴ

所 在 地　佐久市中込字梨ノ木3776－1
　　三河田字大塚421
調査委託者　株式会社アメック
調査受託者　佐久市教育委員会
開発事業名　宅地造成
調 査 期 間　平成16年５月12日～平成16年５月14日（現場）
調 査 面 積　150㎡
調査担当者　上原　学



梨の木遺跡Ⅴ位置図（１:50,000）

例 言・凡 例

1．本書は、株式会社アメックが行う宅地造成事業に伴い、平成16年度に行った中原遺跡群梨の木遺跡Ⅴの発掘調査報告書である。

2．本書の作成・執筆は上原が行った。

3．本書に係わるすべての資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

4．遺構の略称は以下のとおりである。
　溝跡－M　　土坑－D　　ピット－P

5．スクリーントーンの表示は以下の通りである。
　遺　構　　地山断面

6．挿図の縮尺　　遺　構　　溝跡・土坑・ピット－１／80

7．調査グリッドは公共座標に基づき４×４mに設定。

8．遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。

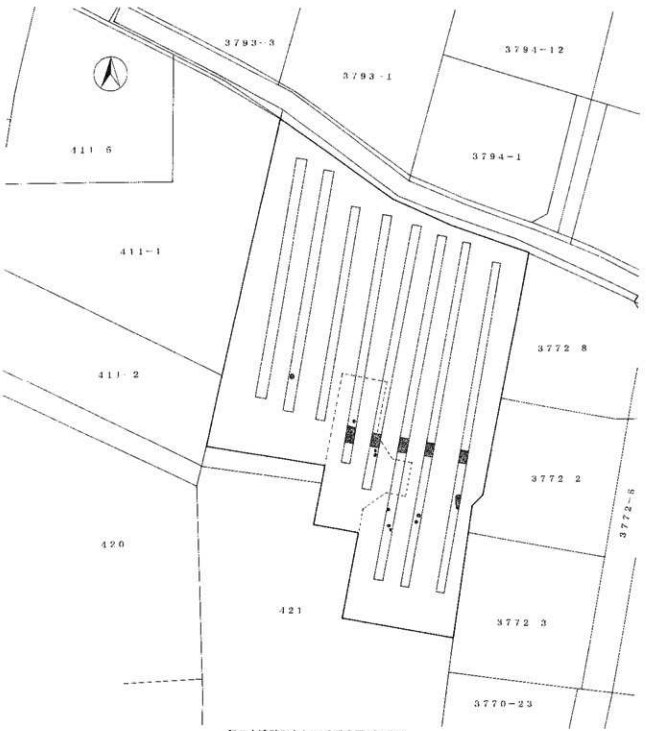
9．土層色調は、農林水産省水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修1987年度版『新版標準土色帖』の表示に基づいた。

立地と経過

中原遺跡群梨の木遺跡は佐久平の中心部、佐久市中込地積に所在し、千曲川の支流である滑津川右岸の切り立った段丘上に立地する。標高は680m内外を測り、滑津川河床との比高差は約30mを測る。遺跡群の南西端には佐久地方最大級の三河田大塚古墳が存在し、付近の遺跡詳細分布調査によると縄文時代から中世の遺物が表面採取されている。周辺の調査としては本遺跡の西側において昭和62・63年に梨の木遺跡Ⅰ・Ⅱの調査が行われ、弥生時代の土坑・溝状遺構、中世から近世の竪穴状遺構・土坑などが確認されている。平成９年には梨の木遺跡Ⅰ・Ⅱの南に隣接する地域において梨の木遺跡Ⅳの調査が行われ、梨の木遺跡Ⅰ・Ⅱ同様に中世から近世と考えられる土坑・ピット・溝跡が確認されている。また、平成８年には道路建設に伴い本調査区の西側段丘端周辺において梨の木遺跡Ⅲの調査が行われ、中世の竪穴状遺構・土坑・ピットなど多くの遺構が確認され、中近世の陶磁器・土製紡錘車・古銭・鉄製品・銅製品

などが出土している。中でもD49号土坑から出土した中津川黒部の壺、和鏡（流水秋草双雀鏡）は特筆すべき遺物である。

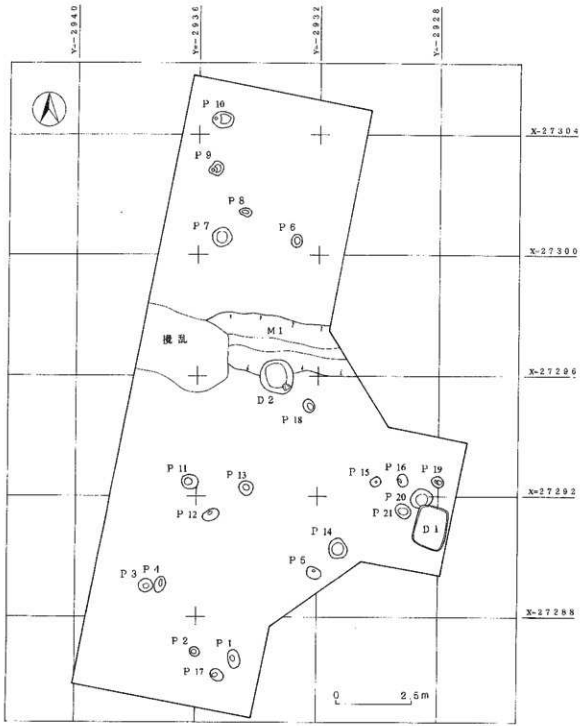
今回、株式会社アメックによる宅地造成事業が計画され、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。その結果、溝跡・土坑・ピットが認められたため、主体者と協議を行い、進入道路地域において確認された遺構の記録保存を目的として、発掘調査を実施する運びとなった。



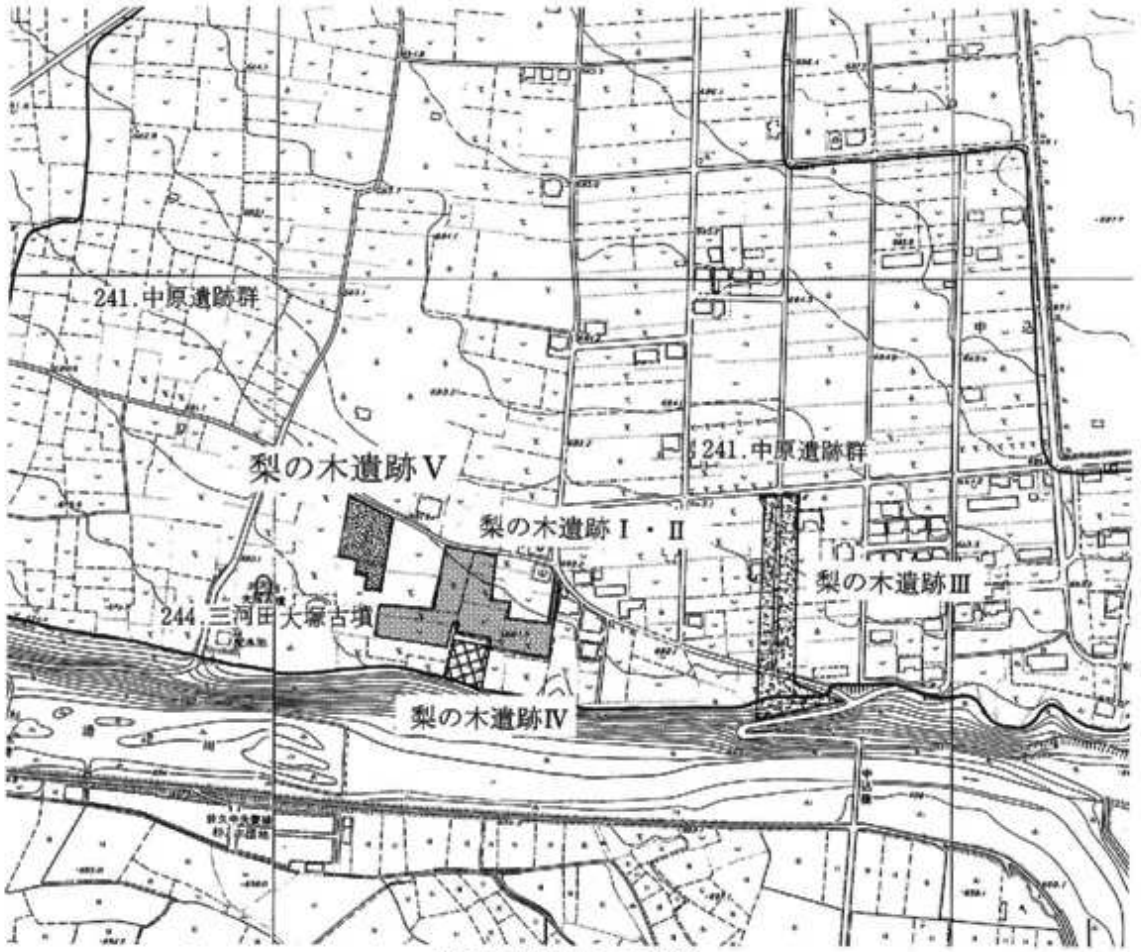
梨の木遺跡Vトレンチ設定図（1:500）

調査遺構

遺	構	溝跡	1条
		土坑	2基
		ピット	21個



梨の木遺跡V調査全体図 (1:125)



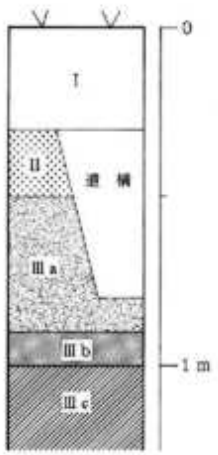
梨の木遺跡Ⅴ位置図（1:5,000）

基本層序

梨の木遺跡を含む三河田地区一帯は、浅間山黒斑火山の噴出物（追分第一軽石流・Ｐ１）が被う地域としては最も南端にあたる。この地域を境にして南側の一段下がった中込・平賀・野沢などの周辺は千曲川の氾濫源沖積地となり、強粘性の安定した土壌が広がる。このため、現在も広い範囲で水田として利用されている。

梨の木遺跡Ⅴの基本層序は上層から表土（耕作土）、黄褐色土ローム、砂層（湯川層）となり、砂層の中間には10cm程度の薄い砂混じりの黄褐色ローム層が認められた。遺構確認面はⅡ層黄褐色土ロームの上面である。

Ⅰ　層　黒褐色土(10YR2／3)
Ⅱ　層　黄褐色土ローム(10YR5／8)
　　火山灰層(上面遺構検出面)
　　径3～30mmの軽石を多量に含む。
Ⅲａ層　褐灰色土(10YR6／1)
　　砂層
Ⅲｂ層　黄褐色土(10YR6／8)
　　ややローム質で砂多く含む。
Ⅲｃ層　褐灰色土(10YR7／1)
　　砂層

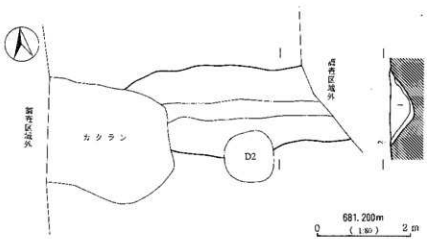


基本層序模式図

遺構と遺物

Ｍ１号溝跡

本遺構は調査区中央付近を東西方向に横断する。試掘調査時には長さ16mを確認し、さらに東西方向に長く続くと思われる。調査区域内の四側３分の１は近年の攪乱に破壊され、調査規模は攪乱を除き長さ４m、確認面上での幅1.6m～1.9m、底幅30cm～40cm、深さは50cm内外を測る。覆土は２層で上層は砂を少量含む黒褐色土で、下層は砂を多く含む暗褐色土である。遺物は出土しなかった。



M1号溝跡実測図

Ｄ１号土坑

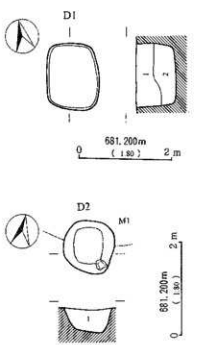
本遺構は調査区東端に位置する。規模は南北1.4m、東西1.1m、深さ80cmを測る。平面形態はやや南北に長い方形である。覆土は２層で上層が砂・軽石を含む暗褐色土、下層が砂を主体とする褐色土である。遺物は出土しなかった。

Ｄ２号土坑

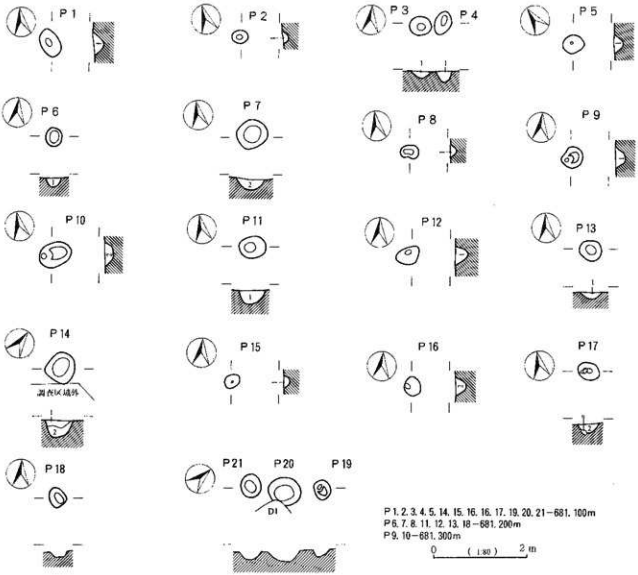
本遺構は調査区中央付近に位置し、Ｍ１号溝跡に切られる。規模は南北1.08m、東西１m、深さ40cmを測り、平面形態はやや南北に長い円形である。覆土は単層の暗褐色土で、10cm～20cm大の石を数個含んでいた。遺物は出土しなかった。

ピット

調査区内から21個のピットを確認した。規模は径30cm～60cmで、深さ20cm～30cmである。形態は円形または楕円形で、覆土は黒褐色土または暗褐色土である。調査地域が狭いこともあり配置の規則性を認めることはできなかった。遺物は出土しなかった。



D1・2号土坑実測図



P1～P21ピット実測図

ま と め

梨の木遺跡Ⅴの調査によって、溝跡1条、土坑2基、ピット21個の調査を行った。いずれの遺構も遺物が出土しなかったことから、時期の確定には至らなかった。周辺の発掘調査状況をみると、東南に近接する梨の木遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅳの調査においても溝跡・土坑・ピットなど本遺跡に類似する遺構が確認されているが時期を確定し得る遺構、遺物は存在していない。しかし、報告書（梨の木遺跡Ⅳ）の中で梨の木遺跡Ⅳ及び梨の木遺跡Ⅰ・Ⅱにおいて確認した土坑について考察し、時期については前田遺跡第一次～第三次調査の中世土坑に類似するとし、性格については江戸時代の墓壙である北西の久保遺跡第2号特殊遺構内C土坑との類似性から墓壙と考え、本遺跡南の段丘端一帯は中世から近世の墓域であった可能性を論じている。また東方の梨の木遺跡Ⅲからも、中世から近世と考えられる竪穴状遺構・土坑・溝跡・ピットが多数確認され、古銭・陶磁器・土鍋・石臼などの遺物が出土している。これら梨の木遺跡Ⅴ周辺の調査状況から、確定はできないが本遺跡において確認した遺構も沼津川に接する台地上に展開する中世から近世にかけての遺跡の一部である可能性が推察される。今後、本遺跡の性格が解明できるよう周辺の発掘調査に期待したい。

試掘状況（北から）右奥に三河田大塚古墳を望む

表土除去作業（南から）

調査風景（北から）

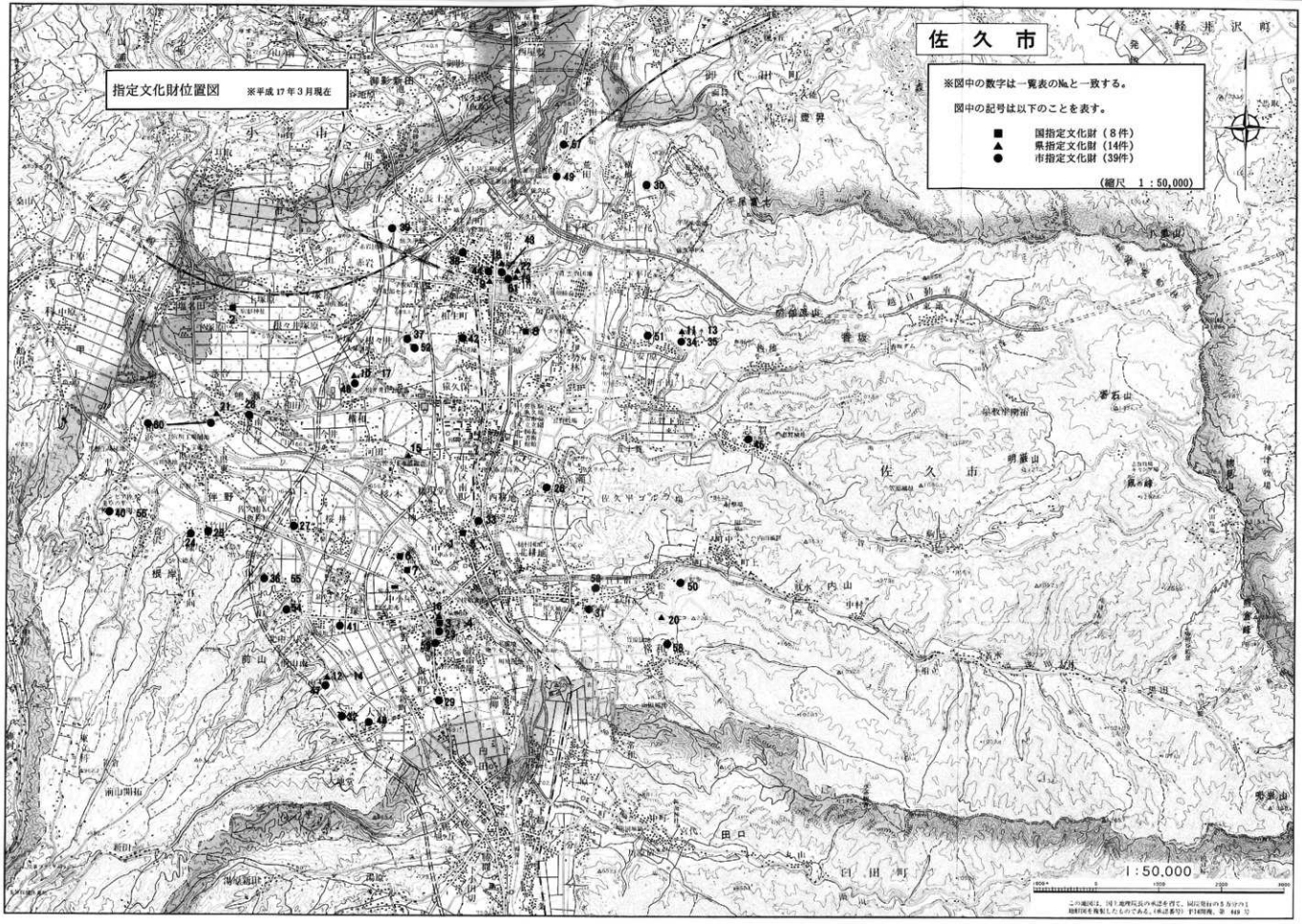
Ｍ１号溝跡全景（南から）

Ｄ１号土坑全景（西から）

Ｄ２号土坑全景（南から）

調査区全景（北西から）

調査区全景（北東から）右奥に三河田大塚古墳を望む


佐久市
指定文化財位置図
※平成17年3月現在
※図中の数字は一覧表の№と一致する。
図中の記号は以下のことを表す。
■ 国指定文化財（8件）
▲ 県指定文化財（14件）
● 市指定文化財（39件）
（縮尺 1：50,000）
軽井沢町
御代田町
小諸市
佐久市
1：50,000

佐久市文化財

年　報　14

2006年3月

編集・発行　佐久市教育委員会
〒385-8501　長野県佐久市中込3056
文化財課
〒385-0006　長野県佐久市志賀595-3
TEL　0267－68－7321
印　刷　所　株式会社　コックス